2022(令和４)年度

リハビリテーション学科

作業療法学専攻

シラバス

■　リハビリテーション学科　作業療法学専攻　目次

教育課程（カリキュラムマップ）　……　4
カリキュラムツリー　……　5

１年生　……　7
１年生　年間予定表　……　8
１年生　シラバス　……　11

開講科目	頁
日本語表現法	11
コミュニケーション論	12
英語Ⅰ	13
英語Ⅱ	14
大学生活論	15
現代の社会	16
心理学概論	17
情報処理	18
生物学	19
物理学	20
健康スポーツ科学	21
解剖学	22
解剖学演習	23
解剖学実習	24
生理学Ⅰ（神経・運動・感覚）	26
生理学Ⅱ（内臓・代謝・血液）	27
生理学実習	28
運動学	30
運動学実習	31

開講科目	頁
人間発達学	33
病理学	34
医学概論	35
社会福祉概論	36
リハビリテーション概論	37
作業療法概論	38
作業科学	39
基礎作業学演習	40
作業療法評価学原論	42
身体機能作業療法評価学実習	43
精神機能作業療法評価学実習	45
作業療法治療学	47
作業療法治療学演習	48
作業療法基礎演習	49
日常生活活動学	50
臨床作業療法演習Ⅰ	51
臨床実習Ⅰ（体験実習）	53
地域リハビリテーション論	54

２年生　……　55
２年生　年間予定表　……　56
２年生　シラバス　……　59

開講科目	頁
歴史と文化	59
暮らしの中の法律	60
運動学演習	61
内科学	62
神経学	63
臨床医学特論	65
小児科学	66
整形外科学総論	67
精神医学総論	68
精神医学各論	69
老年学	70
臨床心理学	71
リハビリテーション栄養学	72
救急救命医学	73
公衆衛生学	74
医療関連法規	75
作業療法理論	76

開講科目	頁
作業療法研究法	77
作業療法管理学	78
疾患別作業療法評価学実習Ⅰ	79
疾患別作業療法評価学実習Ⅱ	81
身体機能作業療法学実習	83
精神機能作業療法学実習	85
病期別作業療法学実習Ⅰ	87
病期別作業療法学実習Ⅱ	89
病期別作業療法学実習Ⅲ	91
作業療法応用演習	93
高次神経障害作業療法学	94
社会生活行為学演習	95
義肢装具学	96
臨床作業療法演習Ⅱ	97
臨床実習Ⅱ（評価実習）	99
職業リハビリテーション論	100

３年生 …… 101
３年生　年間予定表 …… 102
３年生　シラバス …… 105

開講科目	頁
作業療法管理学演習	105
作業療法総合演習	106
臨床作業療法演習Ⅲ	107
臨床実習Ⅲ（総合実習）	108
臨床実習Ⅳ（総合実習）	109

開講科目	頁
地域作業療法実習	110
保健医療福祉連携論	111
専門支持科目特別演習	112
専門展開科目特別演習	114

ナンバリング …… 118
教員一覧 …… 121
実務を有する教員一覧 …… 122
オフィスアワー …… 123

リハビリテーション学科　作業療法学専攻　カリキュラムマップ

学修成果(到達目標)

【基礎力】一般教養並びに各専門分野の基礎的能力
①人間、文化、社会、歴史、科学など、広く学術の基礎を学び人間性を涵養できる。
②人間の尊厳と多様な価値観を理解し、高い倫理観を持って健康を支援できる。

【実践力】各分野の実際の場面に対応できる力
①心身機能および生活上の問題に対して、多面的かつ根拠に基づいた論理的思考のもと課題を解決できる。
②リハビリテーション専門職者として、共感と倫理観に基づいて行動できる。

【人間関係力】専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力
①全ての人を全人的に捉え、理解し、コミュニケーションを図ることができる。
②他者の考えや立場を尊重し、良好な人間関係を築くことができる。

【生涯学習力】生涯にわたって学び、成長できる力
①リハビリテーション専門職者として必要な学修課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に向け取り組むことができる。
②自己の専門領域を学術的に探求できる。

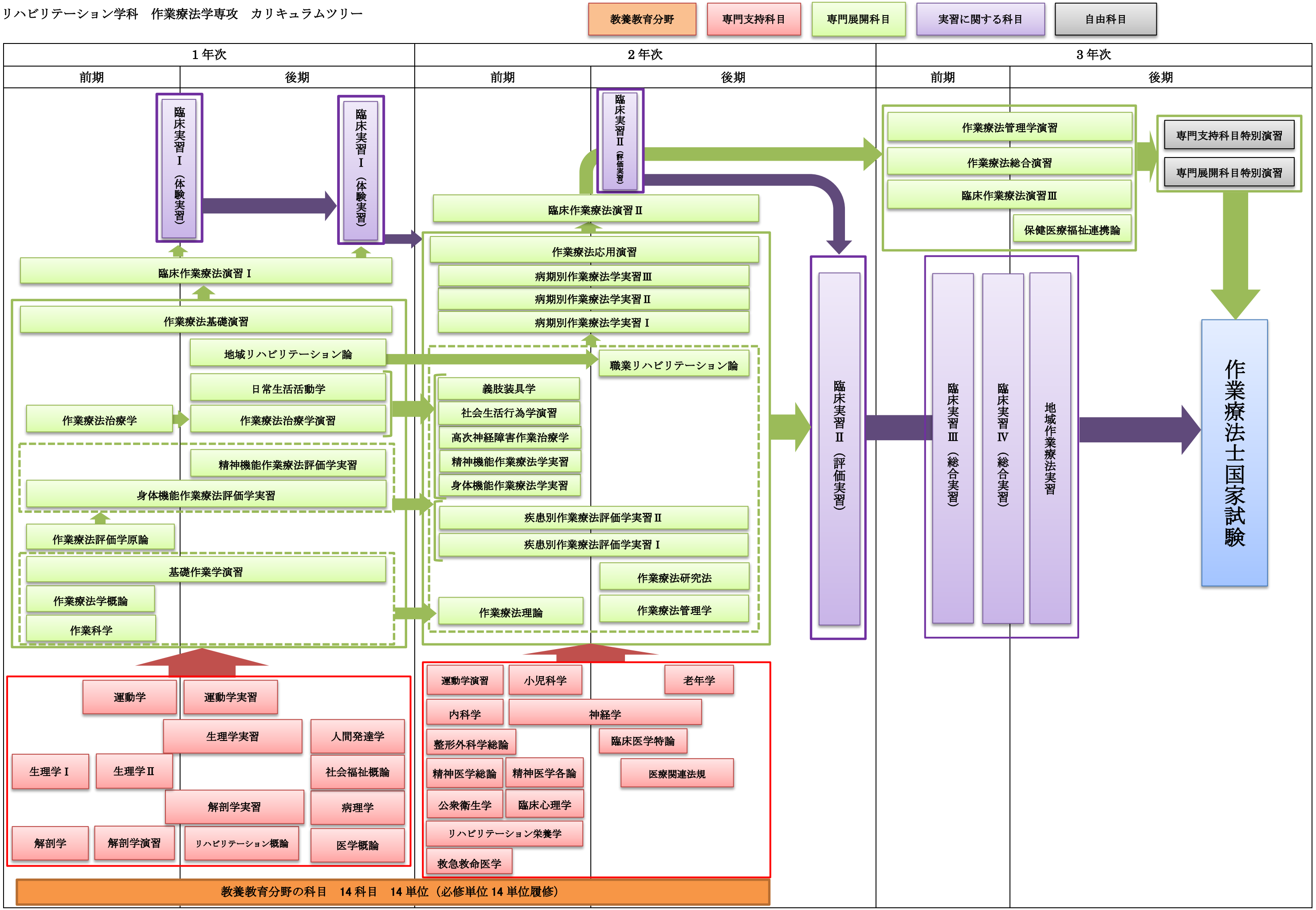
【地域理解力】地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力
①保健、医療、福祉の現場において、リハビリテーション専門職者として専門性と責任を自覚して地域社会に貢献できる。
②医療の進歩や高齢社会を踏まえ、時代や地域のニーズに応えることができる。

学修成果　：　1 基礎力　2 実践力　3 人間関係力　4 生涯学習力　5 地域理解力

学修成果とは、学生がその授業科目で何ができるようになったかを表すものです。
●は、各授業科目が学修成果の1～5のどれに当てはまるかを表すものです。

科目区分			科目名案	授業形態			授業回数	履修年次・学修成果																					単位数	
								1年次						2年次						3年次										
								前期	後期	学修成果				前期	後期	学修成果				前期	後期	学修成果					必修	自由
				講義	演習	実習				1	2	3	4	5			1	2	3	4	5			1	2	3	4	5		
教養教育分野	人間と文化		日本語表現法	○			10	○		●		●	●																1	
			コミュニケーション論	○			15		○	●		●	●																1	
			英語Ⅰ		○		10	○		●																			1	
			英語Ⅱ	○			8	○					●																1	
			歴史と文化	○			10								○		●			●									1	
	人間と社会		大学生活論	○			15	○		●		●	●																1	
			暮らしの中の法律	○			10								○		●			●									1	
			現代の社会	○			10	○		●			●	●															1	
			心理学概論	○			8		○	●		●	●																1	
	人間と科学		情報処理		○		10	○			●		●																1	
			生物学	○			8	○		●																			1	
			物理学	○			8	○		●																			1	
			健康スポーツ科学	○			15	○		●		●	●																2	
専門教育分野	専門支持科目	人体の構造・機能と発達	解剖学	○			15	○		●	●		●																2	
			解剖学演習		○		15	○		●	●		●																1	
			解剖学実習			○	22	○		●	●		●																1	
			生理学Ⅰ(神経・運動・感覚)	○			15	○		●	●		●																2	
			生理学Ⅱ(内臓・代謝・血液)		○		15	○		●	●		●																1	
			生理学実習			○	22	○		●	●		●																1	
			運動学	○			15		○	●	●		●																2	
			運動学演習		○		15								○			●		●									1	
			運動学実習			○	22		○	●	●		●																1	
			人間発達学	○			15		○	●	●		●																1	
		疾病の成り立ちと回復	病理学	○			8		○		●		●																1	
			医学概論	○			15		○		●		●																1	
			内科学	○			15								○			●		●									1	
			神経学	○			30									○		●		●									2	
			臨床医学特論	○			8									○		●		●									1	
			小児科学	○			8								○			●		●									1	
			整形外科学総論	○			15								○			●		●									1	
			精神医学総論	○			15								○			●		●									1	
			精神医学各論	○			15									○		●		●									1	
			老年学	○			8									○		●		●									1	
			臨床心理学	○			15								○			●		●									1	
			リハビリテーション栄養学	○			8								○			●		●									1	
			救急救命医学	○			15								○			●		●									1	
		保健医療福祉とリハビリテーション	公衆衛生学	○			8								○			●		●	●								1	
			社会福祉概論	○			8		○		●		●	●															1	
			医療関連法規	○			8									○		●		●									1	
			リハビリテーション概論	○			15	○			●		●	●															1	
	専門展開科目	基礎作業療法学	作業療法概論	○			15	○		●		●																	1	
			作業科学	○			8	○		●			●																1	
			作業療法理論	○			15								○		●	●		●									1	
			基礎作業学演習		○		30	○			●	●	●																2	
			作業療法研究法	○			15									○	●	●	●	●									1	
		作業療法管理学	作業療法管理学	○			8									○	●		●										1	
			作業療法管理学演習		○		10															○				●	●	●	1	
		作業療法評価学	作業療法評価学原論	○			8	○		●			●																1	
			身体機能作業療法評価学実習			○	22	○			●	●	●																1	
			精神機能作業療法評価学実習			○	22		○		●	●	●																1	
			疾患別作業療法評価学実習Ⅰ			○	22									○		●	●	●									1	
			疾患別作業療法評価学実習Ⅱ			○	22									○		●	●	●									1	
		作業療法治療学	作業療法治療学	○			10	○		●			●																1	
			作業療法治療学演習		○		15		○		●	●	●																1	
			身体機能作業療法学実習			○	22								○			●	●	●									1	
			精神機能作業療法学実習			○	22								○			●	●	●									1	
			病期別作業療法学実習Ⅰ			○	22									○		●	●	●									1	
			病期別作業療法学実習Ⅱ			○	22									○		●	●	●									1	
			病期別作業療法学実習Ⅲ			○	22									○		●	●	●									1	
			作業療法基礎演習		○		15		○	●	●	●	●																1	
			作業療法応用演習		○		15									○	●	●	●	●									1	
			作業療法総合演習		○		15															○		●	●	●	●		1	
			高次神経障害作業療法学		○		15								○			●	●	●									1	
			日常生活活動学	○			15		○	●	●																		1	
			社会生活行為学演習		○		15								○			●	●	●									1	
			義肢装具学		○		15								○			●		●									1	
			臨床作業療法演習Ⅰ		○		30		○	●	●	●	●																2	
			臨床作業療法演習Ⅱ		○		30									○		●	●	●									2	
			臨床作業療法演習Ⅲ		○		15															○			●	●	●		1	
		臨床実習	臨床実習Ⅰ(体験実習)			○			○	●	●	●		●															2	
			臨床実習Ⅱ(評価実習)			○										○	●	●	●	●	●								6	
			臨床実習Ⅲ(総合実習)			○																○		●	●	●	●	●	7	
			臨床実習Ⅳ(総合実習)			○																○		●	●	●	●	●	7	
			地域作業療法実習			○																○		●	●	●	●	●	1	
		地域作業療法	地域リハビリテーション論	○			8		○	●		●		●															1	
			職業リハビリテーション論	○			15									○		●	●	●	●								2	
			保健医療福祉連携論		○		15																○		●	●	●	●	1	
	特別演習		専門支持科目特別演習		○		30															○		●	●	●	●	●		2
			専門展開科目特別演習		○		30															○		●	●	●	●	●		2
卒業要件:104単位																													104	4

リハビリテーション学科　作業療法学専攻　カリキュラムツリー



リハビリテーション学科

作業療法学専攻
１年生

【2022(令和４)年度入学生】

■　年間予定表

■　シラバス

2022(令和4)年度 リハビリテーション学科 作業療法学専攻1年生 年間予定表

前期

	日		月		火		水		木		金		土	
4月	27		28		29		30		31		1		2	
	3		4		5		6	入学式	7		8		9	
	10		11	健康診断	12		13		14		15		16	
	17		18		19		20		21		22		23	
	24		25		26		27		28		29	昭和の日	30	
5月	1		2		3	憲法記念日	4	みどりの日	5	こどもの日	6		7	
	8		9		10		11		12		13		14	
	15		16	臨床実習Ⅰ	17	臨床実習Ⅰ	18	臨床実習Ⅰ	19	臨床実習Ⅰ	20	臨床実習Ⅰ	21	
	22		23		24		25		26		27		28	
	29		30		31		1		2		3		4	
6月	5		6		7		8		9		10		11	
	12		13		14		15		16		17		18	
	19		20		21		22		23		24		25	
	26		27		28		29		30		1		2	
7月	3		4		5		6		7		8		9	
	10		11		12		13		14		15		16	
	17		18	海の日	19		20		21		22		23	
	24		25		26		27		28		29		30	
	31		1		2		3		4		5		6	
8月	7		8	定期試験	9	定期試験	10		11	山の日	12		13	
	14		15		16		17	定期試験	18	定期試験	19	定期試験	20	
	21		22		23		24		25		26		27	
	28		29		30		31		1	再試験	2	再試験	3	
9月	4		5	再試験	6	再試験	7	再試験	8		9		10	
	11		12		13		14		15		16		17	
	18		19	敬老の日	20		21		22		23	秋分の日	24	
	25		26		27		28		29		30		1	

・休講の振替授業日、随時試験・追試験の日程については、LMS又は掲示にて確認してください。
・再試験の日程については、状況に応じて変更になる場合があります。LMS又は掲示にて確認してください。

2022(令和4)年度 リハビリテーション学科 作業療法学専攻1年生 年間予定表

後期

	日		月		火		水		木		金		土	
	25		26		27		28		29		30		1	
10月	2		3		4		5		6		7		8	
	9		10	スポーツの日	11		12		13		14		15	
	16		17		18		19		20		21		22	
	23		24		25		26		27		28		29	せいよう祭
	30		31		1		2		3	文化の日	4		5	
11月	6		7		8		9		10		11		12	
	13		14		15		16		17		18		19	
	20		21		22		23	勤労感謝の日	24		25		26	
	27		28		29		30		1		2		3	
12月	4		5		6		7		8		9		10	
	11		12		13		14		15		16		17	
	18		19		20		21		22		23		24	
	25		26		27		28		29		30		31	
1月	1	元旦	2	振替休日	3		4		5		6		7	
	8		9	成人の日	10		11		12	定期試験	13	定期試験	14	
	15		16	定期試験	17	定期試験	18	定期試験	19	定期試験	20	定期試験	21	
	22		23		24		25		26		27		28	
	29		30		31		1		2		3		4	
2月	5		6	再試験	7	再試験	8	再試験	9	再試験	10	再試験	11	建国記念の日
	12		13		14		15		16		17		18	
	19		20	臨床実習Ⅰ	21	臨床実習Ⅰ	22	臨床実習Ⅰ	23	天皇誕生日	24	臨床実習Ⅰ	25	
	26		27		28		1		2		3		4	
3月	5		6		7		8		9		10		11	
	12		13		14		15		16		17		18	
	19		20	卒業式	21	春分の日	22		23		24		25	
	26		27		28		29		30		31			

・休講の振替授業日、随時試験・追試験の日程については、LMS又は掲示にて確認してください。
・再試験の日程については、状況に応じて変更になる場合があります。LMS又は掲示にて確認してください。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●		●	●	

科目ナンバリング
CO-0-HCU-01

科目名	日本語表現法				単位認定者	吉田　理		評価の方法	試験(筆記)	40　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＰＴ	必修	１年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題等	40　%
	ＯＴ	必修	１年			授業時間数	20　時間		受講態度	20　%
				授業形態	講義	授業回数	10　回			

授業の概要	書き言葉と話し言葉における日本語運用の基本を学び、論理的なコミュニケーションの手段である言語表現を効果的に実現する基礎能力を養う。まず日本語の特徴的な知識について学び、日本語運用の基本を身に付ける。その上で、書き言葉・話し言葉等の様々な表現行為に触れ、自らも表現し、相手に伝わる表現について実践的理解を深める。具体的な場面での適切な表現方法を実際に考えることで、大学や社会で必要となる日本語表現の様々なスキルを獲得することを目指す。
到達目標	医療の現場においては、健康に問題を抱えるさまざまな年代の患者の方々と、日本語という言語を通じてコミュニケーションを図り、患者の方々が何を求めているかを適切に把握し、かつ医療側の方針を適確に伝達しなければならない。この講義では、正確な日本語の使用方法を身につけることができるようになることを目標とする。
学修者への期待等	日本語に興味を持ち、自分の身の回り(周り)で使われている「ことば」に敏感になること。授業をその都度理解し、疑問な点はすぐに解決できるよう、集中して受講のこと。問題演習を通して日本語力(語彙力)を身につけていきましょう。なお、単位認定試験についてはマークシート式による実施を予定している。

回	授業計画	準備学修
1	「日本語表現法」ガイダンス(日本語とは何か)	当日の新聞や雑誌（漫画を除く）に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)
2	日本文の概要：現代文の成り立ち	当日の新聞や雑誌（漫画を除く）に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)
3	日本文の概要：古典と文語文法	当日の新聞や雑誌（漫画を除く）に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)
4	日本文の概要：現代文法	当日の新聞や雑誌（漫画を除く）に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)
5	日本文の概要：現代文法つづき(品詞分類)	当日の新聞や雑誌（漫画を除く）に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)
6	現代文の修辞：原稿用紙の使い方など	当日の新聞や雑誌（漫画を除く）に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)
7	現代文の修辞：表記法(句読点、現代仮名遣い、送り仮名)	当日の新聞や雑誌（漫画を除く）に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)
8	文章の作成：作成要領、手順・構成、推論、推敲 実践：課題文を書く(800字)…主題は当日指示	当日の新聞や雑誌（漫画を除く）に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)
9	課題文返却及び添削指導① 語彙：辞書語彙…漢字と対義語・類義語	当日の新聞や雑誌（漫画を除く）に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)
10	課題文返却及び添削指導② 敬語：種類と働き、尊敬語、謙譲語、丁寧語	当日の新聞や雑誌（漫画を除く）に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)

教科書	「原色シグマ新国語便覧（増補三訂版）」国語教育プロジェクト編著、文英堂
参考文献	「社会人のためのビジュアルカラー国語百科」大修館書店編集部、大修館書店
備考	ＰＴ・ＯＴ合同授業 進捗状況や理解度に応じ、順序や内容を変更する場合がある。また適宜テキストの文学史の部分にも触れていく。授業内課題である課題文（含事後指導）は、単位認定の必須事項として成績に加える(未提出・不参加は認定しない)。受講態度は、出席状況のほか、私語・飲食・電子機器操作・居眠りの禁止等を想定している。なお、受講ノートとして大学ノートを用意すること(ルーズリーフ等は認めない)。また、何らかの事情でオンデマンド講義に切り替わった場合には、試験を中止し課題文のみで評価することもあり得るので心得ておくこと。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●		●	●	

科目ナンバリング
RO-0-HCU-01

科目名	コミュニケーション論				単位認定者	山口　志津枝		評価の方法	試験(筆記)	50　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	１年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題	50　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	コミュニケーションについて広く学び、良好な人間関係を積極的に構築する姿勢や態度を養う。コミュニケーション能力を高めるために、1対1の会話や、ディスカッションでの効果的な意見交換、プレゼンテーションなど、さまざまな状況を想定し、学生生活や社会において求められる言語的なスキル、論理的思考力及び非言語的表現力を養い、相手とのスムーズな相互理解を深める基礎を身につける。
到達目標	1. 対面以外のコミュニケーションの意義を理解し、説明できるようになる。 2. 口頭、書面にて自己表現ができるようになる。 3. 自己理解力を高め、的確な自己紹介ができるようになる。 4. コミュニケーション技能を高め、臨床で実践できるようになる。
学修者への期待等	日本語表現法での学修をよく復習し、授業に臨んでください。

回	授業計画	準備学修
1	授業ガイダンスと科目への導入、コミュニケーションの重要性、文章の基礎知識、リフレーミング技法	文章の基礎を復習しておくこと（１時間程度）
2	マインドマップを用いての自己分析【演習】	自己紹介を考えてくる（30分程度）
3	ジョハリの窓にて自己認識【演習】	前回までの内容を終えておくこと（30分～１時間程度）
4	ノンバーバル・コミュニケーション	前回までの内容を終えておくこと（30分～１時間程度）
5	客観的事実と主観的解釈、結果・結論・考察とは	前回までの内容を終えておくこと（30分～１時間程度）
6	文章の読み方	前回までの内容を終えておくこと（30分～１時間程度）
7	読解力、要約のポイント【グループワーク】	前回までの内容を終えておくこと（30分～１時間程度）
8	文章の書き方（文章構成）	前回までの内容を終えておくこと（30分～１時間程度）
9	手紙の書き方、封筒の書き方【演習】	前回までの内容を終えておくこと（30分～１時間程度）
10	電話の掛け方【演習】	前回までの内容を終えておくこと（30分～１時間程度）
11	実習記録、報告書の書き方	記録、報告書の目的を考えてくる（30分～１時間程度）
12	質問の仕方と返答の仕方	文章の基礎を復習しておくこと（１時間程度）
13	自己紹介カードの作成【演習】	前回までの学修を踏襲し自己紹介を考えてくる（30分程度）
14	自己紹介【発表】	前回までの内容を終えておくこと（30分～１時間程度）
15	その他：マナー研修	

教科書	特になし
参考文献	適宜紹介
備考	授業内課題は指定の期日までに必ず提出してください。授業内課題等のフィードバックは授業時間中に適宜行います。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
CO-0-HCU-02

科目名	英語Ⅰ				単位認定者	タフス　マーク		評価の方法	試験(筆記)	70　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＰＴ	必修	１年	開講時期	前期	単位数	1　単位		受講態度	30　%
	ＯＴ	必修	１年			授業時間数	20　時間			
				授業形態	演習	授業回数	10　回			

授業の概要	日常会話で頻繁に用いられる基本表現を「話し」・「聞く」ことができる力を養い、基礎的な英語コミュニケーション能力を習得させる。また、当該専門職として必要となる語彙や基本表現も身につける。
到達目標	この授業では日常会話に必要とされる基本的な単語と文法について学修し、またそれらを使って対話ができるようになる。また作業療法士に関する簡単な単語を使うことができるようになる。
学修者への期待等	次の授業で学ぶであろうユニットに目を通し、分からない語彙があれば辞書で調べて授業に臨んでください。 毎回辞書を持ってきてください。

回	授業計画	準備学修
1	Nice to meet you　Unit 1 What do you do?　Unit 2　Groupwork	教科書の該当箇所を予習することPages 2,3,7and 12.　(30 minutes)
2	Do you like spicy food? Unit 3 How often do you do yoga? Unit 4　Pairwork	教科書の該当箇所を予習することPages 18 and 26. (30 minutes)
3	What are you watching? Unit 5 Human Body (own material)　Pairwork/Quiz	教科書の該当箇所を予習することPage 32. (30 minutes)
4	Where were you yesterday? Unit 6 Did you have a good time? Unit 11 Pairwork	教科書の該当箇所を予習することPages 38 and 72. (30 minutes)
5	Review of Units 1,2,3,4,5,6 and 11　Minitest	教科書の該当箇所を予習することPage 22. (30 minutes)
6	Which one is cheaper? Unit 7　Pairwork	教科書の該当箇所を予習することPage 46. (30 minutes)
7	What's she like? Unit 8　Pairwork/Quiz	教科書の該当箇所を予習することPage 52. (30 minutes)
8	I'm going to go by car Unit 12　Pairwork	教科書の該当箇所を予習することPage 78. (30 minutes)
9	Introduction to Rehabilitation Vocabulary and Expressions (own materials)　Roleplay	教科書の該当箇所を予習すること
10	Course Review　Minitest	教科書の該当箇所を予習することAll notes. (1 hour)

教科書	「Smart Choice (4/E) Level 1 Student Book with Online Practice」 Ken Wilson、 Oxford University Press
参考文献	
備考	1学年を2クラスに分けて実施する。 授業にはテキスト、ノート、辞書、ファイル（渡されたプリント等を整理できるもの）を持参すること。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
				●	

科目ナンバリング
RO-0-HCU-02

科目名	英語Ⅱ				単位認定者	齋藤　佑樹		評価の方法	試験（レポート）	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	１年	開講時期	前期	単位数	1　単位			
						授業時間数	16　時間			
				授業形態	講義	授業回数	8　回			

授業の概要	日常で一般的に使われている英語文法に加え、医療の現場で使用される英語表現や基本用語を修得し、理学療法、作業療法に関する英文の文献を把握できる基礎読解力を身につける。
到達目標	作業療法士に必要な英単語を習得する。文献（英語論文）の要旨を捉えることができる。
学修者への期待等	グループワーク形式の授業が多くあります。積極的な参加態度を期待します。

回	授業計画	準備学修
1	作業療法で使用する基本的な用語を学ぶ	科目専用ノートを準備すること
2	世界保健機構（WHO)のHPから学ぶ公衆衛生 （講義・グループワーク）	授業内容をノートにまとめること （復習30分程度）
3	世界作業療法連盟（WFOT)のHPから学ぶ作業療法 （講義・グループワーク）	授業内容をノートにまとめること （復習30分程度）
4	英語論文の探し方を学ぶ（講義・グループワーク）	授業内容をノートにまとめること （復習30分程度）
5	英語論文の読み方を学ぶ：アブストラクトで概要を捉える（講義・グループワーク）	授業内容をノートにまとめること （復習30分程度）
6	作業療法を啓蒙する①：カナダ作業療法連盟のHPから作業療法士の活躍事例を調べ、日本語に翻訳してポスターを作成する（グループワーク）。	授業内容をノートにまとめること （復習30分程度）
7	作業療法を啓蒙する②：カナダ作業療法連盟のHPから作業療法士の活躍事例を調べ、日本語に翻訳してポスターを作成する（グループワーク）。	授業内容をノートにまとめること （復習30分程度）
8	作業療法を啓蒙する③：グループ発表会	授業内容をノートにまとめること （復習30分程度）

教科書	特になし
参考文献	適宜紹介します
備考	PCを必ず持参してください。 授業内で使用する資料は、前日までにLMSに投稿します。印刷・PC上での閲覧、どちらでも構いません。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●		●	●	

科目ナンバリング
CO-0-HSO-01

科目名	大学生活論				単位認定者	須藤　あゆみ		評価の方法	授業内課題	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＯＴ	必修	１年	開講時期	通年	単位数	1　単位			
				授業形態	講義	授業時間数	30　時間			
						授業回数	15　回			

授業の概要	大学生活を有意義に送るために必要となる姿勢、知識やスキルを身につける。具体的には、本学・各学科の教育方針の理解、大学での学び方（レポートの書き方、図書館の活用法等）、大学生活の基礎知識（ネット社会の危険、消費者トラブル、交通ルールとマナー等）、健康に関わる知識（睡眠・食生活、ドラッグの危険性、大学生が出会うこころの問題等）を身につける。
到達目標	1. 大学生・社会人としての基本的マナーを身につける。 2. 大学生活を有意義に送るための知識やスキルを身につける。 3. 大学での学びを基盤に、学修の自己管理ができる。
学修者への期待等	大学生活を有意義に送るために設定した科目である。自己の目標を叶えるために、積極的に学ぶことを期待する。さらに多くの仲間をつくり、いろいろな考えに触れてほしい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	学内ガイダンス（本学の教育方針）	科目専用ノートを準備をすること	大和田　宏美
2	大学生活での学び1（カリキュラム）	授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）	齋藤　佑樹
3	大学生活での学び2（交流会1　学生自己紹介）	授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）	須藤　あゆみ
4	大学生活での学び3（交流会2　学生間交流）	授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）	須藤　あゆみ
5	大学生活での学び4（図書館利用　文献検索の仕方）	授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）	阿部　奈津紀
6	大学生活での学び5（授業の受け方　ノートのとり方）	授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）	熊谷　竜太
7	大学生活での学び6（自己学修　予習復習）	授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）	熊谷　竜太
8	大学生活に関わる基礎知識1（学校生活のルール）	授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）	学生総合支援センター 須藤　あゆみ 大橋　孝子
9	大学生活に関わる基礎知識2（新生活での注意点　生活トラブル　交通ルール）	授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）	学生総合支援センター 須藤　あゆみ 大橋　孝子
10	大学生活に関わる基礎知識3（ネットの危険　情報モラル、ハラスメント）	授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）	齋藤　佑樹 熊谷　竜太 森永　雄 大橋　孝子
11	大学生活に関わる基礎知識4（消費者トラブルについて）	授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）	学生総合支援センター 須藤　あゆみ 大橋　孝子
12	健康に関する知識1（睡眠　食生活　ドラッグの危険性）	授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）	学生総合支援センター 須藤　あゆみ 大橋　孝子
13	健康に関する知識2（大学生が出会う心の問題）	授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）	神山　直子
14	健康に関する知識3（感染症対策）	授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）	千葉　由里
15	先輩から学ぶ大学生活	授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）	須藤　あゆみ

教科書	特になし
参考文献	特になし
備考	1、2、8～13回はＰＴ・ＯＴ合同授業です。大学生活論専用のノートを持参し、授業ノートを作成してください。最終授業終了後提出してもらい、採点し返却します。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●			●	●

科目ナンバリング
CO-0-HSO-03

科目名	現代の社会				単位認定者	吉田　理		評価の方法	試験 (レポート)	60　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＰＴ	必修	１年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題等	20　%
	ＯＴ	必修	１年			授業時間数	20　時間		受講態度	20　%
				授業形態	講義	授業回数	10　回			

授業の概要	現代の日本及び世界がどのような構造になっているかについて、経済、政治の視点を主としながら理解する。また、日本社会が抱える諸問題についても考える。現代の社会を生きるために不可欠な基礎知識を身につけ、社会の動向に絶えず関心を持ち続け、社会生活において的確な選択や判断ができるようにする。
到達目標	取り上げるテーマは、いづれも社会人として当然備うるべき常識と考えられる事項である。社会生活自体はもちろんのこと就職活動における面接等でそれらについて問われた際に、概略と自身の考えを述べられるようになることを目標とする。
学修者への期待等	「自立した大人」になるための下地を作ってほしいという観点から、各人の専攻に関わらず社会人として当然知っておくべき事項を取り上げる。一般的な知識を修得し、良き職業人を目指すという意欲をもって受講してほしい。

回	授業計画	準備学修
1	「現代の社会」導入(現代世界概観)	私たちを取り巻く現代社会について、その特徴を列挙し考察すること。当日配信する確認テストに備えること。(30分程度)
2	現代社会の誕生(特に現代日本と大衆社会)	前回の講義内容(「現代の社会」導入)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。 (1時間程度)
3	現代社会の特質(特に生命科学と情報技術)	前回の講義内容(現代社会の誕生)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。 (1時間程度)
4	現代社会と人間の本質(特に自己形成)	前回の講義内容(現代社会の特質)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)
5	日本国憲法の基本的性格(特に社会権・参政権)	前回の講義内容(現代社会と人間の本質)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。 (1時間程度)
6	日本の政治機構と政治参加(特に地方自治と政党政治)	前回の講義内容（憲法の基本的性格）を復習し、当日配信する確認テストに備えること。 (1時間程度)
7	現代の経済社会(特に財政と金融) レポート作成に当たって(説明)	前回の講義内容（日本の政治機構と政治参加）を復習し、当日配信する確認テストに備えること。 (1時間程度)
8	少子高齢化と国民の福祉(その原因と対策、社会保障の概要について)	前回の講義内容（現代の経済社会）を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)
9	消費者問題(消費者問題の歴史、消費者を保護するための制度について)	前回の講義内容（少子高齢化）を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)
10	労働問題(日本の労働事情や労働関係法規・制度、労働格差について) 附.レポート作成に当たって(再度)	前回の講義内容（消費者問題）を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)

教科書	「2022小論文頻出テーマ解説集　現代を知るplus」第一学習社
参考文献	「別冊NHK 100分de名著 読書の学校 特別授業　君たちはどう生きるか」池上彰著（NHK出版(2017)） 各項目について報道している日刊新聞(購読していない場合は各社のweb版でも可。ただし不特定者によるまとめ記事はむしろ不可)
備考	講義は全て遠隔(オンデマンド)で実施するが、板書を中心に進めるのでノートを準備すること。 成績の主は試験の代わりとして課されるレポート作成であり、単位認定の必須事項となる(未提出は認定しない)。 確認テストのうち任意の回は授業内課題として成績に加える。受講態度は、確認テスト解答送信で判断する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●		●	●	

科目ナンバリング
RO-0-HSO-01

科目名	心理学概論				単位認定者	小岩　広平		評価の方法	試験（レポート）	50　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＰＴ	必修	１年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題	50　%
	ＯＴ	必修	１年			授業時間数	16　時間			
				授業形態	講義	授業回数	8　回			

授業の概要	心理学は、行動と心的処理過程の科学である。我々の行動と心的世界は多様であるため、心理学の領域も極めて広汎であり、さまざまなアプローチがある。経験主義に基づく実験心理学を基盤として、知覚、学習と記憶、言語、思考、問題解決等を包括する認知心理学をはじめ、認知発達及び社会発達、パーソナリティー、社会心理学といった主な領域を中心に、心理学全般における理解と基礎知識を習得する。
到達目標	①対人援助をおこなう上で求められる基本的な心理学的知識を幅広く修得することができるようになる。 ②授業で紹介した様々な心理学的知見を日常生活の問題に結び付けて論述できるようになる。
学修者への期待等	単なる知識の修得へ向けた予習復習にとどまらず、なるほど、なんでなんだろうといった知的好奇心を持って講義に出席すること、日常生活に引き寄せて考えることを強く望む。

回	授業計画	準備学修
1	様々な心理学の分野について概説	配付する資料（心理学とは？）の復習（概ね30分）及び問題への解答の提出
2	動機付け理論	配付する資料（動機付け）の復習（概ね30分）及び問題への解答の提出
3	記憶・学習　記憶の仕組みと変容	配付する資料（記憶）の復習（概ね30分）及び問題への解答の提出
4	発達	配付する資料（発達）の復習（概ね30分）及び問題への解答の提出
5	パーソナリティと性格　類型論、性格検査	配付する資料（パーソナリティ理論）の復習（概ね30分）及び問題への解答の提出
6	社会心理学：集団	配付する資料（社会心理学：集団）の復習（概ね30分）及び問題への解答の提出
7	社会心理学：攻撃	配付する資料（社会心理学：攻撃）の復習（概ね30分）及び問題への解答の提出
8	カウンセリング入門	配付する資料（カウンセリング入門）の復習（概ね30分）及び問題への解答の提出

教科書	特に指定しない
参考文献	特に指定しない
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。授業内課題のフィードバックは次回以降の講義で行います。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
CO-0-HSC-01

科目名	情報処理				単位認定者	佐々　順子		評価の方法	授業内課題	30 %
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	１年	開講時期	前期	単位数	1　単位		試験 (レポート)	40 %
						授業時間数	20　時間		受講態度	30 %
				授業形態	演習	授業回数	10　回			

授業の概要	現代のコミュニケーションツールとして重要な位置を占めるパソコンを用いて、文書作成やデータ処理など情報伝達・発信方法の基礎を学ぶ。加えて、パソコンをコミュニケーションツール、ビジネスツールとして活用する能力を養う。また、パソコンを使う者のマナー、情報保護の意識等も学習する。
到達目標	コンピュータの基本操作を習得し、一般的な業務に通用するWord・Excel・PowerPointの操作スキルを身につけることを目標とする。 Word：基本的なビジネス文書の作成、表現効果を上げる表や画像を使用した文書の作成。 Excel：数式、グラフを含む表計算ソフトの基本操作と応用的な機能の習得。 PowerPoint：プレゼンテーションソフトの基本操作と一般的なスライドの作成。
学修者への期待等	コンピュータの基本的な操作技術とともに、利用上のマナーや注意点などを含むコンピュータ・リテラシーを身につけることを目標にしていただきたい。コンピュータ操作経験者も基本事項の再確認や、これまで自己流で感覚的に行っていた部分を正確な知識・技能に高準化するための見直しとして意欲的に臨むこと。また、相談や操作がわからない者への助言など、受講者間での協調によるスキルアップも大切にしていただきたい。 欠席や遅刻をせず、１回１回の授業に積極性を持って「参加」すること。

回	授業計画	準備学修
1	コンピュータを使用するうえでのマナー・情報の保護 コンピュータの基本知識・画面の操作 LMSの使用	・各授業で学んだ操作内容を復習し、次回までに確実に操作できるようにしておく。 ・授業時間内に完成しなかった課題は次回授業までに完成させる。 ・マウス操作、タッチパッド操作、キー操作、タイピングに自信がない者は、授業時間以外での自主練習を行う。（概ね30分）
2	Word：Wordの起動と基本操作・文書の作成と印刷 ページ設定・ファイルの保存・表の作成１	
3	Word：表の作成２・クリップアートやワードアートの使用による表現力アップ１	
4	Word：クリップアートやワードアートの使用による表現力アップ２	
5	PowerPoint：プレゼンテーションの操作と作成	
6	PowerPoint：効果的なプレゼンテーションの作成	
7	Excel：Excelの基本操作と表作成（関数の使用、罫線や塗りつぶし、セルの書式設定）・ブックの保存	
8	Excel：表の印刷設定・相対参照と絶対参照の設定	
9	Excel：色々な数式の使用・さまざまな関数の使用１	
10	Excel：さまざまな関数の使用２・グラフ作成	

教科書	「30時間アカデミック　Office2019　Windows 10対応」実教出版
参考文献	授業内容に応じてプリント配付（配付プリントはすべてファイリングすること。）
備考	あらかじめＰＣの充電を済ませて授業に参加する。（授業中に充電を行わない。） データ形式で提出した授業内課題をレポートとして評価する場合あり。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
RO-0-HSC-01

科目名	生物学				単位認定者	石澤　公明		評価の方法	試験(筆記)	60　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＰＴ	必修	１年	開講時期	前期	単位数	１　単位		授業内課題 (レポート)	10　%
	ＯＴ	必修	１年	授業形態	講義	授業時間数	16　時間		受講態度 （毎回の授業内課題を含む）	30　%
						授業回数	８　回			

授業の概要	生命現象、生命の尊厳、生物の多様性と、生命現象の普遍性を学ぶことにより、ヒトの存在への理解を深める。理学療法士・作業療法士の専門科目を理解するための基礎知識を習得する。
到達目標	生命の尊厳を深く認識する社会人として、生物学の教養を深めるとともに、理学療法士・作業療法士としての専門・臨床科目における生物学の原理を理解できるようになる。
学修者への期待等	ビデオ講義の内容で理解が難しかった点や改善してほしい点があれば、オンライン上で質問として記述してほしい。

回	授業計画	準備学修
1	生物とは？	配付する資料（生物とは？）の復習（概ね30分）及び問題への解答の提出
2	細胞Ⅰ(構造と機能)	配付する資料（細胞Ⅰ「構造と機能」）の復習（概ね30分）及び問題への解答の提出
3	細胞Ⅱ(増殖と分化)	配付する資料（細胞Ⅱ「増殖と分化」）の復習（概ね30分）及び問題への解答の提出
4	細胞Ⅲ(物質交換)	配付する資料(細胞Ⅲ「物質交換」)の復習（概ね30分）及び問題への解答の提出
5	生体のエネルギーと代謝	配付する資料（生体のエネルギーと代謝）の復習（概ね30分）及び問題への解答の提出
6	環境応答と神経伝達	配付する資料（環境応答と神経伝達）の復習（概ね30分）及び問題への解答の提出
7	遺伝	配付する資料（遺伝）の復習（概ね30分）及び問題への解答の提出
8	遺伝情報の発現	配付する資料（遺伝情報の発現）の復習（概ね30分）及び問題への解答の提出

教科書	毎回の講義資料
参考文献	「解剖生理や生化学を学ぶ前の楽しくわかる生物・化学・物理」岡田隆夫著　羊土社
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。 授業内課題（レポート）は、最初の講義で課題を提示し、授業期間内の指定された期日までに紙媒体で提出してもらいます。A4レポート用紙一枚。そのフィードバックは、最後の講義で行います。 上記レポート課題とは別に、授業内課題を毎回出題します。この課題に対する解答は、LMSで提出してください。その課題の解答等のフィードバックは次回以降の講義中において行います。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
R0-0-HSC-02

科目名	物理学				単位認定者	菊池　康夫		評価の方法	試験(筆記)	80　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＰＴ	必修	１年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題 (小テスト)	20　%
	ＯＴ	必修	１年			授業時間数	16　時間			
				授業形態	講義	授業回数	8　回			

授業の概要	人体の動きから人体内部の生命現象まで、物質が関与する現象はすべて物理学の原理に従っている。また医療現場では多くの医療機器が使われている。物理の基礎から人体と力学、人体と流体、熱、音や光、電気と磁力、原子と放射線等、直接医療に関わる物理学の基礎を中心に人体と物理学の関係について学修する。
到達目標	他の科目で学ぶ人体の構造や動きを物理学の基礎原理に基づいて理解し、わかりやすく説明し、応用できるようになる。リハビリテーションの現場で活躍する専門職者として常識というべき物理学全般の基礎的な教養と知識を身につけることができる。さらに、様々な医療機器の動作原理を理解する能力を身につけ、病気の治療や健康増進の支援に役立てることができるようになる。
学修者への期待等	リハビリテーションの各科目を学ぶ上で基礎となる内容である。講義で使用する図表はまとめて講義資料として配付する。講義を聞きながら資料の重要箇所にマークやメモを記入してほしい。講義後にはメモを整理して説明を補っておくとあとで見ても理解できる自分自身の資料になる。この過程で講義内容の理解度が格段に高まる。毎回の講義の後半では内容の理解度を確かめる小テストを行う。答案は採点して返却するので講義内容の理解に役立ててほしい。正解は次回の講義で解説し講義資料にも記載する。さらに、練習問題として基礎的なものから国家試験レベルのものまでを適宜出題し、次回に解説するので積極的に取り組んで応用力を一層深めてほしい。

回		準備学修
1	「物理学の基礎」　物理量と単位系、有効数字、他	教科書　（第1章　測定と医療機器）p1～5を読む（概ね1時間程度）
2	「人体と力学」(1)　静止している物体の力学 運動している物体の力学	教科書　（第2章　力学と人体）p8～22を読む（概ね1時間程度）
3	「人体と力学」(2)　人体の力学、医療機器と力学	教科書　（第2章　力学と人体）p22～31を読む（概ね1時間程度）
4	「流体と人体」　静止流体の力学、流体と医療、他	教科書　（第3章　流体と人体）p33～42、 p46～52を読む（概ね1時間程度）
5	「熱と体温」　熱と温度、体温調節の仕組み、他	教科書　（第4章　熱と体温）p53～72を読む（概ね1時間程度）
6	「音と光と人体」　音と光の性質、医療への応用	教科書　（第5章　音と光と人体）p73～87を読む（概ね1時間程度）
7	「電気と磁気」　電気・磁気の基礎と医療への応用	教科書　（第6章　電気と磁気の世界）p89～107を読む（概ね1時間程度）
8	「原子力と放射線」　医学における放射線、他	教科書（第7章　原子と放射線）　p109～128を読む（概ね1時間程度）

教科書	「医療系のための物理　第２版」佐藤幸一・藤城敏幸著、東京教学社
参考文献	授業の中で適宜紹介する。
備考	1学年を2クラスに分けて実施する。 授業内課題(小テスト）の正解は次回の講義で解説し講義資料にも記載する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●		●	●	

科目ナンバリング
RO-0-HSC-03

科目名	健康スポーツ科学				単位認定者	小関　友記		評価の方法	試験(筆記)	40　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＰＴ	必修	１年	開講時期	前期	単位数	2　単位		授業内課題（レポート）	40　%
	ＯＴ	必修	１年			授業時間数	30　時間		受講態度	20　%
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	健康であることは生活の質を上げるために不可欠な要素である。その健康を維持するために食生活とスポーツの重要性を説き、それを科学的に検証する。運動を通して健康増進や体力増進等を行う知識と方法に関して、具体的なデータ等を使いながら学んでいく。また、生活習慣病と運動及び食生活の関係、疾病の状態や健康の状態、加齢による体力の衰えなどによる運動の選択などに関しても具体的に学んでいく。
到達目標	健康と運動・スポーツについて理解し、生涯にわたっての運動・スポーツを取り入れた生活が、健康の維持・増進にとっていかに重要であるかを理解し、自発的、積極的な運動・スポーツ実践や運動・スポーツ指導につなげることができるようになる。障がい者の特性を理解し、可能なスポーツ活動を提案できるようになる。
学修者への期待等	今後学修する基礎医学や理学療法・作業療法の基礎となる科目です。 予習・復習を期待します。

回	授業計画	準備学修	担当
1	健康の定義、成り立ち、モデルについて -講義内容のグループワーク、レポート作成-	教科書の項目（健康であるとはどういうことか？）を事前に読む。（概ね30分程度）	小関　友記
2	生活習慣と健康について -講義内容のグループワーク、レポート作成-	教科書の項目（生活習慣と健康）を事前に読む。（概ね30分程度）	熊谷　竜太
3	心の健康とは？　心の病について -講義内容のグループワーク、レポート作成-	教科書の項目（心の健康とは？）を事前に読む。（概ね30分程度）	熊谷　竜太
4	ストレスと健康の関連性 -講義内容のグループワーク、レポート作成-	教科書の項目（ストレスと健康）を事前に読む。（概ね30分程度）	小関　友記
5	体力の概念、構成要素 -講義内容のグループワーク、レポート作成-	教科書の項目（体力とは何か？、大学生の体力、体力の測定と評価方法、身体を知る、発育・発達）を事前に読む。（概ね30分程度）	小関　友記
6	なぜ運動が必要か？、運動の実際・効果 -講義内容のグループワーク、レポート作成-	教科書の項目（運動の意味を考える、運動の実際）を事前に読む。（概ね30分程度）	熊谷　竜太
7	スポーツの概念、構成要素 -講義内容のグループワーク、レポート作成-	教科書の項目（スポーツの役割、スポーツの変遷、スポーツとマナー、スポーツとパーソナリティ）を事前に読む。（概ね30分程度）	小関　友記
8	障がい者の特性を知る -グループワーク-	グループに分かれ、与えられる障がい者の症例を理解・調査し、次回からの障がい者スポーツ企画につなげる。（グループディスカッション）	小関　友記 熊谷　竜太
9	障がい者スポーツの企画立案 -グループワーク-	HOKUTO SPORTS SQUARE（体育館）にて、企画した障がい者スポーツを実践しつつ現実的なものに修正していく。（グループディスカッション）	小関　友記 熊谷　竜太
10	企画立案した障がい者スポーツの修正 -グループワーク-		小関　友記 熊谷　竜太
11	企画立案した障がい者スポーツのまとめ -グループワーク、プレゼンテーションの準備-	企画した障害者スポーツのプレゼンテーションの準備を行う	小関　友記 熊谷　竜太
12	障がい者スポーツの実行準備 -グループワーク-	HOKUTO SPORTS SQUARE（体育館）にて、企画した障がい者スポーツを他の学生にその必要性や機能への影響をを説明するプレゼンテーションを実施する。また実行しながらリスクやその管理を確認する。	小関　友記 熊谷　竜太
13	障がい者スポーツの提案・説明 -グループワーク、プレゼンテーション-		小関　友記 熊谷　竜太
14	障がい者スポーツの実行と管理 -グループワーク、スライド作成-	実施した障がい者スポーツの発表用スライドを作成する。	小関　友記 熊谷　竜太
15	企画・実行した障害者スポーツの発表 -スライド発表-	企画実行した障がい者スポーツについて、スライドや動画にまとめ、7分程度で発表する。	小関　友記 熊谷　竜太

教科書	「大学生の健康スポーツ科学」大学生の健康スポーツ科学研究会著、道和書院
参考文献	特になし
備考	ＰＴ・ＯＴ合同授業 必要に応じて、LMS上に参考資料をアップロードします。また、レポート提出もLMS上で実施しますので、講義時には必ずPCを持参して下さい。授業内課題のフィードバック：次週に実施。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
RO-1-BSF-01

科目名	解剖学				単位認定者	山口　志津枝		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	１年	開講時期	前期	単位数	2　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	解剖学は、人体の構造と機能を理解する学問であり医学の基礎となっている。 身体内部の臓器は、骨格と密接な位置関係で配置されており、身体を切り開くことなく、体表から臓器の位置を知ることができる。 本講義では、人体の構造を理解するために、運動器系の基本となる骨・筋の名称、筋の起始・停止、筋の作用や支配神経について学修する。
到達目標	１．各骨の部位の名称と特徴を説明できるようになる。 ２．全身の関節名が言えるようになる。 ３．四肢、体幹、頸部の筋の名称と形状が説明できるようになる。 ４．四肢、体幹、頸部の筋の起始停止が言えるようになる。
学修者への期待等	解剖学は医学の基礎であるため、単元ごとに到達度を確認し、不明な点を残さないよう学修してください。

回	授業計画	準備学修
1	授業ガイダンスと解剖学への導入、学修の進め方 解剖学的用語	教科書に目を通し、一通りの内容を確認しておくこと（１時間程度）
2	肩甲帯・上腕の骨の名称・特徴、関節名	教科書の指定ページを事前に読んでおくこと（30分～１時間程度）
3	前腕・手部の骨の名称・特徴、関節名	教科書の指定ページを事前に読んでおくこと（30分～１時間程度）
4	骨盤・大腿の骨の名称・特徴、関節名	教科書の指定ページを事前に読んでおくこと（30分～１時間程度）
5	下腿・足部の骨の名称・特徴、関節名	教科書の指定ページを事前に読んでおくこと（30分～１時間程度）
6	脊柱の骨の名称・特徴、関節名	教科書の指定ページを事前に読んでおくこと（30分～１時間程度）
7	頭蓋の骨の名称・特徴、関節名	教科書の指定ページを事前に読んでおくこと（30分～１時間程度）
8	解剖学総論：筋系序論（筋組織、運動）	教科書の指定ページを事前に読んでおくこと（30分～１時間程度）
9	肩甲帯・肩関節周囲の筋	教科書の指定ページを事前に読んでおくこと（30分～１時間程度）
10	肩関節・肘関節周囲の筋	教科書の指定ページを事前に読んでおくこと（30分～１時間程度）
11	前腕・手関節周囲の筋	教科書の指定ページを事前に読んでおくこと（30分～１時間程度）
12	殿部・股関節周囲の筋	教科書の指定ページを事前に読んでおくこと（30分～１時間程度）
13	股関節・膝関節・足関節周囲の筋	教科書の指定ページを事前に読んでおくこと（30分～１時間程度）
14	体幹の筋	教科書の指定ページを事前に読んでおくこと（30分～１時間程度）
15	頭部・顔面・頸部の筋	教科書の指定ページを事前に読んでおくこと（30分～１時間程度）

教科書	「分冊 解剖学アトラスⅠ第6版」W. Platzer著、文光堂 「分冊 解剖学アトラスⅡ第6版」W. Platzer著、文光堂 「分冊 解剖学アトラスⅢ第6版」W. Platzer著、文光堂
参考文献	「グレイ解剖学　原著第3版」塩田浩平訳、エルゼビア・ジャパン株式会社 「図解　四肢と脊椎の診かた」S.Hoppenfeld著、野島元雄監訳、医歯薬出版株式会社 「人体の構造と機能」エレインＮ.マリーブ著、第4版　医学書院 「解剖学トレーニングノート」竹内修二著、第5版　医学教育出版社
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
総合病院にて作業療法の臨床・教育・研究に長年従事してきた。作業療法対象者の状態把握から治療のための基礎としてはもちろん、臨床実習指導者として学生教育を通し見聞を深めてきた。この経験をもとに講義を担当する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
RO-1-BSF-02

科目名	解剖学演習				単位認定者	山口　志津枝		評価の方法	試験(筆記)	50　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	１年	開講時期	前期	単位数	１　単位		授業内課題	50　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	演習	授業回数	15　回			

授業の概要	解剖学演習では、理学療法・作業療法と関わりが深い、運動器系の人体の構造を理解するために、骨の名称、筋の名称、筋の起始・停止、筋の作用や支配神経について骨と筋の模型を用いて学修する。
到達目標	１．各骨と関節の位置関係が説明できるようになる。 ２．関節と運動の関係性が説明できるようになる。 ３．四肢、体幹、頸部の筋の位置関係が説明できるようになる。 ４．四肢、体幹、頸部の筋と運動の関係性が説明できるようになる。
学修者への期待等	骨模型や筋模型を用いて、骨、筋、靭帯などの位置関係と関係性を修得する科目です。解剖学で学修した知識を復習しながら進めてください。

回	授業計画	準備学修
1	解剖学総論：骨格系序論（軟骨、骨組織、関節）	解剖学を学ぶ意義を考えておくこと（30分程度）
2	肩甲帯・上腕の骨の特徴【演習】	骨の特徴を列挙できるように学修しておくこと（30～１時間程度）
3	前腕・手部の骨の特徴【演習】	前回までの課題を終えておくこと、骨の特徴を列挙できるよう学修しておくこと（30分～１時間程度）
4	骨盤・大腿の骨の特徴【演習】	前回までの課題を終えておくこと、骨の特徴を列挙できるよう学修しておくこと（30分～１時間程度）
5	下腿・足部の骨の特徴【演習】	前回までの課題を終えておくこと、骨の特徴を列挙できるよう学修しておくこと（30分～１時間程度）
6	脊柱の骨の特徴【演習】	前回までの課題を終えておくこと、骨の特徴を列挙できるよう学修しておくこと（30分～１時間程度）
7	頭蓋の骨の特徴【演習】	前回までの課題を終えておくこと、骨の特徴を列挙できるよう学修しておくこと（30分～１時間程度）
8	解剖学総論：筋系序論（筋組織、運動）	各関節の運動方向を調べておくこと（30分程度）
9	肩甲帯・肩関節周囲の筋【演習】	筋の特徴を列挙できるよう学修しておくこと（30～１時間程度）
10	肩関節・肘関節周囲の筋【演習】	前回までの課題を終えておくこと、筋の特徴を列挙できるよう学修しておくこと（30分～１時間程度）
11	前腕・手関節周囲の筋【演習】	前回までの課題を終えておくこと、筋の特徴を列挙できるよう学修しておくこと（30分～１時間程度）
12	殿部・股関節周囲の筋【演習】	前回までの課題を終えておくこと、筋の特徴を列挙できるよう学修しておくこと（30分～１時間程度）
13	股関節・膝関節・足関節周囲の筋【演習】	前回までの課題を終えておくこと、筋の特徴を列挙できるよう学修しておくこと（30分～１時間程度）
14	体幹の筋【演習】	前回までの課題を終えておくこと、筋の特徴を列挙できるよう学修しておくこと（30分～１時間程度）
15	頭部・顔面・頸部の筋【演習】	前回までの課題を終えておくこと、筋の特徴を列挙できるよう学修しておくこと（30分～１時間程度）

教科書	「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系 第3版」板井健雄・松村譲兒監訳、医学書院
参考文献	「グレイ解剖学　原著第3版」塩田浩平訳、エルゼビア・ジャパン株式会社 「図解　四肢と脊椎の診かた」S.Hoppenfeld著、野島元雄監訳、医歯薬出版株式会社 「人体の構造と機能」エレインN.マリーブ著、第4版　医学書院 「解剖学トレーニングノート」竹内修二著、第5版　医学教育出版社
備考	授業でスケッチブック、色鉛筆を使用しますので、毎回持参してください。 授業内課題はスケッチブックの提出です。スケッチブックは、確認後返却します。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
総合病院にて作業療法の臨床・教育・研究に長年従事してきた。作業療法対象者の状態把握から治療のための基礎としてはもちろん、臨床実習指導者として学生教育を通し見聞を深めてきた。この経験をもとに講義を担当する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
RO-1-BSF-03

科目名	解剖学実習				単位認定者	戸田　祐子		評価の方法	試験(筆記)	40　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	１年	開講時期	通年	単位数	1　単位		授業内課題	60　%
						授業時間数	44　時間			
				授業形態	実習	授業回数	22　回			

授業の概要	理学療法・作業療法における検査・測定および治療を実施するにあたり、体表から骨、関節、靭帯、筋、腱、神経、血管等の身体組織の触診を行えることは必要不可欠な技術である。 解剖学実習では、各組織の名称、筋の走行などの基本的な体表解剖学の確認を行うとともに、各部位ごとに触診する技術を学修する。 また、人体解剖見学実習では、御献体をとおして人体の構造を立体的に捉え、生命の尊厳を理解し、医療従事者としての自覚と倫理観を身につけることができるよう学修していく。
到達目標	１.骨の形状を理解し、体表から骨指標を触診できるようになる。 ２.筋の起始・停止と形状を理解し、体表から筋、靭帯を触診できるようになる。 ３.体表から触れることのできる血管の走行を理解し、脈拍を触診することができるようになる。 ４.常に復習を行うと共に、必要に応じて自ら助言を求めるようにし、不明な点を作らないようにする。 ５.対象者に対し、愛護的精神を持って実技を行うことができるようになる。
学修者への期待等	実技中心の授業であるため、必ず実技の準備をしておいてください。学修が進むよう、それぞれの骨・靭帯・筋の名称と構造の復習をして授業に臨んで下さい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	授業ガイダンスと触診技術への導入、学修の進め方、血管の触診	実技の心構えと服装、姿勢を考え、準備しておくこと。（予習30分程度）	戸田　祐子 髙橋　慧
2	上肢帯・上肢：骨指標　（実習）	前回の復習と上肢帯・上肢の骨の名称を確認しておくこと。（予習、復習各30分程度）	戸田　祐子 髙橋　慧
3	肩関節・肘関節：関節、靭帯（実習）	前回の復習と上肢の関節、靭帯を確認しておくこと。（予習、復習各30分程度）	戸田　祐子 髙橋　慧
4	手関節：関節、靭帯（実習）	前回の復習と上肢の関節、靭帯を確認しておくこと。（予習、復習各30分程度）	戸田　祐子 髙橋　慧
5	手指：関節、靭帯（実習）	前回の復習と上肢の関節、靭帯を確認しておくこと。（予習、復習各30分程度）	戸田　祐子 髙橋　慧
6	下肢帯・下肢：骨指標（実習）	前回の復習と下肢帯・下肢の骨の名称を確認しておくこと。（予習、復習各30分程度）	戸田　祐子 髙橋　慧
7	股関節・膝関節・足関節：関節、靭帯（実習）	前回の復習と下肢の関節、靭帯を確認しておくこと。（予習、復習各30分程度）	戸田　祐子 髙橋　慧
8	ここまでのまとめ（形成的評価を中心に）	2－7回の内容を復習して臨むこと。（60分程度）	戸田　祐子 髙橋　慧
9	肩甲帯：筋（僧帽筋・菱形筋など）（実習）	前回の復習と肩甲帯の運動に関与する筋の名称を確認しておくこと。（予習、復習各30分程度）	戸田　祐子 髙橋　慧
10	肩関節：筋(三角筋・棘上筋など)（実習）	前回の復習と肩関節の運動に関与する筋の名称を確認しておくこと。（予習、復習各30分程度）	戸田　祐子 髙橋　慧
11	上肢：上腕の筋(上腕二頭筋など)（実習）	前回の復習と肩関節・肘関節の運動に関与する筋の名称を確認しておくこと。（予習、復習各30分程度）	戸田　祐子 髙橋　慧
12	上肢：前腕の筋(橈側手根屈筋など)（実習）	前回の復習と肩関節・肘関節の運動に関与する筋の名称を確認しておくこと。（予習、復習各30分程度）	戸田　祐子 髙橋　慧
13	手関節：筋(長掌筋など)（実習）	前回の復習と手関節・手指の運動に関与する筋の名称を確認しておくこと。（予習、復習各30分程度）	戸田　祐子 髙橋　慧
14	手指：筋(総指伸筋・示指伸筋など)（実習）	前回の復習と手関節・手指の運動に関与する筋の名称を確認しておくこと。（予習、復習各30分程度）	戸田　祐子 髙橋　慧
15	ここまでのまとめ（形成的評価を中心に）	9－14回の内容を復習して臨むこと。（60分程度）	戸田　祐子 髙橋　慧

回	授業計画	準備学修	担当
16	体幹・股関節：筋、靭帯（実習）	前回の復習と体幹・股関節の運動に関与する筋の名称を確認しておくこと。（予習、復習各30分程度）	戸田　祐子 髙橋　慧
17	膝関節：筋、靭帯（実習）	前回の復習と膝関節・足関節の運動に関与する筋の名称を確認しておくこと。（予習、復習各30分程度）	戸田　祐子 髙橋　慧
18	足関節：筋、靭帯（実習）	前回の復習と膝関節・足関節の運動に関与する筋の名称を確認しておくこと。（予習、復習各30分程度）	戸田　祐子 髙橋　慧
19	ここまでのまとめ（形成的評価を中心に）	第16～18回目の内容を復習して臨むこと。（60分程度）	戸田　祐子 髙橋　慧
20	触診技術の復習（骨）	第2～7回目の内容を復習して臨むこと。（60分程度）	戸田　祐子 髙橋　慧
21	触診技術の復習（筋 - 上肢）	第9～14回目の内容を復習して臨むこと。（60分程度）	戸田　祐子 髙橋　慧
22	触診技術の復習（筋 - 体幹・下肢）	第16～18回目の内容を復習して臨むこと。（60分程度）	戸田　祐子 髙橋　慧
教科書	「運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）改定第２版」林典雄著、メジカルビュー社 「運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）改定第２版」林典雄著、メジカルビュー社 「基礎運動学　第６版補訂」中村隆一他著、医歯薬出版株式会社* *運動学と同じ教科書を使用する		
参考文献	「骨関節・靭帯・神経・血管の触診術の基本」齋藤昭彦監修、株式会社マイナビ出版		
備考	授業内課題は、授業時間内にフィードバックを行います。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
RO-1-BSF-04

科目名	生理学Ⅰ（神経・運動・感覚）				単位認定者	鈴木　裕一		評価の方法	授業内課題(小テスト)	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＰＴ	必修	１年	開講時期	前期	単位数	2　単位			
	ＯＴ	必修	１年			授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	生理学は、人体の機能を理解する学問である。人体の生理機能を理解するために、人体を構成する各要素(細胞 - 組織 - 器官)に分解してその個々の機能を理解し、それら要素間の相互関係や統合関係を学ぶ。 本講義では、人体の運動機能を構成する神経系、感覚器の形態及び生理機能を学び、外的刺激に対する人体の反射・反応、運動・活動のしくみ(メカニズム)について構造(形態)機能を一体的に講義する。
到達目標	１．人体を構成する各要素(細胞 - 組織 - 器官)に分解してその個々の機能を理解し、それら要素間の相互関係や統合関係を説明できる。 ２．人体の運動機能を構成する神経系、感覚器の形態及び生理機能を説明し、外的刺激に対する人体の反射・反応、運動・活動のしくみ(メカニズム)について構造(形態)機能を一体的に説明できる。
学修者への期待等	１．理学療法・作業療法を学ぶのに基礎となる科目なので真剣にとりくむこと。 ２．臨床医学（内科学など）を理解するのに必要な科目であることを頭に入れて取り組むこと。

回	授業計画	準備学修
1	人体について	教科書の該当ページについて予習・復習を行うこと（概ね30分） 小テスト（１）を実施するため準備をすること
2	化学の基礎：生体の化学組成	
3	細胞と組織	
4	皮膚と膜	
5	骨格系：骨と関節	
6	筋系：骨格筋の活動性	教科書の該当ページについて予習・復習を行うこと（概ね30分） 小テスト（２）を実施するため準備をすること
7	神経系（１）：神経組織	
8	神経系（２）：脳の構造と機能	
9	神経系（３）：中枢神経系を保護する組織	
10	神経系（４）：末梢神経系	
11	神経系（５）：運動制御	教科書の該当ページについて予習・復習を行うこと（概ね30分） 小テスト（３）を実施するため準備をすること
12	神経系（６）：体性感覚	
13	特殊感覚（１）：目と視覚	
14	特殊感覚（２）：耳（聴覚と平衡覚）	
15	特殊感覚（３）：化学感覚（嗅覚と味覚）	

教科書	「人体の構造と機能」エレインN.マリーブ著、医学書院
参考文献	
備考	ＰＴ・ＯＴ合同授業 授業内課題(小テスト)は、採点し次回の授業で返却する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
RO-1-BSF-05

科目名	生理学Ⅱ（内臓・代謝・血液）				単位認定者	鈴木　裕一		評価の方法	授業内課題(小テスト)	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＰＴ	必修	１年	開講時期	前期	単位数	1　単位			
	ＯＴ	必修	１年			授業時間数	30　時間			
				授業形態	演習	授業回数	15　回			

授業の概要	生理学Ｉと同時並行で進行し、主に人体の循環器、呼吸器、消化器、腎臓、内分泌、血液の形態及び生理機能並びに体液・体温の調節、栄養と代謝を学び、人体の生命現象の恒常性(ホメオスタシス)と運動・活動時の適応(運動生理)について構造(形態)機能を一体的に講義する。
到達目標	１．人体を構成する各要素(細胞 - 組織 - 器官)に分解してその個々の機能を理解し、それら要素間の相互関係や統合関係を説明できる。 ２．人体の循環器、呼吸器、消化器、腎臓、内分泌、血液の形態及び生理機能並びに体液・体温の調節、栄養と代謝を理解し、人体の生命現象の恒常性(ホメオスタシス)と運動・活動時の適応(運動生理)について構造(形態)機能を説明できる。
学修者への期待等	１．理学療法・作業療法を学ぶのに基礎となる科目なので真剣にとりくむこと。 ２．臨床医学（内科学など）を理解するのに必要な科目であることを頭に入れて取り組むこと。

回	授業計画	準備学修
1	血液の組成と機能；止血機構	教科書の該当ページについて予習・復習を行うこと（概ね30分） 小テスト（１）を実施するため準備をすること
2	内分泌系（１）：内分泌系とホルモンの機能	
3	内分泌系（２）：主な内分泌腺	
4	心臓血管系（１）：心臓	
5	心臓血管系（２）：血管とリンパ管	
6	呼吸器系（１）：機能解剖	教科書の該当ページについて予習・復習を行うこと（概ね30分） 小テスト（２）を実施するため準備をすること
7	呼吸器系（２）：呼吸生理学	
8	消化器系と代謝（１）：消化器系の構造	
9	消化器系と代謝（２）：口腔・咽頭・食道のはたらき	
10	消化器系と代謝（３）：胃・小腸・大腸のはたらき	
11	消化器系と代謝（４）：栄養と代謝；体温調節	教科書の該当ページについて予習・復習を行うこと（概ね30分） 小テスト（３）を実施するため準備をすること
12	泌尿器系（１）腎臓；尿管・膀胱・尿道	
13	泌尿器系（２）水・電解質と酸塩基平衡	
14	生殖器系（１）男性生殖器	
15	生殖器系（２）女性生殖器；妊娠と胚の発育	

教科書	「人体の構造と機能」エレインN.マリーブ著、医学書院
参考文献	
備考	ＰＴ・ＯＴ合同授業　授業内課題(小テスト)は、採点し次回の授業で返却する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
RO-1-BSF-06

科目名	生理学実習				単位認定者	戸田　祐子		評価の方法	授業内課題（レポート）	50　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＯＴ	必修	１年	開講時期	通年	単位数	1　単位		試験(筆記)	50　%
						授業時間数	44　時間			
				授業形態	実習	授業回数	22　回			

授業の概要	本講義では、「生理学Ⅰ・Ⅱ」で学修した内容について、実際の測定・実験を通し、その生理学的メカニズムについて学修する。主に、心電図、神経伝導速度、筋電図、反射、感覚、心肺機能、体組成、血圧、尿組成に関する測定・実験を実施する。
到達目標	心電図、神経伝導速度、筋電図、反射、感覚、心肺機能、体組成、血圧等について、各臓器の構造と機能を基に説明できる。
学修者への期待等	実習と共にレポートを作成します。正しい実習結果が得られなければレポートを通した知識の定着が難しくなります。積極的に観察、実習に臨んで下さい。また、実習に該当する生理学Ⅰ・Ⅱの復習をして授業に臨んで下さい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	体組成（BMI、骨格筋量指数） ～計測の意義と方法について～	体組成に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	戸田　祐子 須藤　あゆみ
2	運動生理実習1－①（運動と血圧、心拍数変化） ～計測の意義と方法～	エネルギー代謝に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	須藤　あゆみ 戸田　祐子
3	運動生理実習1－②（運動と血圧、心拍数変化） ～計測と理解～	計測方法と解析方法について復習すること（概ね30分）	須藤　あゆみ 戸田　祐子
4	皮膚感覚の実験（振動覚検査、２点弁別閾、温度覚）① ～検査の意義と検査方法について～	皮膚感覚に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	熊谷　竜太 須藤　あゆみ
5	皮膚感覚の実験（振動覚検査、２点弁別閾、温度覚）② ～検査結果の記録方法と解釈の仕方について～	検査方法等、授業内容を復習すること（概ね30分）	熊谷　竜太 須藤　あゆみ
6	特殊感覚の実習１（盲点、骨導音・気導音）① ～特殊感覚の検査の意義と方法について～	視覚・聴覚に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	須藤　あゆみ 戸田　祐子
7	特殊感覚の実習１（盲点、骨導音・気導音）② ～特殊感覚の検査の記録方法と解釈の仕方について～	検査方法や記録方法など復習すること（概ね30分）	須藤　あゆみ 戸田　祐子
8	骨格筋の実習（表面筋電図）① ～筋電図を計測する意義と方法について～	骨格筋に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	戸田　祐子 熊谷　竜太
9	骨格筋の実習（表面筋電図）② ～筋電図の計測～	筋電図の計測について復習すること（概ね30分）	戸田　祐子 熊谷　竜太
10	骨格筋の実習（表面筋電図）③ ～筋電図の解析～	筋電図の解析の復習をすること（概ね30分）	戸田　祐子 熊谷　竜太
11	神経の実習（神経伝導速度測定）① ～神経伝達速度を計測する意義と方法について～	神経に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	須藤　あゆみ 戸田　祐子
12	神経の実習（神経伝導速度測定）② ～神経伝達速度の計測～	神経伝達速度に関する復習をすること（概ね30分）	須藤　あゆみ 戸田　祐子
13	神経の実習（神経伝達速度測定）③ ～神経伝達速度の結果の見方と疾患ごとの特徴的所見～	神経伝達速度の結果の見方と疾患ごとの特徴について復習すること（概ね30分）	須藤　あゆみ 戸田　祐子
14	呼吸の実習（スパイロメータ）① ～スパイロメータを測定する意義と方法について	呼吸に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	熊谷　竜太 戸田　祐子
15	呼吸の実習（スパイロメータ）② ～スパイロメータの結果の解析について～	計測方法と解析方法について復習すること（概ね30分）	熊谷　竜太 戸田　祐子

回	授業計画	準備学修	担当
16	循環機能実習（心電図）① ～心電図を計測する意義と方法について～	心臓に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	戸田　祐子 熊谷　竜太
17	循環機能実験（心電図）② ～心電図の計測～	心電図の計測方法について復習すること（概ね30分）	戸田　祐子 熊谷　竜太
18	循環機能実験（心電図）③ ～心電図の解析～	心電図の読み方について復習すること（概ね45分）	戸田　祐子 熊谷　竜太
19	運動生理実習２－①（安静時代謝・運動とエネルギー代謝）～エネルギー代謝を計測する意義と方法～	代謝と、運動と循環器に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	熊谷　竜太 須藤　あゆみ
20	運動生理実習２－②（安静時代謝・運動とエネルギー代謝）～エネルギー代謝の計測と解析方法～	計測方法と解析方法について復習すること（概ね30分）	熊谷　竜太 須藤　あゆみ
21	運動生理実習３－①（眼球震盪、重心動揺測定）～平衡覚を計測する意義と方法～	平衡覚に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	熊谷　竜太 須藤　あゆみ
22	運動生理実習３－②（眼球震盪、重心動揺測定）～平衡覚計測と理解～	計測方法と解析方法について復習すること（概ね30分）	熊谷　竜太 須藤　あゆみ
教科書	「人体の構造と機能」エレインN.マリーブ著、医学書院		
参考文献			
備考	レポートの内容を確認し、必要時にフィードバックを行います。レポートは確認後返却します。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
RO-1-BSF-07

科目名	運動学			単位認定者	山口　志津枝		評価の方法	試験(筆記)	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＯＴ	必修	１年	開講時期	後期	単位数	2　単位	授業内課題 (小テスト)	30　%
						授業時間数	30　時間		
				授業形態	講義	授業回数	15　回		

授業の概要	運動学は、人間の身体運動に関係のある諸原理を多くの科学から取り入れ、系統的に応用している。本講義では、解剖学、生理学、生体力学を基礎とし、身体運動を自然科学的観点から学修する。また、身体運動の基本的な理解のため頭部、体幹、四肢の関節の基本的な構造と運動を学修する。
到達目標	１．身体運動の基礎をそれぞれ説明できるようになる。 ２．生体力学の基礎をそれぞれ説明できるようになる。 ３．生体の構造を基礎をそれぞれ説明できるようになる。 ４．四肢、体幹、頸部、頭部・顔面の運動をそれぞれ説明できるようになる。 ５．呼吸運動のメカニズムを説明できるようになる。
学修者への期待等	解剖学、生理学、物理学の知識を基に人間の身体運動を学修していきます。必ず事前学修にて知識の復習をし、授業に臨んでください。

回	授業計画	準備学修
1	授業ガイダンスと運動学への導入、学修の進め方 関節運動の基礎	教科書に目を通し、一通りの内容を確認しておくこと（30分～１時間程度）
2	身体運動の基礎（面、軸、姿勢、関節運動）	教科書の指定ページを事前に読んでおくこと（30分～１時間程度）
3	生体力学の基礎（関節モーメント、重心・支持基底面、てこ）	教科書の指定ページを事前に読んでおくこと（30分～１時間程度）
4	生体の構造と機能（軸、関節の種類、筋収縮のメカニズム）	教科書の指定ページを事前に読んでおくこと（30分～１時間程度）
5	姿勢制御、運動学習	教科書の指定ページを事前に読んでおくこと（30分～１時間程度）
6	上肢帯・上肢の運動①（肩関節・肘関節の構造、関節の動きと筋の関係）	前回の復習と肩関節・肘関節に関与する骨、関節、筋について確認しておくこと（予習、復習各30分程度）
7	上肢帯・上肢の運動②（肩甲上腕リズム、回旋筋腱板、ヒューター三角、肘角）	前回の復習と肩関節・肘関節に関与する筋、靭帯について確認しておくこと（予習、復習各30分程度）
8	上肢帯・上肢の運動③（手関節・手指の構造、関節と筋の関係）	前回の復習と手関節・手指に関与する骨、関節、筋について確認しておくこと（予習、復習各30分程度）
9	上肢帯・上肢の運動④（手の機能、把持動作、アーチ、手根管）	前回の復習と手関節・手指に関与する筋、靭帯について確認しておくこと（予習、復習各30分程度）
10	下肢帯・下肢の運動①（股関節・膝関節の構造、関節の動きと筋の関係）	前回の復習と股関節・膝関節に関与する骨、関節、筋について確認しておくこと（予習、復習各30分程度）
11	下肢帯・下肢の運動②（FTA、頸体角、前捻角、スクリューホームムーブメント）	前回の復習と股関節・膝関節に関与する筋、靭帯について確認しておくこと（予習、復習各30分程度）
12	下肢帯・下肢の運動③（足関節の構造、関節の動きと筋の関係）	前回の復習と足関節に関与する骨、関節、筋について確認しておくこと（予習、復習各30分程度）
13	脊柱体幹の運動	前回の復習と脊柱・体幹に関与する骨、関節、靭帯、筋について確認しておくこと（予習、復習各30分程度）
14	呼吸運動	前回の復習と胸郭に関与する骨、関節、筋について確認しておくこと（予習、復習各30分程度）
15	顔面・頭部の運動	前回の復習と頸部に関与する骨、関節、靭帯、筋について確認しておくこと（予習、復習各30分程度）

教科書	「基礎運動学　第６版補訂」中村隆一他著、医歯薬出版株式会社
参考文献	「筋骨格系のキネシオロジー　原著第３版」Donald A.Neumann原著、医歯薬出版株式会社 「PT・OTのための運動学テキスト　基礎・実習・臨床」小柳磨毅他編、金原出版
備考	授業内課題（小テスト）のフィードバックは実施直後に行います。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
総合病院にて作業療法の臨床・教育・研究に長年従事してきた。作業療法対象者の状態把握から治療のための基礎としてはもちろん、臨床実習指導者として学生教育を通し見聞を深めてきた。この経験をもとに講義を担当する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
RO-1-BSF-08

科目名	運動学実習				単位認定者	髙橋　慧		評価の方法	試験（レポート）	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＯＴ	必修	１年	開講時期	後期	単位数	1　単位			
				授業形態	実習	授業時間数	44　時間			
						授業回数	22　回			

授業の概要	運動学実習では、複数の測定機器を用い実習体験を通して、「運動学」において学修した知識を応用し、実験から得られた生体情報を分析・解釈することで、身体運動や基本姿勢・動作のメカニズムを学修する。
到達目標	1. 作業遂行および諸動作について、運動学的側面から分析することができるようになる。 2. 作業遂行および諸動作の運動学的側面を、専門用語を用いて表現することができる。
学修者への期待等	基本的な動きや生活に関連する動きを科学的に分析していきます。毎回の予習・復習をしっかりと行い、主体的・積極的に授業に参加するようにしてください。

回	授業計画	準備学修	担当
1	姿勢・動作を分析する意義（講義）	科目専用のノートを用意すること	齋藤　佑樹 髙橋　慧
2	姿勢・動作分析の基礎① シェーマの描画方法（講義・ペアワーク）	授業の内容をノートにまとめること（30分程度）	齋藤　佑樹 髙橋　慧
3	姿勢・動作分析の基礎② 姿勢の特徴を捉え描画する（講義・ペアワーク）	授業の内容をノートにまとめること（30分程度）	齋藤　佑樹 髙橋　慧
4	姿勢・動作分析の基礎③ 動作の特徴を捉え描画する（講義・ペアワーク）	授業の内容をノートにまとめること（30分程度）	齋藤　佑樹 髙橋　慧
5	姿勢・動作分析の基礎④ 寝返り動作の分析（講義・ペアワーク）	授業の内容をノートにまとめること（30分程度）	齋藤　佑樹 髙橋　慧
6	姿勢・動作分析の基礎⑤ 寝返り動作を描画する（講義・ペアワーク）	授業の内容をノートにまとめること（30分程度）	齋藤　佑樹 髙橋　慧
7	動作分析 立ち上がり・座り動作の分析（講義・ペアワーク）	授業の内容をノートにまとめること（30分程度）	齋藤　佑樹 髙橋　慧
8	動作分析 立ち上がり・座り動作の描画（講義・ペアワーク）	授業の内容をノートにまとめること（30分程度）	齋藤　佑樹 髙橋　慧
9	動作分析 床からの立ち上がり・座り動作の分析（講義・ペアワーク）	授業の内容をノートにまとめること（30分程度）	齋藤　佑樹 髙橋　慧
10	動作分析 床からの立ち上がり・座り動作の描画（講義・ペアワーク）	授業の内容をノートにまとめること（30分程度）	齋藤　佑樹 髙橋　慧
11	動作分析 起居動作の分析と描画（講義・ペアワーク）	授業の内容をノートにまとめること（30分程度）	齋藤　佑樹 髙橋　慧
12	動作分析 食事動作の分析と描画（講義・ペアワーク）	授業の内容をノートにまとめること（30分程度）	齋藤　佑樹 髙橋　慧
13	動作分析 移乗動作の分析と描画（講義・ペアワーク）	授業の内容をノートにまとめること（30分程度）	齋藤　佑樹 髙橋　慧
14	動作分析 整容動作の分析と描画（講義・ペアワーク）	授業の内容をノートにまとめること（30分程度）	齋藤　佑樹 髙橋　慧
15	動作分析 更衣動作の分析と描画（講義・ペアワーク）	授業の内容をノートにまとめること（30分程度）	齋藤　佑樹 髙橋　慧

回	授業計画	準備学修	担当
16	動作分析 排泄動作の分析と描画（講義・ペアワーク）	授業の内容をノートにまとめること（30分程度）	齋藤　佑樹 髙橋　慧
17	動作分析 入浴動作の分析と描画（講義・ペアワーク）	授業の内容をノートにまとめること（30分程度）	齋藤　佑樹 髙橋　慧
18	動作分析と作業分析（講義）	授業の内容をノートにまとめること（30分程度）	齋藤　佑樹 髙橋　慧
19	動作分析の知識を踏まえた作業分析①（講義・グループワーク）	授業の内容をノートにまとめること（30分程度）	齋藤　佑樹 髙橋　慧
20	動作分析の知識を踏まえた作業分析②（講義・グループワーク）	授業の内容をノートにまとめること（30分程度）	齋藤　佑樹 髙橋　慧
21	動作分析の知識を踏まえた作業分析③（課題の選択と工程の整理、講義・グループワーク）	授業の内容をノートにまとめること（30分程度）	齋藤　佑樹 髙橋　慧
22	動作分析の知識を踏まえた作業分析④（選択課題の分析とまとめ、発表）	授業の内容をノートにまとめること（30分程度）	齋藤　佑樹 髙橋　慧
教科書	「動作分析 臨床活用講座―バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 」石井 慎一郎著、メジカルビュー社 「基礎運動学　第６版補訂」中村隆一他著、医歯薬出版株式会社 「PT・OTのための運動学テキスト　基礎・実習・臨床」小柳磨毅他編、金原出版		
参考文献			
備考	ペアワークを基本とします。毎回、動きやすい格好で参加してください。 授業内で使用する資料は、毎回前日までにLMSに投稿します。印刷・PC上での閲覧、どちらでも構いません。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
RO-1-BSF-09

科目名	人間発達学				単位認定者	大橋　孝子		評価の方法	試験(筆記)	80　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	１年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題 (小テスト)	20　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	人間発達学では、生涯にわたる人間発達の様相を、胎児期･新生児期から乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期において、それぞれが持つ身体的、精神的、心理社会的特徴とその障害を理解し、発達に応じた社会との関わりを総合的に捉え、具体的支援の在り方について学修する。
到達目標	・人間発達の原則を理解する事ができるようになる。 ・人間発達の概要を理解する事ができるようになる。 ・遊びの重要性を理解することができるようになる。 ・胎児期から老年期までの各発達段階の特徴を理解できるようになる。
学修者への期待等	作業療法を行う上で、基本となる科目の一つです。人に関心を持ち、発達に興味を持って欲しいと思います。

回	授業計画	準備学修
1	人間発達学の概要	教科書Ｐ２～P17を読んでくる。（概ね30分程度）
2	胎生期・新生児期・乳児期の特徴	教科書P20～P36を読んでくる。（概ね30分程度）
3	運動の発達【小テスト1回目】	教科書P38～P60を読んでくる。（概ね30分程度）
4	姿勢反射（原始反射・正常姿勢反応）	教科書P50～P55の図を確認してくる。（概ね30分程度）
5	上肢機能の発達【小テスト2回目】	教科書P48，49、P185～P188、P208～P211を読んでくる。（概ね30分程度）
6	目と手の協調性の発達	目と手の協調性とは何か調べてまとめてくる。（概ね30分程度）
7	認知能力の発達　身体認知の発達【小テスト3回目】	教科書P62～P86を読んでくる。（概ね30分程度）
8	視覚・眼球運動の発達	教科書P66～P73を読んでくる。（概ね30分程度）
9	社会性の発達と言語の発達【小テスト4回目】	教科書P90～P120、P140～168を読んでくる。（概ね30分程度）
10	遊びの発達とその重要性	教科書P198～P204を読んでくる。（概ね30分程度）
11	発達に即したおもちゃ作り（グループワーク）	どんな発達を促すおもちゃを作成したいか、自分の考えをまとめてくる。（概ね30分程度）
12	作成したおもちゃの発表（プレゼンテーション）	聞き手が興味を持てるようなプレゼンテーションの方法をグループ内で検討しておく。（概ね30分程度）
13	日常生活活動の発達【小テスト5回目】	教科書P204～P210を読んでくる。（概ね30分程度）
14	幼児期の発達　児童期の発達	幼児期と児童期の発達について調べまとめる。（概ね30分程度）
15	青年期・成人期・老年期の発達	青年期・成人期・老年期の発達について調べまとめる。（概ね30分程度）

教科書	「リハビリテーションテキスト　人間発達学」浅野大喜編集　メジカルビュー
参考文献	「手にとるように発達心理学がわかる本」小野寺敦子著、かんき出版 「発達を学ぶ　人間発達学レクチャー」森岡周著、協同医書出版社 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野「人間発達学」岩嵜清隆執筆　医学書院
備考	小テストの範囲はその都度連絡します。小テストは採点し返却します。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
実務経験の概要：健常の子どもの相談支援や、発達障害に対する理学療法、相談支援等について経験している。 実務経験と授業科目との関連性：人間の発達について、様々な観点から教授する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
RO-1-D&R-01

科目名	病理学				単位認定者	三木　康宏		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＰＴ	必修	１年	開講時期	後期	単位数	1　単位			
	ＯＴ	必修	１年			授業時間数	16　時間			
				授業形態	講義	授業回数	8　回			

授業の概要	病理学とは、「やまい(病)」の「ことわり(理)」を学ぶ学問である。種々の疾患(腫瘍、循環器系疾患、免疫疾患など)によって、組織・細胞はさまざまな適応(環境変化に対する適応)をとるが、「病理学」ではその意味と疾患のかかわりについて学修する。
到達目標	1. 心身機能上の異常において、その原因と身体の組織学的変化について学び、説明できるようになる。 2. 人体の変化から疾病の原因を推定できるようになる。 3. 以上から、疾病の成り立ちを病理組織学的な観点から理解できるようになる。
学修者への期待等	「病理学」は「解剖学」や「生理学」などの基礎医学と密接に関係している。毎回の講義内容について、これまでに修得した基礎医学との関連を見いだすことが重要であり、そこから「心身機能の異常」について理解する必要がある。授業の最後に予習ポイントを提示するので、上記関連事項を踏まえながら次回の講義に備えてもらいたい。

回	授業計画	準備学修
1	病理学とはなにか／病気の発生要因（病因）について／細胞の増殖と生涯について	教科書第1章（病理学とは何か）、第2章（細胞障害と細胞増殖）を読む。（概ね1時間30分程度）
2	環境に対する細胞組織の適応について	教科書第3章（組織、細胞の修復と再生）、第10章（代謝異常）p. 119-121を読む。（概ね2時間程度）
3	生体防御反応としての炎症について	教科書第5章（炎症）を読む。（概ね1時間程度）
4	免疫の基礎と疾患について	教科書第7章（免疫機構の異常）を読む。（概ね2時間程度）
5	腫瘍：良性と悪性との鑑別とその発生について	教科書第9章（腫瘍）を読む。（概ね2時間程度）
6	遺伝子と疾患について	教科書第8章（遺伝と先天異常）を読む。（概ね1時間程度）
7	循環障害：体液の廻りと滞りについて	教科書第4章（循環障害）を読む。（概ね1時間程度）
8	これまでの講義を振り返り、病理学を再考する	日本人の死因の年次推移に関する資料（7回までに配付）をから、その病因を考える（概ね1時間程度）

教科書	「シンプル病理学」笹野公伸他編、株式会社南江堂
参考文献	「標準理学療法学・作業療法学 専門分野 病理学」梶原博毅他編、医学書院
備考	ＰＴ・ＯＴ合同授業

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
RO-1-D&R-02

科目名	医学概論				単位認定者	佐直　信彦		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＰＴ	必修	１年	開講時期	後期	単位数	1　単位			
	ＯＴ	必修	１年			授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	医療は生物心理社会的な包括的アプローチが求められる。本講義では、医学と生命科学の進歩の過程で問われる倫理、健康を実現する保健医療体制、健康と疾病、予防医学について学修する。症候学では主要な症候の病態・診断・治療の概要について学修し、薬物治療では薬物と生体の相互作用(薬理)について学ぶ。
到達目標	1.医の倫理の原則について理解し説明できるだけでなく、行動で実践できる。 2.我が国の医療の現状と課題について理解する。 安全管理について説明でき、臨床の場で実践できる。 3.重要な症候について医学的な理解(病態、診断、治療) と説明ができ、理学療法・作業療法に展開できる。 4.理学療法、作業療法の主要な対象疾患に利用される薬物の薬師作用と副作用について理解し、理学療法・作業療法に展開できる。
学修者への期待等	・専門の科目は全て新しく学ぶ分野なので、授業中に理解できるように集中し、解らないことは質問すること。 ・LMS上の授業資料とコメントをもとに準備すること。授業後は、ノートやLMS資料への書き込み等を整理し、復習に重点を置くこと。 ・教わったことを覚えるだけではなく、「なぜ」かを常に考えること。

回	授業計画	準備学修	担当
1	医学の歴史と生命科学の展開	講義資料で予習復習し、生命科学と医学の関係についてまとめる。(概ね45分)	飯沼　一宇
2	生命の尊厳と医の倫理	講義資料で予習復習し、医の倫理的課題についての身近な報道をチェックする。(概ね45分)	飯沼　一宇
3	我が国の医療供給体制(医療安全管理を含む)	講義資料で予習復習し、我が国の医療について国際的視点からまとめる。(概ね45分)	飯沼　一宇
4	医療保障の現状と課題(医療の質の評価を含む)	講義資料で予習復習し、我が国の国民皆保険の仕組みと課題を整理する。(概ね45分)	飯沼　一宇
5	健康と疾病	講義資料で予習復習し、健康の考え方、疾病の起こり方と生体の反応についてまとめる。(概ね45分)	飯沼　一宇
6	診断と治療　医学モデル、治療学総論、新しい治療法の展開	講義資料で予習復習し、ノートを整理する。(概ね45分程度)	佐直　信彦
7	臨床検査（1）（臨床実習で直面する心電図、肺気量を中心に行う）	講義資料で予習復習し、ノートを整理する。(概ね45分程度)	佐直　信彦
8	臨床検査（2）（臨床実習で直面する画像診断、脳CTを中心に行う）	講義資料で予習復習し、ノートを整理する。(概ね45分程度)	佐直　信彦
9	臓器・器官横断的な主要症候と病態（1）1.発熱、2.ショック、3. 浮腫、4.呼吸困難	講義資料で予習復習し、ノートを整理する。(概ね45分程度)	佐直　信彦
10	臓器・器官横断的な主要症候と病態（2）5.動悸、6.食欲不振、7.悪心・嘔吐、8.喀血・吐血、9.腹痛	講義資料で予習復習し、ノートを整理する。(概ね45分程度)	佐直　信彦
11	薬物療法総論　1.薬物と医薬品　2.薬物療法の目的　3.薬理作用と作用機序　4.薬物動態と薬効　5.副作用と有害作用、影響因子	講義資料で予習復習し、ノートを整理する。(概ね45分程度)	佐直　信彦
12	薬物療法各論(1) 1.末梢神経作用薬	講義資料で予習復習し、ノートを整理する。(概ね45分程度)	佐直　信彦
13	薬物療法各論(2) 2.中枢神経作用薬	講義資料で予習復習し、ノートを整理する。(概ね45分程度)	佐直　信彦
14	薬物療法各論(3) 3.心臓・血管系作用薬／呼吸器系作用薬	講義資料で予習復習し、ノートを整理する。(概ね45分程度)	佐直　信彦
15	薬物療法各論(4) 4.抗炎症薬	講義資料で予習復習し、ノートを整理する。(概ね45分程度)	佐直　信彦

教科書	講義資料を配付又はLMS上に投稿する。
参考文献	「コメディカルのための専門基礎分野テキスト　医学概論」北村諭著、中外医学社(図書館蔵、以下同じ) 「一目でわかる内科学」Patrick Davey著、日野原重明日本語版監修、メディカル・サイエンス・インターナショナル 「新体系看護学全書　健康支援と社会保障制度①　現代医療論」小坂樹徳他編著、メヂカルフレンド社 「学生のための生命科学と倫理」藤村重文著、医学書院出版サービス 「わかりやすい薬理学」安原・小口著　NOUVELL HIROKAWA
備考	ＰＴ・ＯＴ合同授業

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
飯沼は医学部卒業後東北大学病院小児科学の臨床・教育・研究に携わり、石巻赤十字病院院長を務めた。その経験をもとに講義1-5を担当する。佐直は医学部卒業後東北大学医学部付属鳴子分院にてリハビリテーション医学の臨床・教育・研究に携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事した。この経験をもとに講義6-15を担当する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	●

科目ナンバリング
RO-1-H&R-02

科目名	社会福祉概論				単位認定者	佐々木　仁		評価の方法	授業内課題	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＰＴ	必修	１年	開講時期	後期	単位数	１　単位			
	ＯＴ	必修	１年			授業時間数	16　時間			
				授業形態	講義	授業回数	８　回			

授業の概要	現代における社会福祉の意義・理念について理解し、福祉の法体系制度、介護保険制度などの概要を理解する。理学療法士、作業療法士として、関連分野である福祉の現状を学修する。
到達目標	1. 社会福祉の意義・理念、社会福祉法制度・諸施策、福祉サービス制度、社会福祉支援のあり方などを学び理解する。 2. 理学療法士、作業療法士として関連分野である社会福祉の実際や課題への関心・理解により、専門職としてのチームアプローチへの活用を図ることができる。
学修者への期待等	日常の身の回りの出来事やニュースなどからも、私たちと社会福祉とのつながりを理解し、これからの自らの実践に活かしていきましょう。

回	授業計画	準備学修
1	社会福祉について、国民の健康づくりにおける保健・医療・福祉の位置づけと相互連携、憲法25条と社会保障	【事前】テキスト1章、2章、3章を読む。「社会福祉」について調べ、自らの言葉で説明を試みる。（概ね60分程度）
2	子どもに関する福祉制度、社会状況の変化・現代家族の動向と変化・専門職の必要性・子育て支援・児童虐待防止	【事前】テキスト4章を読む。子育ての施策に関して自治体のホームページなどから調べる。（概ね60分程度）
3	障がい者福祉、ノーマライゼーション・ソーシャルインクルージョン・障害者虐待防止・成年後見制度と関連制度	【事前】テキスト5章を読む。障がい者保健福祉サービスについて自治体のホームページなどから調べる。（概ね60分程度）
4	高齢者福祉、地域包括ケアシステム、老人福祉法・介護保険法の概要・介護システムとケアマネジメント	【事前】テキスト6章、7章を読む。高齢者福祉サービス・介護保険サービスについて自治体のホームページなどから調べる。（概ね60分程度）
5	公的扶助、生活保護の実施体制・生活保護の種類と内容・生活保護の原理原則	【事前】テキスト8章を読む。生活保護制度について調べ、なぜ生活保護制度が必要か自分の意見をまとめる。（概ね60分程度）
6	地域福祉とその推進、社会福祉施設の役割	【事前】テキスト9章、12章を読む。地域福祉の活動内容について調べる。社会福祉施設についてどのようなものがあるか調べる。（概ね60分程度）
7	医療福祉、医療保険制度の概要ならびに医療法、医療従事者の各資格の概要について、傷病者支援、訪問診療・看護と在宅ケア	【事前】テキスト10章を読む。医療従事者の各資格と業務内容について調べる。（概ね60分程度）
8	社会福祉従事者、社会福祉の実践事例 社会福祉の援助と方法～援助の展開過程の実践と理解	【事前】テキスト13章、14章、15章を読む。チームアプローチにおける理学療法士・作業療法士の役割と可能性について考察して講義に臨む（概ね60分程度）

教科書	「コメディカルのための社会福祉概論」鬼崎信好／本郷秀和・編　講談社　第四版
参考文献	「社会保障入門2022」（中央法規出版）
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。毎回の講義終了後に課題（レポート・小テスト）を出す。提出をもって出席・評価の対象にする。また、次回以降の授業で総評をフィードバックする。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	●

科目ナンバリング
RO-1-H&R-01

科目名	リハビリテーション概論				単位認定者	佐直　信彦		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＰＴ	必修	１年	開講時期	前期	単位数	１　単位			
	ＯＴ	必修	１年			授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	リハビリテーションは障害を有する者を対象とする。医学や医療技術の進歩発展、超高齢化とともに、障害とかかわって生活することは誰にでも起こりうる社会となった。本講義では、自立支援や就労支援を含むリハビリテーションの基本理念ならびに生活機能とその障害を正しく理解する。また、リハビリテーション医療の特性と、多職種連携を理解した上で、地域包括ケアシステムについても学修する。
到達目標	1.「リハビリテーション」の多義性－理念、科学、サービス提供－について説明できる。　2.健康、疾病、障害と「国際生活機能分類 ICF」について理解でき、リハビリテーションの諸領域において展開できる。　3.リハビリテーションの諸領域と専門職連携についてチームアプローチモデルに基づいて説明でき、療法士として実践できる。　4.リハビリテーション過程について説明でき、理学療法・作業療法のなかで展開できる。
学修者への期待等	・専門の科目は全て新しく学ぶ分野なので、授業中に理解できるように集中し、解らないことは質問すること。 ・LMS上の授業資料(事前に配付)とコメントをもとに準備すること。授業後は、ノートやLMS資料への書き込み等を整理し、復習に重点を置くこと。

回	授業計画	準備学修
1	リハビリテーションとは（1） 障害者とリハビリテーションをめぐって	教科書1ｐ～ 復習中心にノートを整理する。（概ね45分程度）
2	リハビリテーションとは（2） 「障害者」諸外国の対応と我が国の変遷	教科書17ｐ～ 復習中心にノートを整理する。（概ね45分程度）
3	リハビリテーションとは（3） 我が国における「リハビリテーション」の語義の用例	復習中心にノートを整理する。（概ね45分程度）
4	リハビリテーションとは（4） 健康と生活の質	教科書21ｐ～ 復習中心にノートを整理する。（概ね45分程度）
5	病気と障害（1） 病気とは、傷害とは、そしてICF	教科書29p～、39ｐ～ 復習中心にノートを整理する。（概ね45分程度）
6	病気と障害（2）慢性疾患モデルと障害予防 リハビリテーションと心理：心理的適応の過程・障害受容	教科書54ｐ～ 、109ｐ～ 復習中心にノートを整理する。（概ね45分程度）
7	リハビリテーションの諸領域 Ⅰ 医学的リハビリテーション	教科書115ｐ～、121p～ 復習中心にノートを整理する。（概ね45分程度）
8	Ⅱ 障害児教育、Ⅲ職業リハビリテーション Ⅳ 社会・地域リハビリテーション	教科書127ｐ～、137ｐ～、150ｐ～、215ｐ～ 復習中心にノートを整理する。（概ね45分程度）
9	Ⅴ 障害福祉サービスと補装具／日常生活用具	教科書318ｐ～、353ｐ～、215ｐ～、3962ｐ～ 復習中心にノートを整理する。（概ね45分程度）
10	Ⅵ 高齢者サービス（1） 高齢者対策の理念と推移、高齢者リハビリテーション	教科書154ｐ～、359ｐ～、 復習中心にノートを整理する。（概ね45分程度）
11	Ⅵ 高齢者サービス（2） 高齢者リハビリテーションの特殊問題と介護制度	教科書155ｐ～ 復習中心にノートを整理する。（概ね45分程度）
12	リハビリテーションの過程 Ⅰ 評価とプログラム　～測定・評価～	教科書167ｐ～、 復習中心にノートを整理する。（概ね45分程度）
13	Ⅱ チームアプローチと専門職	教科書183ｐ～、186ｐ～ 復習中心にノートを整理する。（概ね45分程度）
14	Ⅲ 疾病治療とリハビリテーション医療 Ⅳ 廃用症候群（1）総論	参考文献「入門リハ医学」193ｐ～、432ｐ～ 復習中心にノートを整理する。（概ね45分程度）
15	Ⅳ 廃用症候群（2）各論	参考文献「入門リハ医学」432ｐ～ 復習中心にノートを整理する。（概ね45分程度）

教科書	「入門リハビリテーション概論」中村隆一・佐直信彦編、医歯薬出版株式会社
参考文献	「入門リハビリテーション医学」中村隆一監修、岩谷力・佐直信彦他編、医歯薬出版株式会社(図書館蔵)
備考	・ＰＴ・ＯＴ合同授業　・授業資料等はLMS上に投稿する。　・教科書の頁数は版、刷の改訂で変わります。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
医学部卒業後東北大学医学部付属鳴子分院にてリハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事し、リハビリテーション科専門医等を取得した。その傍ら宮城県リハビリテーション協議会会長として宮城県の地域リハビリテーションの構築にかかわった。この経験をもとに講義を担当する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●		●		

科目ナンバリング
RO-2-BOT-01

科目名	作業療法概論				単位認定者	齋藤　佑樹		評価の方法	試験(筆記)	70　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	１年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題	30　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	医療・保健・福祉領域で広く求められる作業療法について、我が国および諸外国における作業療法の歴史的変遷を紐解きながら、その独自性と専門性について考えていく。また、さまざまな事例報告に触れる機会を通して、作業療法の知識と技術が臨床現場でどのように発揮されているのかを学ぶとともに、領域別の特色や、領域の枠にとらわれない作業療法の普遍性について理解を深めていく。
到達目標	作業療法とはなにか、説明することができる。作業療法の目的および手段の多様性について言語化することができる。
学修者への期待等	作業科学と同様に、作業療法士になるための基盤となる学問です。積極的な参加態度を期待します。

回	授業計画	準備学修	担当
1	作業療法の定義、倫理綱領 （講義・グループワーク）	専用のノートを準備すること	齋藤　佑樹
2	作業療法の歴史1．道徳療法 （講義・グループワーク）	講義の内容をノートにまとめること （30分程度）	齋藤　佑樹
3	作業療法の歴史2．アーツ＆クラフツ運動 （講義・グループワーク）	講義の内容をノートにまとめること （30分程度）	齋藤　佑樹
4	作業療法の歴史3．プラグマティズム （講義・グループワーク）	講義の内容をノートにまとめること （30分程度）	齋藤　佑樹
5	作業療法の歴史4．日本における作業療法の変遷 （講義・グループワーク）	講義の内容をノートにまとめること （30分程度）	齋藤　佑樹
6	作業療法を観る1．あきらめていた病前の趣味を再開	講義の内容をノートにまとめること （30分程度）	齋藤　佑樹
7	作業療法を観る2．認知症者に対する社会資源の利用	講義の内容をノートにまとめること （30分程度）	齋藤　佑樹
8	理学療法の専門性を知る	講義の内容をノートにまとめること （30分程度）	荻原　久佳
9	事例報告から作業療法プロセスを考える （講義・グループワーク）	講義の内容をノートにまとめること （30分程度）	齋藤　佑樹
10	事例報告から作業療法の普遍性を考える （講義・グループワーク）	講義の内容をノートにまとめること （30分程度）	齋藤　佑樹
11	事例報告から多職種連携を考える （講義・グループワーク）	講義の内容をノートにまとめること （30分程度）	齋藤　佑樹
12	作業療法の魅力を言語化する①　計画立案 （講義・グループワーク）	講義の内容をノートにまとめること （30分程度）	齋藤　佑樹
13	作業療法の魅力を言語化する②　発表準備 （グループワーク）	講義外にもグループで計画的に準備をすすめること	齋藤　佑樹
14	作業療法の魅力を言語化する③　発表会 （前半グループ）	講義外にもグループで計画的に準備をすすめること	齋藤　佑樹
15	作業療法の魅力を言語化する④　発表会 （後半グループ）	講義外にもグループで計画的に準備をすすめること	齋藤　佑樹

教科書	「作業で語る事例報告 作業療法レジメの書き方・考え方」齋藤佑樹 編、医学書院
参考文献	適宜紹介します
備考	授業内で使用する資料は、毎回前日までにLMSに投稿します。印刷・PC上での閲覧、どちらでも構いません。 授業内課題（第14・15回）のフィードバックは、当日、授業内で行います。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
齋藤：総合病院で主に身体障害領域の作業療法を長年実施してきた。また、作業療法の概論的知識を網羅した本講義の指定教科書も科目責任者の編集である。これらの経験を活かし、歴史的変遷や潮流も踏まえながら作業療法の構造について講義を行う。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●			●	

科目ナンバリング
RO-2-BOT-02

科目名	作業科学				単位認定者	齋藤　佑樹		評価の方法	試験（筆記）	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＯＴ	必修	１年	開講時期	前期	単位数	1　単位			
						授業時間数	16　時間			
				授業形態	講義	授業回数	8　回			

授業の概要	人を作業的存在として捉える視点を学びながら、作業を学問的に扱うための基本的知識を身につけていく。また、作業が人に与える影響を学ぶことで、作業の持つ力を作業療法に活用するための思考力を深めていくとともに、作業分析についての知識や考え方、分析方法を学び、理論に基づいた作業選択ができるよう基礎的な能力を身につける。
到達目標	作業が人に与える影響を説明できる。自分の心身の状態を作業の視点から言語化することができる。
学修者への期待等	作業療法概論とならび、作業療法士になるうえでの基盤となる学問です。何気ない日常の切片を改めて考察する機会がたくさんあります。主体的かつ積極的な参加態度を期待します。

回	授業計画	準備学修
1	作業の持つ力、作業を主語に生活を捉える (講義・グループワーク)	科目専用のノートを準備すること。
2	作業の意味・形態・機能 (講義・グループワーク)	講義の内容をノートにまとめること。 （30分程度）
3	作業の文脈 (講義・グループワーク)	講義の内容をノートにまとめること。 （30分程度）
4	作業バランス (講義・グループワーク)	講義の内容をノートにまとめること。 （30分程度）
5	作業的存在としての諸次元 (講義・グループワーク)	講義の内容をノートにまとめること。 （30分程度）
6	作業との結びつき (講義・グループワーク)	講義の内容をノートにまとめること。 （30分程度）
7	作業機能障害 (講義・グループワーク)	講義の内容をノートにまとめること。 （30分程度）
8	作業的公正・作業権 (講義・グループワーク)	講義の内容をノートにまとめること。 （30分程度）

教科書	「「作業」ってなんだろう　作業科学入門　第2版」吉川ひろみ著、医歯薬出版株式会社
参考文献	「作業で語る事例報告 作業療法レジメの書き方・考え方」齋藤佑樹 編、医学書院* *作業療法概論の教科書です
備考	授業内で使用する資料は、毎回前日までにLMSに投稿します。印刷・PC上の閲覧、どちらでも構いません。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
総合病院で主に身体障害領域の作業療法を長年実施してきた。また、日本作業科学研究会主催、第17回作業科学セミナー大会長を経験している。これらの経験を活かし、作業療法の中核概念である作業を科学的知見から紐解いていく。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
RO-2-BOT-03

科目名	基礎作業学演習				単位認定者	熊谷　竜太		評価の方法	授業内課題	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＯＴ	必修	１年	開講時期	通年	単位数	2　単位			
						授業時間数	60　時間			
				授業形態	演習	授業回数	30　回			

授業の概要	作業療法士が臨床現場で実践している作業活動を通して、作業の持つ効用や治療的応用について学修する。基礎作業学で学ぶ作業分析についての知識や考え方を意識しながら作業に取り組み、作業が心身機能や活動にどのような影響を与えるのか理解を深める。
到達目標	1.「作業」の特性や人への与える影響を理解するために作業分析を行い、「作業」を治療手段として適切に選択できる視点を説明できるようになる。 2.演習では、作業活動のプロセスの習得と同時に作業療法を行う際の視点を学び、作業活動の特性および治療的意義を説明できるようになる。 3.演習やグループ学修、ディスカッションを通して、自身の意見を適切に他者に伝えるコミュニケーション能力を身に付ける。 4.作業分析を行うために必要な知識を自ら整理し、課題を遂行するための学修の準備を進んで行えるようになる。
学修者への期待等	作業療法士にとって、基本となる「作業」についての授業であるから、積極的な学修態度で臨むこと。積極的な意見交換が重要だが、私語は慎むこと。 実習は各回で内容が異なるため、原則として欠席は認めない。欠席した場合については授業ガイダンス時に説明する。

回	授業計画	準備学修	担当
1	授業ガイダンス 作業の分析とは	教科書P22-26「作業を名義的に分けてみる」を読むこと（1時間程度）	熊谷　竜太 須藤　あゆみ
2	包括的作業分析	教科書P22-26「作業を名義的に分けてみる」を読むこと（2時間程度）	熊谷　竜太 須藤　あゆみ
3	先輩から包括的作業分析を学ぶ	1・2の内容を必ず復習しておくこと（1時間程度）	熊谷　竜太 須藤　あゆみ
4	卓球　ルールの説明と練習		須藤　あゆみ 熊谷　竜太
5	卓球　ゲームの体験	次回までに分析シートを提出すること（概ね30分程度）	須藤　あゆみ 熊谷　竜太
6	シャッフルボード　ルールの説明と練習		熊谷　竜太 須藤　あゆみ
7	シャッフルボード　ゲームの体験	次回までに分析シートを提出すること（概ね30分程度）	熊谷　竜太 須藤　あゆみ
8	風船バレー　ルールの説明と練習		熊谷　竜太 須藤　あゆみ
9	風船バレー　ゲームの体験	次回までに分析シートを提出すること（概ね30分程度）	熊谷　竜太 須藤　あゆみ
10	ペタンク　ルールの説明と練習		須藤　あゆみ 熊谷　竜太
11	ペタンク　ゲームの体験	次回までに分析シートを提出すること（概ね30分程度）	須藤　あゆみ 熊谷　竜太
12	革細工　革の特性　材料と道具について		須藤　あゆみ 熊谷　竜太
13	革細工　コースター		須藤　あゆみ 熊谷　竜太
14	革細工　小銭入れ①　スタンピング　染色		須藤　あゆみ 熊谷　竜太
15	革細工　小銭入れ②　金具のつけ方	次回までに分析シートを提出すること（概ね30分程度）	須藤　あゆみ 熊谷　竜太

回	授業計画	準備学修	担当
16	エコクラフト①小物入れ		須藤　あゆみ 熊谷　竜太
17	エコクラフト②小物入れ　成形		須藤　あゆみ 熊谷　竜太
18	エコクラフト③小物入れ　仕上げ	次回までに分析シートを提出すること（概ね30分程度）	須藤　あゆみ 熊谷　竜太
19	ペーパークラフト	次回までに分析シートを提出すること（概ね30分程度）	須藤　あゆみ 熊谷　竜太
20	オーブン陶芸　成型		熊谷　竜太 須藤　あゆみ
21	オーブン陶芸　素焼き作品の絵付け		熊谷　竜太 須藤　あゆみ
22	ビーズ細工		熊谷　竜太 須藤　あゆみ
23	編み物	次回までに分析シートを提出すること（概ね30分程度）	熊谷　竜太 須藤　あゆみ
24	七宝焼き　デザイン決め・磨き・裏引き		熊谷　竜太 須藤　あゆみ
25	七宝焼き　絵の具を盛る・焼成	次回までに分析シートを提出すること（概ね30分程度）	熊谷　竜太 須藤　あゆみ
26	テーブルゲーム　説明と体験		熊谷　竜太 須藤　あゆみ
27	テーブルゲーム　体験と分析	次回までに分析シートを提出すること（概ね30分程度）	熊谷　竜太 須藤　あゆみ
28	発表準備 (グループで作業活動を選び包括的作業分析を行う)		須藤　あゆみ 熊谷　竜太
29	発表	発表を行うための準備しておくこと	須藤　あゆみ 熊谷　竜太
30	発表をもとにデスカッション		須藤　あゆみ 熊谷　竜太
教科書	「標準作業療法学　専門分野　基礎作業学　第3版」濱口豊太編集、医学書院		
参考文献	「「作業」って何だろう　作業科学入門　第2版」吉川ひろみ著、医歯薬出版株式会社		
備考	演習の際は動きやすい服装で参加してください。課題のフィードバックは講義内で適宜行います。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
熊谷：精神障害領域での作業療法に長年従事してきた。この経験をもとに授業を担当する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●			●	

科目ナンバリング
RO-2-ASO-01

科目名	作業療法評価学原論				単位認定者	戸田　祐子		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＯＴ	必修	１年	開講時期	前期	単位数	1　単位			
				授業形態	講義	授業時間数	16　時間			
						授業回数	8　回			

授業の概要	対象者の障害や予後予測を踏まえた上で、作業機能障害に焦点を当てた評価計画を立案することができるよう、評価の目的と概要について学んでいく。 また、身体障害領域、精神障害領域など、作業療法士が関わる各領域の評価の特色について理解するとともに、複数の評価結果を統合し、対象者の状態を俯瞰的に捉え、理解することができるよう、クリニカルリーズニング（臨床的推論）の手法についても理解を深めていく。
到達目標	作業療法評価の意義や位置づけを理解し、説明できるようになる。評価にあたって、対象者に対する説明と了承のもと実施する基本的姿勢を身に付け、苦痛や疲労に対する配慮ができるようになる。専門用語を正しく理解し、記録に活かすことができるようになる。
学修者への期待等	評価とは何か、評価する意義や目的は何かを問う姿勢をもって授業に臨んでください。 授業の復習や用語の整理を行い、関連科目でいかせるよう取り組んでください。

回	授業計画	準備学修	担当
1	評価とは何か　ICIDHとICF	教科書p3～7を授業前に読んでおくこと（概ね30分）	戸田　祐子
2	作業療法の実践過程	教科書p8～14を授業前に読んでおくこと（概ね30分）	戸田　祐子
3	評価の手順	教科書p15～22を授業前に読んでおくこと。（概ね30分）事後、復習すること（概ね30分）	戸田　祐子
4	再評価と効果判定	教科書p23～27を授業前に読んでおくこと（概ね30分）事後、復習すること（概ね30分）	戸田　祐子
5	記録・報告の重要性	教科書p28～32を授業前に読んでおくこと（概ね30分）	戸田　祐子
6	面接の種類と方法について理解する	LMSで提示する事前資料を読んでおくこと（概ね30分）	熊谷　竜太
7	観察の種類と方法について理解する（個別）	LMSで提示する事前資料を読んでおくこと（概ね30分）	熊谷　竜太
8	観察の種類と方法について理解する（集団）	LMSで提示する事前資料を読んでおくこと（概ね30分）	熊谷　竜太

教科書	「標準作業療法評価学　専門分野　作業療法評価学」第3版　能登真一他編、医学書院 「ひとと集団・場　治療や援助、支援における場と集団のもちい方」（新版）山根寛著、三輪書店
参考文献	「作業で語る事例報告　作業療法レジメの書きかた・考えかた」齋藤佑樹編集、医学書院
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
戸田：高齢期領域の作業療法に従事し、作業療法対象者の評価をもとに生活に着目した作業療法を実践してきた。また、臨床実習指導者として学生の教育にも携わってきた。これらの経験をもとに講義を担当する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
RO-2-ASO-02

科目名	身体機能作業療法評価学実習				単位認定者	山口　志津枝		評価の方法	試験(筆記)	60　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＯＴ	必修	１年	開講時期	通年	単位数	１　単位		試験(実技)	40　%
						授業時間数	44　時間			
				授業形態	実習	授業回数	22　回			

授業の概要	身体機能の障害により作業遂行に支障をきたした対象者に適切な評価が行えるよう、評価の基礎を学習する。 また、画像情報からの障害予測や検査測定の基本的な実施方法、手順の理論的根拠を学び、実習を通し的確に行えるよう技術を身につける。
到達目標	１．各検査・測定の目的・方法が説明できるようになる。 ２．各検査・測定の方法を基本手順で実施できるようになる。
学修者への期待等	実習科目ですので、実技ができる服装で参加してください。 時間が限られているため、自己学修を心がけ修得に努めてください。

回	授業計画	準備学修	担当
1	姿勢分析、シェーマの書き方【実技】	事前配付した資料を読むこと。（１時間程度）	山口　志津枝
2	STEF（簡易上肢機能検査）【実技】	教科書（評価学）P205-206「簡易上肢機能検査」を読むこと。（30分程度）	山口　志津枝
3	感覚検査【実技】	教科書（評価学）P114-129「感覚検査」を読むこと。（１時間程度）	山口　志津枝
4	筋緊張検査、姿勢反射【実技】	教科書（評価学）P151-159「筋緊張検査」を読むこと。（30分程度）	山口　志津枝
5	腱反射【実技】	教科書（評価学）P130-137「反射検査」を読むこと。（30分程度）	山口　志津枝
6	全身状態の確認【実技】	教科書（評価学）P53-58「意識の評価およびバイタルサインの測定」を読むこと。（30分程度）	山口　志津枝
7	バイタル測定：呼吸、血圧【実技】	前回の復習を十分に行っておくこと。（30分程度）	山口　志津枝
8	形態計測①：四肢長【実技】	教科書（評価学）「形態計測」を読んで授業に臨むこと。復習をすること。（１時間程度）	戸田　祐子
9	形態計測②：周径、体格指標【実技】	教科書（評価学）「形態計測」を読んで授業に臨むこと。復習をすること。（1時間程度）	戸田　祐子
10	関節可動域検査①：測定方法、肘関節・手関節【実技】	教科書（評価学）の関節可動域測定（P72-81）を読んで授業に臨むこと。（１時間程度）	山口　志津枝
11	関節可動域検査②：肩甲帯・肩関節【実技】	前回の復習と教科書（評価学）の関節可動域表示ならびに測定法の肩甲骨・肩関節を憶え授業に臨むこと。（１時間程度）	山口　志津枝
12	関節可動域検査③：前腕・股関節【実技】	前回の復習と教科書（評価学）の関節可動域表示ならびに測定法の前腕・股関節を憶え授業に臨むこと。（１時間程度）	山口　志津枝
13	関節可動域検査④：膝関節・足関節【実技】	前回の復習と教科書（評価学）の関節可動域表示ならびに測定法の膝関節・足関節を憶え授業に臨むこと。（１時間程度）	山口　志津枝
14	関節可動域検査⑤：頸部・体幹・手指【実技】	前回の復習と教科書（評価学）の関節可動域表示ならびに測定法の頸部・体幹を憶え授業に臨むこと。（１時間程度）	山口　志津枝
15	筋力検査①：肩関節・肘関節【実技】	新・徒手筋力検査法第1章、第2章を読んで授業に臨むこと。（30分程度）	戸田　祐子

回	授業計画	準備学修	担当
16	筋力検査②：肩甲帯・手関節【実技】	新･徒手筋力検査法第5章の該当箇所を読んで授業に臨むこと。（約30分）	戸田　祐子
17	筋力検査③：前腕・股関節【実技】	新･徒手筋力検査法第5章、第6章の該当箇所を読んで授業に臨むこと。（約30分）	戸田　祐子
18	筋力検査④：股関節・膝関節【実技】	新･徒手筋力検査法第6章の該当箇所を読んで授業に臨むこと。（約30分）	戸田　祐子
19	筋力検査⑤：足関節、その他【実技】	新･徒手筋力検査法第6章の該当箇所を読んで授業に臨むこと。（約30分）	戸田　祐子
20	動作分析、記録【演習】	事前配付した資料を読むこと。（１時間程度）	山口　志津枝
21	X線画像評価【演習】	事前配付した資料を読むこと。（１時間程度）	山口　志津枝
22	CT・MRI画像評価【演習】	事前配付した資料を読むこと。（１時間程度）	山口　志津枝
教科書	「標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学」第３版　能登真一他編、医学書院* 「新・徒手筋力検査法」原著第９版　Helen J.Hislop、Jacqueline Montgomery　著、協同医書出版社 *作業療法評価学原論と同じ教科書を使用する		
参考文献	「運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）」改訂第2版　林典雄著、メジカルビュー社 「運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）」改訂第2版　林典雄著、メジカルビュー社		
備考			

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
山口：身体障害領域や高齢期領域での作業療法に長年従事し、作業療法対象者の状態把握から治療のための基礎としてはもちろん、臨床実習指導者として学生教育を通し評価についての見聞を深めてきた。この経験をもとに講義を担当する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
RO-2-ASO-03

科目名	精神機能作業療法評価学実習				単位認定者	熊谷　竜太		評価の方法	授業内課題	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	１年	開講時期	後期	単位数	１　単位			
						授業時間数	44　時間			
				授業形態	実習	授業回数	22　回			

授業の概要	精神機能及び心理・社会的要因により生活や作業遂行に支障を来した対象者に適切な評価が行えるよう評価の基礎を学修する。援助のために必要な評価の視点、面接、観察、検査の方法のための知識を学修するとともに技術・態度を修得する。 また、自己分析を行うことで自己の治療的利用の視点を考える機会とする。
到達目標	1.精神・心理機能面を理解するために、必要な知識や技術を身に付けることができる。 2.観察や面接を行う上で、基本となるコミュニケーション技能を身に付けることができる。 3.観察や面接の演習から自身の知識や技術の振り返りを行い、常に自分課題の克服や目標達成に取り組むことができる。
学修者への期待等	この科目ではディスカッションが多いため、活発に意見を発言することが望ましい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	授業の導入① 精神障害をめぐる社会の対応を考える	DVDを視聴するため、メモの準備を忘れないこと	須藤　あゆみ
2	授業の導入② 精神障がい者が地域社会で暮らすことを考える	課題を提示するため、次回まで提出するように準備すること（概ね30分程度）	須藤　あゆみ
3	精神障害に対する処遇の歴史から「現状」について		須藤　あゆみ
4	精神・心理機能について ひとと関わることについて		須藤　あゆみ
5	精神障害の特性について	教科書のｐ2～26を読んでくること。（30分程度）	須藤　あゆみ
6	精神障害に対する作業療法①基礎理論	教科書のｐ330～350を読んでくること。（30分程度）	須藤　あゆみ
7	精神障害に対する作業療法②症例を通して		須藤　あゆみ
8	精神障害に対する作業療法③治療構造（対象者・作業療法士）	教科書のｐ86～92、ｐ117～121を読んでくること。（30分程度）	須藤　あゆみ
9	精神障害に対する作業療法④治療構造（作業）	教科書のｐ92～117を読んでくること。（30分程度）	須藤　あゆみ
10	精神障害に対する作業療法⑤治療構造（集団）	教科書のｐ122～141を読んでくること。（30分程度）	須藤　あゆみ
11	自己を理解する①エゴグラム・ジョハリの窓	授業内課題を次回まで提出すること	須藤　あゆみ
12	自己を理解する②職業適応検査	授業内課題を次回まで提出すること	須藤　あゆみ
13	パーソナルスペースの測定		須藤　あゆみ
14	ディスカッション：他者のパーソナルスペースへの配慮について考える	自分のパーソナルスペースの特徴をまとめておくこと	須藤　あゆみ
15	観察のポイントについて 作業活動場面の観察の実施	LMSの資料に目を通しておくこと（概ね30分）	熊谷　竜太

回	授業計画	準備学修	担当
16	ディスカッション：作業活動場面の観察を行うスキルを向上させるために必要なことは何か	観察した内容をまとめておくこと	熊谷　竜太
17	面接のポイントについて 質問項目の作成	LMSの資料に目を通しておくこと（概ね30分）	熊谷　竜太
18	面接の実施	LMSの資料に目を通しておくこと（概ね30分）	熊谷　竜太
19	ディスカッション：面接を行うスキルを向上させるために必要なことは何か	実施した内容をまとめておくこと（概ね１時間）	熊谷　竜太
20	作業面接のポイントについて	LMSの資料に目を通しておくこと（概ね30分）	熊谷　竜太
21	構成的作業面接の実施　投影的作業面接の実施	LMSの資料に目を通しておくこと（概ね30分）	熊谷　竜太
22	ディスカッション：作業面接を行うスキルを向上させるために必要なことは何か	18、19の授業内容をまとめておくこと	熊谷　竜太
教科書	「精神障害と作業療法　病いを生きる、病いと生きる　精神認知系作業療法の理論と実践」山根寛著、三輪書店		
参考文献	「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学」岩崎テル子他編、医学書院		
備考	授業内課題のフィードバックは適宜行います。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
それぞれ精神障害領域での作業療法に長年従事してきた。その経験を活かし、作業療法対象者の状態把握ための評価について体験を通し、わかりやすく教授する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●			●	

科目ナンバリング
RO-2-TOT-01

科目名	作業療法治療学				単位認定者	齋藤　佑樹		評価の方法	試験 (レポート)	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	１年	開講時期	前期	単位数	1　単位			
				授業時間数			20　時間			
				授業形態	講義	授業回数	10　回			

授業の概要	作業療法の流れを知るとともに治療過程に大切な各障害の原因や機序、治療原理、治療技法の原則について学修する。 また、各領域・疾患・病期それぞれが持つ特徴を理解し、共感的態度および協働的姿勢を身につける。
到達目標	作業療法のプロセスを説明できる。 臨床的推論に必要な視点や知識を身につけることができる。
学修者への期待等	断片的に身につけた知識・技術を統合するために必要な考え方を学びます。グループワークを多く取り入れますので、積極的な参加を期待します。

回	授業計画	準備学修
1	ICIDHとICF（講義）	授業の内容をノートにまとめること （30分程度）
2	作業療法のプロセス（講義）	授業の内容をノートにまとめること （30分程度）
3	トップダウンとボトムアップ（講義、グループワーク）	授業の内容をノートにまとめること （30分程度）
4	クリニカルリーズニング① （講義）	授業の内容をノートにまとめること （30分程度）
5	クリニカルリーズニング② （CROTを用いたグループワーク）	授業の内容をノートにまとめること （30分程度）
6	意思決定モデルと目標設定（講義）	授業の内容をノートにまとめること （30分程度）
7	4つの介入モデル（講義、グループワーク）	授業の内容をノートにまとめること （30分程度）
8	作業療法の実際①　（医療機関） （講義、グループワーク）	授業の内容をノートにまとめること （30分程度）
9	作業療法の実際②　（施設） （講義、グループワーク）	授業の内容をノートにまとめること （30分程度）
10	作業療法の実際③　（地域） （講義、グループワーク）	授業の内容をノートにまとめること （30分程度）

教科書	「作業で語る事例報告－作業療法レジメの書き方・考え方－」齋藤佑樹編、医学書院* *作業療法概論と同じ教科書を使用します
参考文献	臨床作業療法NOVA Vol.17 No.2「作業療法と目標設定」齋藤佑樹編、青海社
備考	授業内で使用する資料は、毎回前日までにLMSに投稿します。印刷・PC上の閲覧、どちらでも構いません。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
総合病院に勤務しながら、長年身体障害領域の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、作業療法プロセスや介入の実際について講義を行う。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
RO-2-TOT-02

科目名	作業療法治療学演習				単位認定者	髙橋　慧		評価の方法	試験(筆記)	40　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＯＴ	必修	１年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題	60　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	演習	授業回数	15　回			

授業の概要	演習にて各領域の代表的症例の作業療法治療過程を実践することで臨床的思考過程を学ぶ。 また、各領域の代表的な治療アプローチを体験することで障害像の理解を深める。
到達目標	１．各領域の主要疾患の作業療法の目的を説明することができる。 ２．各領域の主要疾患の障害の特徴を説明することができる。 ３．各領域の主要疾患の治療例を列挙することができる。
学修者への期待等	演習・実技を通し、問題解決方法の手段を学んでください。

回	授業計画	準備学修	担当
1	授業ガイダンスと作業療法治療学への導入、科目の位置付けと学修の進め方	作業療法の対象疾患を調べておくこと。（30分程度）	髙橋　慧 戸田　祐子
2	症例の病態理解と評価計画の立て方	作業療法治療学を復習しておくこと（30分程度）	髙橋　慧 戸田　祐子
3	症例を通して学ぶ臨床思考：身体障害領域【グループワーク】	身体障害領域の疾患を調べておくこと（30分程度）	髙橋　慧 戸田　祐子
4	身体障害領域の作業療法：骨折①　上肢【演習】	作業療法プロセスを復習しておくこと（30分程度）	髙橋　慧 戸田　祐子
5	身体障害領域の作業療法：骨折②　下肢【演習】	評価項目・骨折の治療について調べておくこと（30分程度）	髙橋　慧 戸田　祐子
6	身体障害領域の作業療法：脳血管疾患について【演習】	脳血管障害の種類を調べておくこと（30分程度）	髙橋　慧 戸田　祐子
7	身体障害領域の作業療法：脳血管疾患の後遺症について【演習】	脳血管障害の種類を調べておくこと（30分程度）	髙橋　慧 戸田　祐子
8	身体障害領域の作業療法：脊髄損傷【演習】	脊髄損傷の症状を調べておくこと（30程度）	髙橋　慧 戸田　祐子
9	身体障害領域の作業療法：パーキンソン病【演習】	パーキンソン病の種類を調べておくこと（30分程度）	髙橋　慧 戸田　祐子
10	高齢期領域の作業療法：認知症【演習】	認知症の種類を調べておくこと（30分程度）	髙橋　慧 戸田　祐子
11	高齢期領域の作業療法：関節リウマチ【演習】	関節リウマチの種類を調べておくこと（30分程度）	髙橋　慧 戸田　祐子
12	高齢期領域の作業療法：内部障害【演習】	内部障害の種類を調べておくこと（30分程度）	髙橋　慧 戸田　祐子
13	高齢期領域の作業療法：フレイル・廃用【演習】	フレイル・廃用の種類を調べておくこと（30分程度）	髙橋　慧 戸田　祐子
14	発達障害領域の作業療法：（広汎性発達障害）【演習】	広汎性発達障害の疾患を調べておくこと（30分程度）	髙橋　慧 戸田　祐子
15	精神障害領域の作業療法：（統合失調症・気分障害）【演習】	統合失調症・気分障害の疾患を調べておくこと（30分程度）	髙橋　慧 戸田　祐子

教科書	①「標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版」山口昇、玉垣努 編、医学書院 ②「PT・OTビジュアルテキスト 身体障害作業療法学1 骨関節・神経疾患編 第1版」小林隆司編、羊土社
参考文献	「病気がみえるvol７　脳・神経」医療情報科学研究所編、メディックメディア
備考	授業内課題のフィードバックは適宜行います。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	

科目ナンバリング
RO-2-TOT-03

科目名	作業療法基礎演習				単位認定者	須藤　あゆみ		評価の方法	授業内課題	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＯＴ	必修	１年	開講時期	通年	単位数	１　単位			
				授業形態	演習	授業時間数	30　時間			
						授業回数	15　回			

授業の概要	作業療法実践に必要な知識・技術・態度について、相互学習法を用いて学びながら分担、協力などのチームアプローチの基盤作りを行う。 また、その過程で自己の課題を認識することや課題解決のための手段を修得すること、そして生涯学び続けるために必要な自己管理能力の向上を図る。
到達目標	１．大学で学ぶことの意義を理解し、積極的に学ぶための学修姿勢を身につける。 ２．学修を継続する力を身につける。 ３．学年を超えた学生間の情報交換・交流ができる。
学修者への期待等	１．積極的にグループ演習に参加すること ２．到達目標を達成するためにグループ演習で用意された課題にしっかりと取り組むこと。

回	授業計画	準備学修	担当
1	授業ガイダンス　効率的な勉強に必要なこと	シラバスを確認すること。	須藤　あゆみ 髙橋　慧
2	臨床実習を知る①：臨床実習の概要		須藤　あゆみ 髙橋　慧
3	臨床実習を知る②：臨床実習Ⅲの報告会に参加	LMSの資料に目を通しておくこと	須藤　あゆみ 髙橋　慧
4	臨床実習を知る③：デスカッション	第3回で興味を持ったり、疑問に思った点を整理し臨むこと。（概ね30分）	須藤　あゆみ 髙橋　慧
5	勉強会①グループ学修の進め方		須藤　あゆみ 髙橋　慧
6	勉強会②グループ学修：課題の抽出		須藤　あゆみ 髙橋　慧
7	勉強会③グループ学修：課題の実践	レジュメ作成及びパワーポイントにて発表準備をすること。（概ね60分程度）	須藤　あゆみ 髙橋　慧
8	国家試験を知る		須藤　あゆみ 髙橋　慧
9	国家試験を知る：グループ学修①課題の抽出・計画		須藤　あゆみ 髙橋　慧
10	国家試験を知る：グループ学修②例題について調べ解説を作成する	第9回での課題を実施すること（概ね60分）	須藤　あゆみ 髙橋　慧
11	国家試験を知る：グループ学修③例題について調べ解説を作成する	第9回での課題を実施すること（概ね60分）	須藤　あゆみ 髙橋　慧
12	国家試験を知る：グループ学修④例題について調べ解説を作成する	第9回での課題を実施すること（概ね60分）	須藤　あゆみ 髙橋　慧
13	国家試験を知る：グループ学修⑤例題について調べ解説を作成する	第9回での課題を実施すること（概ね60分）	須藤　あゆみ 髙橋　慧
14	国家試験を知る：グループ学修⑥発表会	これまで学んだことの復習をしておくこと。（概ね60分程度）	須藤　あゆみ 髙橋　慧
15	まとめ	これまで学んだことの復習をしておくこと。（概ね60分程度）	須藤　あゆみ 髙橋　慧

教科書	なし
参考文献	
備考	授業内課題へのフィードバックは適宜行います

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●			

科目ナンバリング
RO-2-TOT-04

科目名	日常生活活動学				単位認定者	山口　志津枝		評価の方法	授業内課題	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	１年	開講時期	後期	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	日常生活活動の概念と範囲について理解する。基本的日常生活活動の過程や、活動に必要とされる心身機能、影響を与える環境要因について、講義や健常者の分析演習を通じて基本的な知識を修得する。 また、各活動が制限された状態について考えながら、作業療法における援助の視点を修得するとともに自助具や福祉用具の適応についても学修する。
到達目標	1.日常生活活動について、具体的に活動の特徴を説明することができるようになる。 2.各活動の特徴を、作業療法評価につなげることができるようになる。 3.自助具や福祉用の特徴を説明できるようになる。
学修者への期待等	この科目ではディスカッションが多いため、活発に意見を発言することが望ましい。

回	授業計画	準備学修
1	日常生活活動の概念と範囲	
2	日常生活活動の成り立ちと作業療法	LMSの資料に目を通しておくこと （30分程度）
3	日常生活活動の構成、観察の視点	LMSの資料に目を通しておくこと （30分程度）
4	ディスカッション①　～食事動作～	食事の動画を撮影しておくこと
5	ディスカッション②　～整容動作～	整容の動画を撮影しておくこと
6	ディスカッション③　～更衣動作～	更衣の工程を復習しておくこと
7	ディスカッション④　～入浴動作～	入浴の工程を復習しておくこと
8	ディスカッション⑤　～排泄動作～	排泄の工程を復習しておくこと
9	ディスカッション⑥　～起居・移動動作～	起居・移動の動画を撮影しておくこと
10	炊事活動の工程分析①　調理場面の観察	LMSの資料に目を通しておくこと （30分程度）
11	炊事活動の工程分析②　調理場面の記録	
12	日常生活活動の障害と自立	LMSの資料に目を通しておくこと （30分程度）
13	日常生活活動の評価	LMSの資料に目を通しておくこと （30分程度）
14	自助具・福祉用具について	LMSの資料に目を通しておくこと （30分程度）
15	自助具の作成	計画書を立案し、必要な物を準備しておくこと

教科書	「日常生活活動・社会生活行為学」濱口豊太編集、医学書院
参考文献	「作業療法学全書　改訂第3版 第10巻　作業療法技術学2　福祉用具の使い方、住環境整備」木之瀬隆　編集 協同医書出版社 「新版日常生活活動(ADL)評価と支援の実際」伊藤 利之編集、医歯薬出版
備考	授業内課題へのフィードバックは適宜行います

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	

科目ナンバリング
RO-2-TOT-05

科目名	臨床作業療法演習Ⅰ				単位認定者	熊谷　竜太		評価の方法	授業内課題	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＯＴ	必修	１年	開講時期	通年	単位数	2　単位			
						授業時間数	60　時間			
				授業形態	演習	授業回数	30　回			

授業の概要	臨床現場で関わる頻度の多い疾患について、演習を通して一連の作業療法過程について学修する。各疾患の障害像から明確な根拠をもとに評価の選択ができるよう学修する。
到達目標	1. 対象者を理解するための臨床思考過程について理解する。 2. 提示の疾患に対し、適切な評価が実施できるように病態を理解できるようになる。 3. 提示の疾患に対し、評価計画を立案できるようになる。 4. 評価計画の内容について、説明できるようになる。
学修者への期待等	この科目ではグループワークが多いため、活発に意見を発言することが望ましい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	対象者を理解するための臨床思考過程について		熊谷　竜太
2	仮説と評価計画の立て方について	事前配付の資料で予習（30分程度）	熊谷　竜太
3	症例を通して学ぶ臨床思考過程①　身体障害	事前配付の資料で予習（30分程度）	齋藤　佑樹
4	症例を通して学ぶ臨床思考過程②　老年期障害（認知機能障害）	事前配付の資料で予習（30分程度）	戸田　祐子
5	症例を通して学ぶ臨床思考過程③　老年期障害（加齢変化に伴う障害）	事前配付の資料で予習（30分程度）	戸田　祐子
6	症例を通して学ぶ臨床思考過程④　精神障害	事前配付の資料で予習（30分程度）	熊谷　竜太
7	症例を通して学ぶ臨床思考過程⑤　発達障害	事前配付の資料で予習（30分程度）	熊谷　竜太
8	事例検討①　事例提示	事前配付の資料で予習（30分程度）	熊谷　竜太
9	病態理解と仮説（グループワーク）	第8回の内容を復習（30分程度）	熊谷　竜太
10	評価計画立案（グループワーク）	第9回の内容を復習（30分程度）	熊谷　竜太
11	事例検討②　事例提示	第3回の内容を復習（30分程度）	齋藤　佑樹
12	病態理解と仮説（グループワーク）	第11回の内容を復習（30分程度）	齋藤　佑樹
13	評価計画立案（グループワーク）	第12回の内容を復習（30分程度）	齋藤　佑樹
14	発表	発表の準備をグループで行うこと	齋藤　佑樹
15	事例検討③　事例提示	第4回の内容を復習（30分程度）	戸田　祐子

回	授業計画	準備学修	担当
16	病態理解と仮説（グループワーク）	第15回の内容を復習（30分程度）	戸田　祐子
17	評価計画立案（グループワーク）	第16回の内容を復習（30分程度）	戸田　祐子
18	発表	発表の準備をグループで行うこと	戸田　祐子
19	事例検討④　事例提示	第5回の内容を復習（30分程度）	戸田　祐子
20	病態理解と仮説（グループワーク）	第19回の内容を復習（30分程度）	戸田　祐子
21	評価計画立案（グループワーク）	第20回の内容を復習（30分程度）	戸田　祐子
22	発表	発表の準備をグループで行うこと	戸田　祐子
23	事例検討⑤　事例提示	第6回の内容を復習（30分程度）	熊谷　竜太
24	病態理解と仮説（グループワーク）	第23回の内容を復習（30分程度）	熊谷　竜太
25	評価計画立案（グループワーク）	第24回の内容を復習（30分程度）	熊谷　竜太
26	発表	発表の準備をグループで行うこと	熊谷　竜太
27	事例検討⑥　事例提示	第7回の内容を復習（30分程度）	熊谷　竜太
28	病態理解と仮説（グループワーク）	第28回の内容を復習（30分程度）	熊谷　竜太
29	評価計画立案（グループワーク）	第29回の内容を復習（30分程度）	熊谷　竜太
30	発表	発表の準備をグループで行うこと	熊谷　竜太
教科書	「作業で語る事例報告 作業療法レジメの書き方・考え方」齋藤佑樹 編、医学書院* 「標準作業療法学　専門分野　高齢期作業療法学」松房利憲　医学書院 「精神障害作業療法学」山口芳文、野本義則　メジカルビュー社 「発達障害作業療法学」長崎重信、神作一実　メジカルビュー社 *作業療法概論と同じ教科書を使用する		
参考文献	「標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学」第３版　能登真一他編、医学書院		
備考	授業内課題のフィードバックは適宜行います。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
熊谷：身体障害、高齢期、精神障害などの各領域で作業療法に長年従事してきた。その経験を活かし、作業療法対象者の状態把握ための評価について体験を通し、わかりやすく教授する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●		●

科目ナンバリング
RO-2-CLP-01

科目名	臨床実習Ⅰ（体験実習）				単位認定者	齋藤　佑樹		評価の方法	実習内容	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	１年	開講時期	通年	単位数	2　単位			
						授業時間数	90　時間			
				授業形態	実習	授業回数	－　回			

授業の概要	臨床実習Ⅰ（体験実習）では、実習施設において実際の作業療法を見聞、体験することで作業療法に対する認識を高めることを目的とする。入学直後に行う早期体験実習を通して作業療法士になるための自覚を持つとともに、後期の体験実習では、作業療法士の活動見学や作業療法体験を通し、対象者からの情報収集やコミュニケーションの取り方・接し方など作業療法士に必要な基本的資質を身につける。 また、臨床現場における作業療法士の役割と位置づけ、他職種との連携などを通して、リハビリテーションチームとは何かを学修する。
学修者への期待等	臨床実習にあたっての意義や目的は実習の手引き書の他に臨床実習ガイダンスや各授業においても示す。臨床実習ではこれまで学修した知識及び技術を総動員して主体的に臨むこと。また、記録の作成、提出期限の厳守や施設における規則・心得を守り、実習生として責任ある行動を取ること。

授業計画	準備学修
１．実習期間 前半：2022年5月16日～（１週間） 後半：2023年2月20日～（１週間） ２．実習目的・目標 （１）臨床実習施設の役割と機能を理解する。 １）臨床見学施設が提供するサービスを列挙できる。 ２）施設を利用している利用者の疾患や障害を述べることができる。 ３）サービスを担当する他職種の役割を知り、職種間の連携について考える。 ４）臨床実習施設の作業療法士が担っている役割を述べることができる。 （２）実際の作業療法場面を見学し、作業療法の業務内容を理解する。 １）作業療法場面における利用者の特性や抱えている問題を具体的に述べることができる。 ２）作業療法士の助言・指導により、作業療法場面における利用者の治療・援助・指導上の目標を考えることができる。 ３）観察と作業療法士からの情報により、作業療法場面における治療の目的を考えることができる。 （３）見学・体験した内容をまとめ、表現する能力を養う。 １）見学・体験した内容の記録ができる。 ２）必要な用語や適切な表現ができる。 ３）指導を受けた内容を正しく把握し、次に活かせる記録ができる。 ４）わからないこと、知りたいことを適切に質問することができる。 ５）適切な相手に必要な報告をわかりやすく伝えることができる。 （４）作業療法士の適性はどのようなものかを見学を通して認識し、今後の学修に対する動機付けとする。 １）作業療法場面における作業療法士の利用者への接し方（臨床的態度）について、観察できる。 ２）利用者との関わりを通して配慮しなければならないことを列挙できる。 ３）接し方に配慮しながら利用者とコミュニケートできる。 ４）作業療法士になるために必要な知識・技術を修得する動機付けを高めることができる。 ５）作業療法士になるために必要な学修の意味や関連性を述べることができる。 ６）作業療法士になるために今後身につけなければならないことを、具体的に述べることができる。 ７）疑問を持つことができ、その点についてそのままにせずに答えを出す努力を示すことができる。 ８）不明な事について自ら相談し助言を求めることができる。 ９）臨床実習施設の規則を守ることができる。 ３．実習計画 （１）実習場所は作業療法士が従事している施設とする。 （２）実習時間は１日を概ね８時間とする。 （３）毎日の臨床実習記録を臨床実習指導者に提出し指導を受ける。 （４）臨床実習最終日、学内でのグループワークで実習成果の共有を図る。	ガイダンス及びセミナーに参加すること。

教科書	特に指定しない
参考文献	「臨床実習の手引き」を配付する。
備考	提出物のフィードバックは、講義内（全体）および講義外（個別対応）に実施する。 担当者　作業療法学専攻教員：齋藤佑樹、山口志津枝、須藤あゆみ、戸田祐子、熊谷竜太、髙橋慧

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●		●		●

科目ナンバリング
RO-2-CBO-01

科目名	地域リハビリテーション論				単位認定者	戸田　祐子		評価の方法	試験（レポート）	30　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＯＴ	必修	１年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題	70　%
						授業時間数	16　時間			
				授業形態	講義	授業回数	8　回			

授業の概要	地域で作業療法を実践していくため、基礎となる「地域」そのものの特徴や「地域」で生活する意味を障害の有無に関わらず捉える視点、法制度について学ぶ。地域で生活する障害者の生活を支え、地域包括ケアに貢献できる作業療法士として必要な知識、技能を理解する。
到達目標	1.地域リハビリテーションを理解するうえで必要なノーマライゼーションや制度、社会資源、他職種の役割を学び、説明できるようになる。 2.「地域」における社会生活支援について学び、説明できるようになる。 3. 車いすの基本的な操作方法や介助方法を理解し、社会生活を送る上での車椅子利用の問題点や利便性を説明できるようになる
学修者への期待等	授業の中でディスカッションを行うため、積極的に意見を発言すること。他人の意見を聞く耳と、相手に届く言葉を選択し、意見を伝えることができるようになるよう、柔軟な思考をもって授業に臨むこと。

回	授業計画	準備学修
1	「地域」とは何か。 身近な地域である仙台市を調べる	事後の課題をしっかり行ってください。 （概ね1時間）
2	「地域医療」とは何か。 出身地と長町の「地域」の差を調べる	事後の課題をしっかり行ってください。 （概ね1時間）
3	1・2の内容をまとめて、地域の差についてプレゼンテーションする。「地域リハビリテーション」とは何か	発表準備を各自行ってください。 （概ね1時間）
4	地域における連携と協働について。OTと他職種連携をする業種について調べ、ディスカッションする。	3の授業終了後に4で準備すべき内容について説明します。授業の中でディスカッションできるように準備をしてください。（概ね1時間）
5	車椅子の構造、基本的な操作方法 車椅子体験計画	復習し安全に操作や介助ができるようにしましょう。（概ね1時間）
6	車椅子体験：屋外での車椅子操作及び介助方法（実習・フィールドワーク）	体験前に迷わないように各グループでスケジュールを確認しておいてください。
7	車椅子体験：屋外での商店街等散策・公共施設・商業施設の利用（実習・フィールドワーク）	ルールに則り記録（写真・動画など）をしましょう。8の発表に効果的に活用してください。
8	車椅子体験の発表・ディスカッション 社会資源の利用について	事前：6・7の体験をふまえ、発表準備を行ってください。（概ね1時間）

教科書	「標準作業療法学　専門分野　地域作業療法学」（第3版）大熊明他編、医学書院
参考文献	特になし
備考	課題のフィードバックは授業時間外に行います。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

リハビリテーション学科

作業療法学専攻
２年生

【2021（令和３）年度入学生】

■　年間予定表

■　シラバス

2022(令和4)年度 リハビリテーション学科 作業療法学専攻2年生 年間予定表

前期

	日		月		火		水		木		金		土	
4月	27		28		29		30		31		1		2	
	3		4		5		6	入学式	7		8		9	
	10		11	健康診断	12		13		14		15		16	
	17		18		19		20		21		22		23	
	24		25		26		27		28		29	昭和の日	30	
5月	1		2		3	憲法記念日	4	みどりの日	5	こどもの日	6		7	
	8		9		10		11		12		13		14	
	15		16		17		18		19		20		21	
	22		23		24		25		26		27		28	
	29		30		31		1		2		3		4	
6月	5		6		7		8		9		10		11	
	12		13		14		15		16		17		18	
	19		20		21		22		23		24		25	
	26		27		28		29		30		1		2	
7月	3		4		5		6		7		8		9	
	10		11		12		13		14		15		16	
	17		18	海の日	19		20		21		22		23	
	24		25		26		27		28		29		30	
	31		1	（定期試験）	2	（定期試験）	3	定期試験	4	定期試験	5	定期試験	6	
8月	7		8	定期試験	9	定期試験	10		11	山の日	12		13	
	14		15		16		17		18		19		20	
	21		22		23		24		25		26		27	
	28		29	再試験	30	再試験	31	再試験	1	再試験	2	再試験	3	
9月	4		5		6		7		8		9		10	
	11		12	臨床実習Ⅱ	13	臨床実習Ⅱ	14	臨床実習Ⅱ	15	臨床実習Ⅱ	16	臨床実習Ⅱ	17	
	18		19	敬老の日	20	臨床実習Ⅱ	21	臨床実習Ⅱ	22	臨床実習Ⅱ	23	秋分の日	24	
	25		26		27		28		29		30		1	

・休講の振替授業日、随時試験・追試験の日程については、LMS又は掲示にて確認してください。
・再試験の日程については、状況に応じて変更になる場合があります。LMS又は掲示にて確認してください。

2022(令和4)年度 リハビリテーション学科 作業療法学専攻2年生 年間予定表

後期

	日		月		火		水		木		金		土	
	25		26		27		28		29		30		1	
10月	2		3		4		5		6		7		8	
	9		10	スポーツの日	11		12		13		14		15	
	16		17		18		19		20		21		22	
	23		24		25		26		27		28		29	せいよう祭
	30		31		1		2		3	文化の日	4		5	
11月	6		7		8		9		10		11		12	
	13		14		15		16		17		18		19	
	20		21		22		23	勤労感謝の日	24		25		26	
	27		28		29		30		1		2		3	
12月	4		5		6		7		8		9		10	
	11		12		13		14		15		16		17	
	18		19	定期試験	20	定期試験	21	定期試験	22	定期試験	23	定期試験	24	
	25		26	（定期試験）	27		28		29		30		31	
1月	1	元旦	2	振替休日	3		4		5		6		7	
	8		9	成人の日	10	再試験	11	再試験	12	再試験	13	再試験	14	
	15		16		17		18		19		20		21	
	22		23	臨床実習Ⅱ	24	臨床実習Ⅱ	25	臨床実習Ⅱ	26	臨床実習Ⅱ	27	臨床実習Ⅱ	28	
	29		30	臨床実習Ⅱ	31	臨床実習Ⅱ	1	臨床実習Ⅱ	2	臨床実習Ⅱ	3	臨床実習Ⅱ	4	
2月	5		6	臨床実習Ⅱ	7	臨床実習Ⅱ	8	臨床実習Ⅱ	9	臨床実習Ⅱ	10	臨床実習Ⅱ	11	建国記念の日
	12		13	臨床実習Ⅱ	14	臨床実習Ⅱ	15	臨床実習Ⅱ	16	臨床実習Ⅱ	17	臨床実習Ⅱ	18	
	19		20		21		22		23	天皇誕生日	24		25	
	26		27		28		1		2		3		4	
3月	5		6		7		8		9		10		11	
	12		13		14		15		16		17		18	
	19		20	卒業式	21	春分の日	22		23		24		25	
	26		27		28		29		30		31			

・休講の振替授業日、随時試験・追試験の日程については、LMS又は掲示にて確認してください。
・再試験の日程については、状況に応じて変更になる場合があります。LMS又は掲示にて確認してください。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●			●	

科目ナンバリング
CO-0-HCU-03

科目名	歴史と文化				単位認定者	丸藤　准二 徳田　幸雄		評価の方法	※詳細は備考欄を参照すること	
対象学科 必修・選択 配当年次	ＰＴ	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1　単位			
	ＯＴ	必修	2年			授業時間数	20　時間			
				授業形態	講義	授業回数	10　回			

授業の概要	こんにちの世界を理解するためには、歴史、宗教、思想などの多様な側面の知識が必要となる。特に、近現代を中心とした歴史や世界の諸宗教の理解は重要である。これらの基礎的知識を身に付け、また、世界に大きな影響を与えた思想や書物などにも触れ、こんにちの世界に対する自己の見識を持てるようになることを目的とする。
到達目標	(丸藤)近現代世界の形成上、重要な歴史事象について、社会・経済・文化の観点から各回主題を設けて講義する。主題に関する諸問題を学ぶことにより、近現代の世界に対する知識・理解を深め、歴史に対する関心を育むことを目標とする。 (徳田)人間のみが持ち得る、歴史や文化、宗教を学ぶことによって、社会人、そして家庭人としても有用な、より深くて、豊かな人間の理解を身に付けることを目標とする。
学修者への期待等	授業を理解するために、毎回必ず出席してください。歴史的事象を理解するのみならず、その事象が現代の世界にどのような影響を与えているかを考えるよう心がけてください。

回	授業計画	準備学修	担当
1	ユダヤ教について －律法の遵守－	授業時に配付するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)	徳田　幸雄
2	キリスト教について －罪からの救い－	授業時に配付するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)	徳田　幸雄
3	イスラームについて －神への服従－	授業時に配付するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)	徳田　幸雄
4	インドの宗教について －業と輪廻－	授業時に配付するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)	徳田　幸雄
5	仏教について －苦からの解脱－	授業時に配付するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)	徳田　幸雄
6	グローバルエコノミーのはじまり ―西欧の拡大により一体化する世界―	レジュメをよく読み、今回の授業内容を理解するとともに、課題を完成させること。(約1時間)	丸藤　准二
7	科学革命と啓蒙 －近代科学の成立と「知」の大転換－	レジュメをよく読み、今回の授業内容を理解するとともに、課題を完成させること。(約1時間)	丸藤　准二
8	産業革命 －人類史の分水嶺：工業化による経済・社会の変革－	レジュメをよく読み、今回の授業内容を理解するとともに、課題を完成させること。(約1時間)	丸藤　准二
9	医療の歴史 ―諸制度の発展と近代社会―	レジュメをよく読み、今回の授業内容を理解するとともに、課題を完成させること。(約1時間)	丸藤　准二
10	現代世界とグローバルヒストリー －現代世界の成立と新しい歴史観－	今回の授業を復習するとともに、これまでの授業全体を理解すること。(約1時間)	丸藤　准二

教科書	教科書は使用せず、授業において適宜資料を配付します。
参考文献	授業において指示します。
備考	講義は全て遠隔(オンデマンド)で実施する。 (評価方法) (丸藤)　授業内課題(全5回)100% (徳田)　授業内課題(全5回)100%

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学修力	5 地域理解力
	●			●	

科目ナンバリング
CO-0-HSO-02

科目名	暮らしの中の法律				単位認定者	湯本　あゆみ		評価の方法	試験（レポート）	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＰＴ	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		受講態度	30　%
	ＯＴ	必修	２年			授業時間数	20　時間			
				授業形態	講義	授業回数	10　回			

授業の概要	法律問題の理解に必要な基本法である憲法、民法等の条文に触れ、法律の基礎知識を修得する。憲法では基本的人権や最近議論されている憲法改正等を、民法では日常生活で生じる契約や家族といった学生にとって身近な法律問題を、積極的に取り上げる。 さらに、身近な法律問題について、具体的な事例を検討させ、事例から結論に至る論理を理解する。他者の意見を理解するとともに、自己の意見を持つ機会を与え、法的思考力を身につける。
到達目標	法の基本原則や概念を理解して説明できるようになる。具体的な法律問題について、法的論理・根拠に基づいて自ら考えて結論を導くことができる。
学修者への期待等	本講義では、法について広く学ぶため、さまざまな法律用語や考え方に触れることとなります。そのため、特に復習に重点を置いて、各講義で学んだことを逐一整理し理解するようにして下さい。「なぜ」という部分を重視し、学修に取り組むようにして下さい。また、各講義の最後に復習問題を出しますので、しっかり取り組むこと。

回	授業計画	準備学修
1	ガイダンス、法学の基礎①法とは何か	法がなぜ存在するのか、社会と法の関係性について復習すること。（概ね30分程度）
2	法の基礎②法の機能、法源	法がどのような機能を有しているのか、法源としてどのようなものが認められているのか、復習すること。（概ね30分程度）
3	法の基礎③法体系の概要	さまざまな法の関係性をしっかり整理すること。（概ね30分程度）
4	刑事裁判	刑事裁判における人権保障の重要性について、復習すること。（概ね30分程度）
5	民事裁判	刑事裁判との違いを意識して、民事裁判について復習すること。（概ね30分程度）
6	憲法①人権	憲法の保障する人権の内容について、しっかり整理すること。（概ね20分程度）
7	憲法②表現の自由	表現の自由の保障がなぜ重要なのかについて、しっかり整理すること。（概ね20分程度）
8	民法　契約と不法行為	契約や不法行為がどのように成立するのかについて、復習すること。（概ね30分程度）
9	民法　家族と相続	家族問題に対して法がどのような解決方法を採用しているのかを復讐すること。（概ね20分程度）
10	刑法　罪刑法定主義など、講義のまとめ	第4回の講義を復習したうえで、罪刑法定主義の意義を整理すること。（概ね30分程度）

教科書	特に指定しない。
参考文献	吉永一行編『法学部入門〔第3版〕』（法律文化社、2020年）。
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。 授業内容は、進度に応じて変更する場合がある。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
RO-1-BSF-10

科目名	運動学演習				単位認定者	山口　志津枝		評価の方法	試験(筆記)	50　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＯＴ	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題	50　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	演習	授業回数	15　回			

授業の概要	運動学演習では、「運動学」及び「運動学実習」で身につけた頭部、体幹、四肢の関節の基本的な構造と運動の知識を踏まえ、動作分析のための知識と思考・技術を学修する。臨床現場で観察される基本姿勢・動作を分析するために、分析し、言語・身体表現する能力を身につける。
到達目標	1. 作業・活動・動作・運動分析とは何かが説明できるようになる。 2. 動作、運動の観察の視点が説明できるようになる。 3. 動作、運動の記載がそれぞれできるようになる。
学修者への期待等	提出物の期限が守れるよう計画的に行動してほしい。

回	授業計画	準備学修
1	授業ガイダンスと運動学演習への導入、学修の進め方 作業・動作分析の種類	基礎作業学を復習しておくこと（30分程度）
2	観察と分析、記録の方法	前回の授業内容の復習と客観・主観の説明ができるよう学修しておくこと（30分程度）
3	姿勢観察【演習】	前回の授業内容と姿勢に関する解剖学、運動学を復習しておくこと（予習、復習各30分程度）
4	姿勢分析【演習】	前回までの内容を終えておくこと（30分～１時間程度）
5	姿勢確認、修正【演習】	前回までの内容を確認しておくこと（30分～１時間程度）
6	立ち上がり動作観察【演習】	立ち上がりに関する解剖学、運動学を復習しておくこと（30分程度）
7	立ち上がり動作分析【演習】	前回までの内容を終えておくこと（30分～１時間程度）
8	立ち上がり動作確認、修正【演習】	前回までの内容を確認しておくこと（30分程度）
9	歩行観察【演習】	歩行に関する解剖学、運動学を復習しておくこと（30分程度）
10	歩行分析【演習】	前回までの内容を終えておくこと（30分～１時間程度）
11	歩行動作確認、修正【演習】	前回までの内容を確認しておくこと（30分程度）
12	ADL観察の基礎	ADL・IADLの概要を復習しておくこと（30分程度）
13	ADL観察【演習】	ADLの工程を復習しておくこと（30分程度）
14	ADL分析【演習】	前回までの内容を終えておくこと（30分～１時間程度）
15	ADL確認、修正【演習】	前回までの内容を確認しておくこと（30分程度）

教科書	「基礎運動学　第６版補訂」中村隆一他著、医歯薬出版株式会社* 「動作分析 臨床活用講座―バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 」石井 慎一郎著、メジカルビュー社* 「PT・OTのための運動学テキスト　基礎・実習・臨床」小柳磨毅他編、金原出版* *1年次購入済み
参考文献	「筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版」Donald A.Neumann原著、医歯薬出版株式会社
備考	授業内課題の提出期限は厳守してください。期限を過ぎた場合は受け取りませんので気をつけてください。 授業内課題のフィードバックは授業時間中に適宜行います。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
RO-1-D&R-03

科目名	内科学				単位認定者	宮城　重人		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	ＰＴ	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位			
	ＯＴ	必修	２年			授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	本講義では、内科疾患に関する診断の進め方、臨床データの解釈、症候学、治療等について学ぶとともに、腹部内臓器の諸疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、アレルギー疾患、その他さまざまな疾患についての理解を深め、理学療法や作業療法を実施する上で知っておくべき知識を身につける。
到達目標	多職種によるチーム医療の一員として活動するうえで、共通言語としての内科学の疾病概念、治療目標を共有できるようになること。そのために１）医学用語を間違いなく読みかつ書け、意味を理解し正しく表出できること。２）各臓器の構造・機能と、その機能障害としての疾病を理解する（疾患の全身に及ぼす機序を理解する）。３）国家試験に備え知識を整理する。
学修者への期待等	医療従事者になるために勉強するのだという責務と緊張感を持って授業に臨んでほしい。授業内容が広範であり、修得すべき知識も膨大であるから、授業中に要点を理解しておき細部については自己学修する姿勢が大切である。

回	授業計画	準備学修	担当
1	「医をまなぶ」医学への関心度（一般的な医学情報に対する質問）	「医学一般に関する学習、事前準備は不要」	田林　晄一
2	症候学	教科書を読み概略をつかんでおく。	赤松 大二朗
3	循環器疾患1　総論（症状・診断）	教科書を読み概略をつかんでおく。 特に心電図診断ついて	赤松 大二朗
4	循環器疾患2　各論	教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。（概ね30分程度） 特に心筋梗塞　不整脈　血管病変について	赤松 大二朗
5	呼吸器疾患1　総論（症状・診断）	教科書を読み概略をつかんでおく。 特に呼吸機能検査について	谷山 裕亮
6	呼吸器疾患2　各論	教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。（概ね30分程度）特に閉塞性肺疾患　肺炎　肺癌　呼吸リハについて	谷山 裕亮
7	消化器疾患1　総論　消化管疾患	教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。（概ね30分程度） 特に食道癌　胃癌　大腸癌について	谷山 裕亮
8	内分泌疾患	教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。（概ね30分程度）	谷山 裕亮
9	消化器疾患2　肝胆膵・腹膜疾患	教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。（概ね30分程度） 特に肝硬変、肝癌について	宮城 重人
10	免疫、感染症	教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。（概ね30分程度）	宮城 重人
11	代謝性疾患（肥満、メタボリック症候群）	教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。（概ね30分程度）	田中 直樹
12	代謝性疾患（糖尿病、脂質代謝異常）	教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。（概ね30分程度）	田中 直樹
13	腎泌尿器疾患	教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。（概ね30分程度） 特に腎不全について	宮城 重人
14	血液疾患1	教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。（概ね30分程度） 特に貧血の分類について	宮城 重人
15	血液疾患2	教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。（概ね30分程度） 特に貧血の分類について	宮城 重人

教科書	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　内科学」前田眞治編、医学書院
参考文献	
備考	ＰＴ・ＯＴ合同授業

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
RO-1-D&R-05

科目名	神経学				単位認定者	佐直　信彦		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＰＴ	必修	２年	開講時期	通年	単位数	2　単位			
	ＯＴ	必修	２年			授業時間数	60　時間			
				授業形態	講義	授業回数	30　回			

授業の概要	本講義では、リハビリテーションの対象となる脳、脊髄、末梢神経、筋の疾患(一部損傷含む)を中心にその病態とリハビリテーションの関連を知る。理学療法や作業療法を実施する上でのリスク管理、臨床検査、医学的治療、生活機能とその障害について学修する。
到達目標	・理学療法士作業療法士に必要な神経学的診療ができるように、授業では動画供覧、実演する。 ・神経症候の基礎と神経・筋疾患の臨床を理解でき、臨床実習では実際の症例で確認できるようになる。 ・疾患の理解に必要な画像診断や検査について説明できるようになる。
学修者への期待等	・神経・筋疾患は理学療法・作業療法の対象となる疾患も多い。しっかり予習・復習をして授業に臨むこと。 ・LMS上の授業資料とコメントをもとに準備すること。授業後はノートやLMS資料への書き込み等を整理し復習に重点を置くこと。

回	授業計画	準備学修
1	神経系の構造と機能(1)　神経系総論、神経組織	教科書p14～31「中枢神経系の解剖と機能」を予習・復習する。（概ね1時間程度）
2	神経系の構造と機能(2)　中枢神経系	教科書p25-26、56-57「末梢神経の構造」と関連する分野を予習・復習する。（概ね1時間程度）
3	神経学的診断：神経学的診察の実際	教科書p35-50「神経学的診断と評価」を予習・復習する。（概ね1時間程度）
4	神経学的検査法(1)　画像診断	教科書p51-56「神経学的検査法：画像診断」を予習・復習する。（概ね1時間程度）
5	神経学的検査法(2)　神経生理学的検査	教科書p56-67「神経学的検査法：神経生理学的検査他）を予習・復習する。（概ね1時間程度）
6	神経症候学(1)　運動麻痺	教科書p79-88「運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮」を予習・復習する。（概ね1時間程度）
7	神経症候学(2)　錐体路徴候：痙縮(痙性麻痺)	教科書p79-88「運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮」を予習・復習する。（概ね1時間程度）
8	神経症候学(3)　錐体外路徴候：固縮、不随意運動	教科書p89-93「錐体外路徴候、不随意運動」を予習・復習する。（概ね1時間程度）
9	神経症候学(4)　運動失調	教科書p94-98「運動失調」、p99-106「感覚障害」を予習・復習する。（概ね1時間程度）
10	神経症候学(5)　高次脳機能障害①　総論、失語(症)	教科書p107-119「高次脳機能障害：総論/失語症」を予習・復習する。（概ね1時間程度）
11	高次脳機能障害②　失認(症)、失行(症)	教科書p120-136「高次脳機能障害：失認/失行」を予習・復習する。（概ね1時間程度）
12	高次脳機能障害③　記憶、知能	教科書p137-142「高次脳機能障害：記憶障害」を予習・復習する。（概ね1時間程度）
13	神経症候学(6)　嚥下障害	教科書p152-156、157-163「嚥下障害」を予習・復習する。（概ね1時間程度）
14	神経症候学(7)　排尿障害	教科書p351-355「排尿障害」を予習・復習する。（概ね1時間程度）
15	総括　神経学的診察の実技と画像「神経診察法」供覧	1-14回の授業資料の整理(概ね1時間程度)

回		準備学修
16	脳血管疾患(1)　定義、分類・診断、症候学、治療、予後	教科書p173-182「Ⅳ神経疾患各論　脳血管障害」前半を予習・復習する。（概ね1時間程度）
17	脳血管疾患(2)　リハビリテーション、在宅支援	教科書p173-182「Ⅳ神経疾患各論　脳血管障害」前半を予習・復習する。（概ね1時間程度）
18	脳損傷　外傷性脳損傷の受傷機転、分類、 症候学的特異性、治療・リハビリテーション	教科書p231-237「外傷性脳損傷(軸索障害を含む）」を予習・復習する。（概ね1時間程度）
19	認知症　定義、病型と診断、薬物療法とリハビリテーション	教科書p204-223「認知症」を予習・復習する。（概ね1時間程度）
20	脊髄損傷(1)　発症機序と神経症候、ASIA高位診断	教科書p238-239「脊髄疾患」を予習・復習する。（概ね1時間程度）
21	脊髄損傷(2)　機能予後、合併症、リハビリテーション	教科書p238-239「脊髄疾患」を予習・復習する。（概ね1時間程度）
22	末梢神経障害(1)　末梢神経損傷	教科書p275-283「末梢神経障害」前半を予習・復習する。（概ね1時間程度）
23	末梢神経障害(2)　末梢性ニューロパチー	教科書p275-283「末梢神経障害」後半を予習・復習する。（概ね1時間程度）
24	変性疾患・脱髄疾患　脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患、多発性硬化症	教科書p253-261「変性疾患・(錐体外路系除く)・脱髄疾患」を予習・復習する。（概ね1時間程度）
25	錐体外路の変性疾患　Parkinnson病の病態、治療	教科書p262-274「錐体外路の変性疾患」を予習・復習する。（概ね1時間程度）
26	筋疾患　筋ジストロフィー、多発性筋炎・皮膚筋炎、筋無力症	教科書p288-301「筋疾患」を予習・復習する。（概ね1時間程度）
27	脳腫瘍　分類と好発部位、症状の特殊性、診断・治療	教科書p224-230「脳腫瘍」を予習・復習する。（概ね1時間程度
28	感染性疾患、内科疾患に伴う神経・筋疾患、栄養欠乏による神経疾患、中毒性神経疾患 病因、症状、検査、診断・治療法、予後	教科書p302-310「感染性疾患」、p311-315「中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患」を予習・復習する。（概ね1時間程度）
29	小児神経疾患：脳性麻痺、二分脊椎、Down症候群	教科書p316-336「小児神経疾患」を予習・復習する。（概ね1時間程度）
30	神経学　後期　総括	16-29回の授業資料の整理・復習(概ね1時間程度)
教科書	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　神経内科学」川平和美編、医学書院	
参考文献	「ベッドサイドの神経の診かた」田崎義昭・斎藤佳雄著、坂井文彦改訂　南山堂、図書館蔵 その他、授業中に紹介	
備考	ＰＴ・ＯＴ合同授業 授業資料等はLMS上に張り付ける。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
医学部卒業後東北大学医学部付属鳴子分院にてリハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事し、リハビリテーション科専門医、脳卒中専門医等を取得した。この経験をもとに講義を担当する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
RO-1-D&R-12

科目名	臨床医学特論				単位認定者	荒牧　隼浩		評価の方法	試験(筆記)	40　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＰＴ	必修	２年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題(レポート)	40　%
	ＯＴ	必修	２年			授業時間数	16　時間		受講態度	20　%
				授業形態	講義	授業回数	8　回			

授業の概要	本講義は、「疼痛」、「がん」、「皮膚障害」に関する3分野のオムニバスで構成される。「疼痛分野」では、痛みを引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。「がん」分野では、がん関連障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。「皮膚障害分野」では、熱傷、褥瘡、創傷を中心とした病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。
到達目標	①痛みの定義、病態と分類、痛みの評価、マネジメントを説明できる。 ②原発臓器別にがんの特徴と原因、分類、主な診断・治療について説明できる。 ③代表的な皮膚障害の病態や診断・治療を説明でき、理学療法・作業療法のなかに展開できる。
学修者への期待等	・各授業に臨むにあたり、当該疾患に関しての事前学修を必ず行うこと。 ・授業後は復習を必ず行い、わからないことがあれば積極的に質問を行うこと。 ・常に疑問をもち課題等に取り組む。

回	授業計画	準備学修	担当
1	痛みとは（定義・分類）	「痛みとは何か」参考資料等で事前に調べ、講義後はまとめる。（概ね30分程度）	大友　篤
2	急性痛（病態・評価・マネジメント）	「急性痛とは何か」参考資料等で事前に調べ、講義後はまとめる。（概ね30分程度）	大友　篤
3	慢性疼痛（分類・病態）	「慢性疼痛とは何か」参考資料等で事前に調べ、講義後はまとめる。（概ね45程度）	大友　篤
4	慢性疼痛（評価）	「慢性疼痛の評価」参考資料等で事前に調べ、講義後はまとめる。（概ね30分程度）	大友　篤
5	慢性疼痛（マネジメント）	「慢性疼痛のマネジメント」参考資料等で事前に調べ、講義後はまとめる。（概ね30分程度）	大友　篤
6	がんの発生機序や病態について	がん発生の機序について調べてまとめる。（概ね30分程度）	荒牧　隼浩
7	各がん疾患の特徴について	胸部、消化器、泌尿器、女性生殖器等のがん疾患について調べてまとめる。（概ね30分程度）	荒牧　隼浩
8	皮膚障害（熱傷・褥瘡・創傷）	熱傷・褥瘡・創傷について調べてまとめる。（概ね30分程度）	荒牧　隼浩

教科書	特に指定しない。講義資料を配付又はLMS上に投稿する。
参考文献	「ペインリハビリテーション 第1版」松原貴子・沖田実・森岡周編、三輪書店 「慢性疼痛診療ハンドブック 第1版」池本竜則・愛知医科大学運動療育センター講師編、中外医学社 「痛みの集学的診療 第1版」日本疼痛学会痛みの教育コアカリキュラム編集員会編、真興交易 「内部障害理学療法学テキスト 改定第3版」細田多穂 編、南江堂 「がんのリハビリテーション診療ベストプラクティス 第2版」日本がんリハビリテーション研究会、金原出版
備考	ＰＴ・ＯＴ合同授業 授業内課題はレポートとなる。レポートの内容は第1回～5回講義担当教員から出題され、講義終了後１週間以内の提出となる。その後担当教員が評価し、採点後希望者にはフィードバックを行う。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
荒牧：医療機関において、講義内容の「疼痛」「がん」「皮膚障害」に関する実務経験を有する教員により授業を実施する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
RO-1-D&R-06

科目名	小児科学				単位認定者	飯沼　一宇		評価の方法	試験(筆記)	70　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＰＴ	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題	20　%
	ＯＴ	必修	２年			授業時間数	16　時間		受講態度	10　%
				授業形態	講義	授業回数	8　回			

授業の概要	小児科学では、小児疾患の原因・病態の講義と、小児の受胎から思春期に至る身体、言語、精神の成長発達段階の理解を通じ、小児の特徴及び疾患について学習する。
到達目標	理学療法士・作業療法士として必要な小児疾患の基本的知識を修得し、生涯に亘って、小児のリハビリテーションに応用して実践できるようになる。
学修者への期待等	他人を敬うこころと、自分の『売り』をもつこと。教わったことを単に覚えるだけではなく、「なぜ」かを常に考え、論理的思考をとること、それを文章として表現（他人に知らせる）することが出来るように努力すること。

回	授業計画	準備学修
1	小児科学とは、先天異常・遺伝病	【事前】小児が大人（成人）とどのように異なるかを十分に理解しておく。胎児の発達、遺伝の仕組みを理解しておく。（概ね1時間程度）
2	免疫・アレルギー疾患	【事前】基礎医学で学んだ免疫の仕組みを十分に理解しておく。（概ね1時間程度）
3	感染症	【事前】感染症とはなにか。人類と感染症の相互関係について理解しておく。（概ね1時間程度）
4	呼吸器・循環器疾患、新生児疾患	【事前】小児の呼吸機能、循環動態について理解しておく。新生児特有の生態を理解しておく。（概ね1時間程度）
5	消化器・内分泌疾患	【事前】消化器の構造、機能および内分泌の仕組みについて理解しておく。（概ね1時間程度）
6	血液・腫瘍疾患	【事前】血液の役割、成分、腫瘍とは何か（悪性と良性の相違）を理解しておく。（概ね1時間程度）
7	腎・泌尿器疾患	【事前】腎臓の構造と機能を理解しておく。（概ね1時間程度）
8	神経・筋・運動器疾患、重症心身障害	【事前】脳の発達、中枢・末梢神経および関節の構造と機能を理解しておく。障害を持つ人やこころの問題について自分と他人との関係など思いめぐらせておく。（概ね1時間程度）

教科書	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　小児科学」冨田　豊　編集、医学書院
参考文献	特になし
備考	ＰＴ・ＯＴ合同授業

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
RO-1-D&R-07

科目名	整形外科学総論				単位認定者	入江　紀一		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＰＴ	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位			
	ＯＴ	必修	２年			授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	整形外科学は運動器の疾患を取り扱う。運動器には脊柱、骨盤、関節、手、足などの器官があり、骨、軟骨、靭帯、筋、腱、血管、皮下組織、脊髄及び末梢神経などの組織が含まれる。運動器の病態は、これらの組織の炎症、腫瘍、変性、循環障害など他の診療科と共通の病態と、先天性障害や変形、外傷など運動器に特徴的な病態がある。本講義では、これらの運動器疾患の診断、治療・後療法、予防法について学修する。
到達目標	1.整形外科で扱う運動器の疾病や外傷並びに先天性障害の病態、治療が理解できるようになる。 2.運動器の機能障害が日常生活活動や生活の質に及ぼす影響を理解し、理学療法・作業療法を展開できるようになる。
学修者への期待等	2年次は、実際の臨床症例を呈示しながら、疾患や外傷について学び、整形外科に関心を持ってもらう。教科書通りの講義ではないが、国家試験に出題されている項目は他科（解剖学、生理学等）の領域も含めて一応網羅しているので、総合的に学ぶように努めること。

回	授業計画	準備学修
1	歴史　整形外科の歴史	教科書の序章(整形外科とは)を予習・復習すること（概ね1時間程度）
2	整形外科の基本 ①骨の構造　成長と維持　病態生理	教科書の第Ⅰ編(整形外科の基礎科学) 第1～4章を予習・復習すること（概ね1時間程度）
3	整形外科の基本 ②関節の構造　骨・軟骨の再生　病態生理	教科書の第Ⅰ編(整形外科の基礎科学)第5～7章を予習・復習すること（概ね1時間程度）
4	整形外科の基本 ③筋・神経の構造と機能	教科書の第Ⅰ編(整形外科の基礎科学)第8～9章を予習・復習すること（概ね1時間程度）
5	診断　診察と検査	教科書の第Ⅱ編(整形外科診断総論)を予習・復習すること（概ね1時間程度）
6	治療　保存療法と手術療法	教科書の第Ⅲ編(整形外科治療総論)を予習・復習すること（概ね1時間程度）
7	疾患総論　①感染症	教科書の第Ⅳ編(整形外科疾患総論)第16章を予習・復習すること（概ね1時間程度）
8	疾患総論　②関節リウマチ	教科書の第Ⅳ編(整形外科疾患総論)第17章を予習・復習すること（概ね1時間程度）
9	疾患総論　③変形性関節症	教科書の第Ⅳ編(整形外科疾患総論)第18章を予習・復習すること（概ね1時間程度）
10	疾患総論　④先天性骨系統疾患　先天異常症候群 ⑤骨腫瘍	教科書の第Ⅳ編(整形外科疾患総論)第20～21、23章を予習・復習すること（概ね1時間程度）
11	疾患総論　⑥循環障害　代謝障害による骨疾患	教科書の第Ⅳ編(整形外科疾患総論)第19章、第22章を予習・復習すること（概ね1時間程度）
12	疾患総論　⑦神経・筋疾患	教科書の第Ⅳ編(整形外科疾患総論)第25章を予習・復習すること（概ね1時間程度）
13	外傷総論　①骨折、捻挫、脱臼	教科書の第Ⅵ編(整形外科外傷学)第36章を予習・復習すること（概ね1時間程度）
14	②骨折の治療と合併症	教科書の第Ⅵ編(整形外科外傷学)第36章を予習・復習すること（概ね1時間程度）
15	③神経損傷(脊髄・末梢神経)	教科書の第Ⅵ編(整形外科外傷学)第39・40章を予習・復習すること（概ね1時間程度）

教科書	「標準整形外科学」井樋栄二他編、医学書院
参考文献	特に指定しない
備考	ＰＴ・ＯＴ合同授業

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
RO-1-D&R-08

科目名	精神医学総論				単位認定者	三輪　真也		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＰＴ	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位			%
	ＯＴ	必修	２年			授業時間数	30　時間			%
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	現代の疾病構造としても、精神疾患の理解は重要である。精神医学の対象は「こころ」あるいは「精神」であり、その領域は広い。精神医学について、その概念や精神症候学、精神障害の分類、治療等について学び、その障害を持つ患者の理解に必要な基本的事項や臨床で必要とされる精神医学の知識を身につける。
到達目標	心の構造と精神疾患の概要を理解し、精神疾患患者の気持ちに共感できる。
学修者への期待等	臨床現場に出ても戸惑うことのないように、集中して受講してください。

回	授業計画	準備学修
1	こころ（精神）とは何かを学修する（心の構造について理解する）	教科書1章(精神医学とは)・2章(精神障害の成因と分類)を読む（概ね1時間程度）
2	こころ（精神）とは何かを学修する（心と環境のかかわりについて理解する）	教科書1章(精神医学とは)・2章(精神障害の成因と分類)を読む（概ね1時間程度）
3	神経症性障害、パーソナリティ障害、精神病の各病態による心の機能水準の違いを学修する	教科書3章(精神機能の障害と精神症状)・4章(精神障害の診断と評価)を読む（概ね1時間程度）
4	神経症性障害、パーソナリティ障害、精神病、各々について病態の理解を深める	教科書3章(精神機能の障害と精神症状)・4章(精神障害の診断と評価)を読む（概ね1時間程度）
5	神経症性障害について学修する	教科書11章(神経症性障害)・17章(心身医学)を読む（概ね1時間程度）
6	心身症について学修する	教科書11章(神経症性障害)・17章(心身医学)を読む（概ね1時間程度）
7	パーソナリティ障害とは何かを学修する	教科書12章(生理的障害および身体的要因に関連した障害)・13章(成人のパーソナリティ・行動・性の障害)を読む（概ね1時間程度）
8	パーソナリティ障害の治療を中心に学修する	教科書12章(生理的障害および身体的要因に関連した障害)・13章(成人のパーソナリティ・行動・性の障害)を読む（概ね1時間程度）
9	統合失調症の病態について学修する	教科書9章(統合失調症およびその関連障害)を読む（概ね1時間程度）
10	統合失調症の経過と治療について学修する	教科書9章(統合失調症およびその関連障害)を読む（概ね1時間程度）
11	気分障害について学修する	教科書10章(気分(感情)障害)を読む（概ね1時間程度）
12	発達障害、自閉スペクトラム症について学修する	教科書14章(精神遅滞[知的障害])・15章(心理的発達の障害)を読む（概ね1時間程度）
13	器質性精神障害全般について学修する	教科書5章(脳器質性精神障害)・6章(症状性精神障害)を読む（概ね1時間程度）
14	認知症を呈する脳疾患について学修する	教科書5章(脳器質性精神障害)・6章(症状性精神障害)を読む（概ね1時間程度）
15	補足、まとめ	第14回に指定のあった教科書範囲を読む（概ね1時間程度）

教科書	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　精神医学」上野武治編、医学書院
参考文献	講義の中で適宜紹介する。
備考	ＰＴ・ＯＴ合同授業

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
RO-1-D&R-09

科目名	精神医学各論				単位認定者	須藤　あゆみ		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	２年	開講時期	後期	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	本講義では「精神医学総論」で学修した内容をもとに、作業療法士の対象疾患について疾患別の病因、病態、診断、治療について系統的に学修する。精神障害は行為を制限し、生活の質(QOL)の低下をもたらすことから、疾病の診断・治療のみならず、生活支援をも含む内容を学修する。
到達目標	１．主な精神疾患の症状、経過、治療について説明できるようになる。 ２．精神医学に対する関心を深めると同時に、精神医療における人権擁護の重要性を理解する。
学修者への期待等	１．シラバスに基づき、事前に教科書の授業範囲を一読しておくこと。 ２．各回で学んだ内容を整理し理解すること。疑問点などは自ら調べたり、質問すること。

回	授業計画	準備学修	担当
1	精神機能の障害と精神症状について学ぶ	教科書ｐ16～44を読んで授業に臨むこと（30分程度）	須藤　あゆみ
2	統合失調症について学ぶ	教科書ｐ127～148を読んで授業に臨むこと（30分程度）	須藤　あゆみ
3	気分障害について学ぶ	教科書ｐ149～163を読んで授業に臨むこと（30分程度）	須藤　あゆみ
4	神経症性障害について学ぶ	教科書ｐ164～175を読んで授業に臨むこと（30分程度）	須藤　あゆみ
5	摂食障害・睡眠障害について学ぶ	教科書ｐ176～180を読んで授業に臨むこと（30分程度）	須藤　あゆみ
6	パーソナリティー障害について学ぶ	教科書ｐ181～187を読んで授業に臨むこと（30分程度）	須藤　あゆみ
7	てんかん・精神遅滞について学ぶ	教科書ｐ115～125、ｐ188～196を読んで授業に臨むこと（30分程度）	須藤　あゆみ
8	精神作用物質による精神および行動の障害について学ぶ（アルコール・乱用薬物）	教科書ｐ100～112を読んで授業に臨むこと（30分程度）	須藤　あゆみ
9	発達の障害について学ぶ	教科書ｐ215～229を読んで授業に臨むこと（30分程度）	須藤　あゆみ
10	治療について学ぶ	教科書ｐ235～249を読んで授業に臨むこと（30分程度）	須藤　あゆみ
11	Alzheimer病、Alzheimer型認知症について学ぶ	教科書ｐ68該当する個所を読んで授業に臨むこと（30分程度） 授業終了後、各認知症症状と基礎疾患について整理しまとめること（30分程度）	戸田　祐子
12	Lewy小体型認知症について学ぶ		戸田　祐子
13	前頭側頭型認知症（Pick病）について学ぶ		戸田　祐子
14	脳血管性認知症について学ぶ		戸田　祐子
15	認知症症状を呈する疾患について学ぶ。正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫、Creutzfeldt-Jakob病など		戸田　祐子

教科書	①「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　精神医学」上野武治編、医学書院* ②「標準作業療法学　専門分野　高齢期作業療法学 第3版」松房利憲編、医学書院 *精神医学総論と同じ教科書を使用します
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
RO-1-D&R-13

科目名	老年学				単位認定者	佐直　信彦		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＰＴ	必修	２年	開講時期	後期	単位数	1　単位			
	ＯＴ	必修	２年			授業時間数	16　時間			
				授業形態	講義	授業回数	8　回			

授業の概要	高齢化の加速に伴って、リハビリテーションの対象としての高齢者が増えると考えられる。老化に伴って生じる内臓諸器官、運動器、神経系、感覚器、精神活動の変化、その他の加齢変化について学ぶとともに、高齢者に特徴的な疾病、外傷とその治療やリハビリテーション実施上の問題点、また障害高齢者を受け入れる療養上の問題点について理解を図る。
到達目標	1. 老化の生物学的意義と老化理論を理解し、説明できるようになる。 2. 加齢に伴う人体並びに諸機関の構造・機能の変化を理解し、説明できるようになる。 3. 老化現象と疾病並びに生活機能の関係を理解し、理学療法、作業療法に展開できるようになる。 4. 高齢者をめぐる現状と課題について理解し、将来の変遷に対処できるようになる。
学修者への期待等	・授業時間中に授業内容を理解する。解らないことは積極的に質問する。 ・授業の資料やノートを整理し、復習する。

回	授業計画	準備学修	担当
1	老年学と老化学　Ⅰ　老化とは Ⅱ　老化の測定	LMSの当該講義資料で予習復習し、ノートを整理する。（概ね45分程度）	佐直　信彦
2	Ⅲ　老化の理解：細胞老化、 老化の機序と制御	LMSの当該講義資料で予習復習し、ノートを整理する。（概ね45分程度）	佐直　信彦
3	加齢による変化 総論 ①全般的身体的・機能的変化 ②組織レベルの変化 加齢による変化 各論　A神経・筋系、B感覚系	LMSの当該講義資料で予習復習し、ノートを整理する。（概ね45分程度）	佐直　信彦
4	C骨・運動器、D循環器系、E呼吸器系、F消化器系、G排尿機能、H体温調節、I免疫機能、J内分泌機能、K生体リズム、L高次脳機能、M心理社会面	LMSの当該講義資料で予習復習し、ノートを整理する。（概ね45分程度）	佐直　信彦
5	老年症候群：概念、分類、虚弱・衰弱・老衰、フレイル、 低栄養、サルコペニア、不眠、転倒・骨折	LMSの当該講義資料で予習復習し、ノートを整理する。（概ね45分程度）	戸田　祐子
6	ロコモティブシンドローム：定義、症候・徴候、 判定・診断	LMSの当該講義資料で予習復習し、ノートを整理する。（概ね45分程度）	宮本　浩樹
7	高齢者とリハビリテーション： 高齢者の特徴、機能障害に影響する要因、高齢者のリハビリテーションと特異性	LMSの当該講義資料で予習復習し、ノートを整理する。（概ね45分程度）	戸田　祐子
8	高齢者をめぐる現状と課題： 2025年問題、地域包括ケアシステム、地域連携の重要性	LMSの当該講義資料で予習復習し、ノートを整理する。（概ね45分程度）	戸田　祐子

教科書	教科書指定せず。
参考文献	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　老年学」大内尉義編、医学書院(図書館蔵) 「新老年学」大内尉義・他編、東京大学出版会(図書館蔵)
備考	ＰＴ・ＯＴ合同授業 当該授業資料・狙いと課題をLMS上に掲載します。それに従って予習復習をしてください。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
佐直は、医学部卒業後東北大学医学部付属鳴子分院にて内科学全般、リハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事し、リハビリテーション科専門医・脳卒中専門医等を取得した。その後、前任地の4年制大学のリハビリテーション学科教授を13年間務めた。この経験をもとに講義を担当する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
RO-1-D&R-10

科目名	臨床心理学				単位認定者	北川　公路		評価の方法	試験(筆記)	80　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＰＴ	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題	15　%
	ＯＴ	必修	２年			授業時間数	30　時間		受講態度	5　%
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	臨床心理学は、心理学の知識と技術を用いて心の不適応な状態あるいは病的状態についての支援を行う学問である。本講義では、臨床心理学の役割、心理的問題の分類、心理療法、カウンセリングなどについて学ぶ。理学療法士・作業療法士として患者と関わる中で、患者の心理を理解し、心理的適応援助につながる知識を身につける。
到達目標	心理学の知識を修得して保健医療領域において支援を必要とする人々について理解できるようになること、適切な支援ができるようになることが目標である。
学修者への期待等	1. 1年次に修得した心理学の知識を踏まえた上で、準備学修を行うこと。 2. 授業2～5回の授業内容は、各専攻の評価学で学ぶものと重なる部分が多くあるため知識を繋げること。 3. 1コマ受講する度に予復習に概ね1時間をかけて小テストに臨むこと。

回	授業計画	準備学修
1	リハビリテーションと臨床心理学	【予習】教科書第１章を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 （概ね1時間～2時間）
2	心理アセスメント（１）面接・観察	【予習】教科書第４章の１を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 （概ね1時間～2時間）
3	心理アセスメント（２）質問形式の心理検査	【予習】教科書第４章３の質問紙法を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 （概ね1時間～2時間）
4	心理アセスメント（３）作業形式の心理検査 小テスト①	【予習】教科書第４章５の作業検査法を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 （概ね1時間～2時間）
5	心理アセスメント（４）投影法の心理検査	【予習】教科書第４章４の投影法を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 （概ね1時間～2時間）
6	心理アセスメント（５）知能検査	【予習】教科書第４章２の知能検査を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 （概ね1時間～2時間）
7	発達臨床心理学 小テスト②	【予習】教科書第３章３の発達理論を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 （概ね1時間～2時間）
8	心理療法の理論と実際（１）精神分析	【予習】教科書第３章１・２と第５章２の１）を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 （概ね1時間～2時間）
9	心理療法の理論と実際（２）行動療法	【予習】教科書第５章２の２）を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 （概ね1時間～2時間）
10	心理療法の理論と実際（３）認知行動療法 小テスト③	【予習】事前配付する資料を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 （概ね1時間～2時間）
11	心理療法の理論と実際（４）来談者中心療法	【予習】教科書第５章２の３）を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 （概ね1時間～2時間）
12	心理療法の理論と実際（５）その他の心理療法	【予習】教科書第５章２の４）と５）を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 （概ね1時間～2時間）
13	心理療法の理論と実際（６）その他の心理療法 小テスト④	【予習】教科書第５章４を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 （概ね1時間～2時間）
14	障害の適応と受容	【予習】事前配付する資料を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 （概ね1時間～2時間）
15	リハビリテーション場面における心理学の活かし方	【予習】事前配付する資料を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 （概ね1時間～2時間）

教科書	「こころのケア　－臨床心理学的アプローチ－」池田勝昭　他　編　学術図書出版社
参考文献	授業時に随時紹介する。
備考	ＰＴ・ＯＴ合同授業。小テストは答え合わせ、フィードバックを行う。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
RO-1-D&R-04

科目名	リハビリテーション栄養学				単位認定者	五十嵐　祐子		評価の方法	試験(筆記)	90　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＰＴ	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		受講態度	10　%
	ＯＴ	必修	２年			授業時間数	16　時間			
				授業形態	講義	授業回数	8　回			

授業の概要	栄養は生物が生命活動を営む上で外部から摂取する必要がある物質及びその働きである。適切な栄養摂取によって、健康な身体を形成・維持することができる。本講義では、栄養に関する基礎事項について学修し、理学療法・作業療法を実施する上で必要な栄養管理とその指導について学ぶ。
到達目標	リハビリテーション栄養とは何かを理解し説明することができる。また、理学療法・作業療法の効果を高めるために必要な栄養管理について理解し、基礎的事項を修得する。
学修者への期待等	本科目を履修することにより、将来医療や福祉の現場でセラピストとして活躍するために必要な栄養管理の知識を身につけてほしい。また、リハビリテーション栄養の知識を身につけるために、事前に参考文献を読んで授業に臨んで下さい。

回	授業計画	準備学修
1	リハビリテーション栄養とは何か - リハビリテーション栄養の必要性　その意義と目的	自分自身や家族が毎日食べている食事について振り返ってみる。
2	栄養アセスメント、栄養スクリーニング方法、栄養ケアプロセスについて	前回講義の復習を30分程度行うこと。
3	飢餓・蛋白質・エネルギー栄養障害の病態の理解と栄養管理	前回講義の復習を30分程度行うこと。
4	フレイル・サルコペニア予防のための栄養の有用性	前回講義の復習を30分程度行うこと。
5	栄養サポートチーム（NST）とは何か NSTとリハビリテーションの関連	前回講義の復習を30分程度行うこと。
6	悪性疾患（がん）のリハビリテーション栄養について	前回講義の復習を30分程度行うこと。
7	脳血管疾患のリハビリテーション栄養について	前回講義の復習を30分程度行うこと。
8	大腿骨近位部骨折のリハビリテーション栄養について	前回講義の復習を30分程度行うこと。

教科書	なし
参考文献	「PT・OT・STのためのリハビリテーション栄養第３版　基礎から栄養ケアプロセスまで」若林秀隆著、医歯薬出版
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
RO-1-D&R-11

科目名	救急救命医学				単位認定者	大橋　孝子		評価の方法	授業内課題	80　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＰＴ	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		受講態度	20　%
	ＯＴ	必修	２年			授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	救急医療とは、一般市民による心肺蘇生法を含めた応急手当、119番通報と救急車の出動、救急隊員や救急救命士による現場での応急処置や救急搬送などの病院前救護から、救急室での救命治療、ICUでの重症患者管理等をいう。本講義では、理学療法士及び作業療法士の関わりも含め、緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方、心肺蘇生・応急処置について学修する。
到達目標	・救急救命医学について対象となりうる疾患、外傷について理解し説明できる。 ・救急救命医学における理学療法士、作業療法士の関わりを理解し説明できる。 ・一次救命処置、各手当が実践できる。
学修者への期待等	医療従事者の一員である理学療法士、作業療法士として、救急救命の知識・技術を修得でき、実践できるように努めてください。

回	授業計画	準備学修	担当
1	救急救命医学概論	教科書の該当頁について予習・復習を行うこと（概ね1時間程度）	大橋　孝子 髙橋　慧
2	手当の基本	教科書の該当頁について予習・復習を行うこと（概ね1時間程度）	日本赤十字社講師
3	一次救命処置1（心肺蘇生）	教科書の該当頁について予習・復習を行うこと（概ね1時間程度）	日本赤十字社講師
4	一次救命処置2（AEDによる電気ショック）	教科書の該当頁について予習・復習を行うこと（概ね1時間程度）	日本赤十字社講師
5	一次救命処置3（気道異物除去）	教科書の該当頁について予習・復習を行うこと（概ね1時間程度）	日本赤十字社講師
6	急病への対応	教科書の該当頁について予習・復習を行うこと（概ね1時間程度）	日本赤十字社講師
7	ケガへの対応	教科書の該当頁について予習・復習を行うこと（概ね1時間程度）	日本赤十字社講師
8	止血	教科書の該当頁について予習・復習を行うこと（概ね1時間程度）	日本赤十字社講師
9	きずの手当	教科書の該当頁について予習・復習を行うこと（概ね1時間程度）	日本赤十字社講師
10	骨折の手当	教科書の該当頁について予習・復習を行うこと（概ね1時間程度）	日本赤十字社講師
11	搬送	教科書の該当頁について予習・復習を行うこと（概ね1時間程度）	日本赤十字社講師
12	救護～災害時の対応～	教科書の該当頁について予習・復習を行うこと（概ね1時間程度）	日本赤十字社講師
13	現場を想定した救急救命	教科書の該当頁について予習・復習を行うこと（概ね1時間程度）	日本赤十字社講師
14	一次救命処置 復習① 心肺蘇生・AED	教科書の該当頁について予習・復習を行うこと（概ね1時間程度）	伊藤　大亮 荒牧　隼浩
15	一次救命処置 復習② 気道異物除去・AED	教科書の該当頁について予習・復習を行うこと（概ね1時間程度）	伊藤　大亮 荒牧　隼浩

教科書	「赤十字救急法基礎講習教本」日本赤十字社 「赤十字救急法講習教本」日本赤十字社
参考文献	「標準救急医学」第5版、日本救急医学会編、医学書院
備考	クラス編成　1回目：合同授業　2回目～5回目、14回目、15回目：4クラス編成　6回目～13回目：3クラス編成 実技を含みます。動きやすい服装で臨んでください。 授業内課題のフィードバックは授業内で行います。三角巾、ガーゼ等の教材を購入していただきます。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	●

科目ナンバリング
RO-1-H&R-03

科目名	公衆衛生学				単位認定者	鈴木　寿則		評価の方法	試験(筆記)	60　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＰＴ	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題	40　%
	ＯＴ	必修	２年			授業時間数	16　時間			
				授業形態	講義	授業回数	8　回			

授業の概要	個人水準で健康を扱う臨床医学に対して、公衆衛生は集団レベルの健康を取り扱う。その領域は、対人保健(老人・母子・学校・職域)、対物保健(生活環境・食品衛生等)および環境保健(環境保全・公害)など多岐にわたっている。本講義では、我が国における各種疾病統計を踏まえ、実際に地域社会で展開されている公衆衛生活動(対人保健・対物保健、環境保健など)およびその基盤となる保健・医療・福祉制度(関係法規、衛生行政等)の概要について学修する。
到達目標	1. 現代における健康が社会とどのようにの関わるのか説明できる。 2. 理学療法士および作業療法士に関係する保健活動について説明できる。
学修者への期待等	教科書を中心に板書を行いますので、各自ノートなどを用意してください。また、講義の復習として、自分のノートをもとに、調べた内容を書き込むなどしてください。予習としては、日ごろから健康問題や医療問題に関心を持ち、ニュースや新聞に注意を向けてください。

回	授業計画	準備学修
1	公衆衛生学の概念、公衆衛生学の歴史について	教科書p.1～8（第1章公衆衛生学序論1.健康の概念～2.公衆衛生の概念）を読む（概ね1時間程度）
2	保健統計の種類と概要について	教科書p.33～39（第4章保健統計1.保健統計の概要）を読む（概ね1時間程度）
3	死亡統計と傷病統計について	教科書p.39～54（第4章保健統計2.人口静態統計～5.傷病統計）を読む（概ね1時間程度）
4	疾病予防と疫学の関係、疫学の考え方について	教科書p.54～62（第4章保健統計5.傷病統計～第5章疫学1.疫学の概念）を読む（概ね1時間程度）
5	疫学の研究デザイン（コホート研究、症例対照研究）	教科書p.62～79（第5章疫学2.疫学で用いられる指標とバイアスの制御～4.スクリーニング）を読む（概ね1時間程度）
6	がんと循環器疾患の疫学統計および予防について	教科書p.80～85（第6章疫学研究の評価と倫理）を読む（概ね1時間程度）
7	糖尿病と感染症の疫学統計および予防について	教科書p.86～95（第7章疾病予防と健康管理1.健康に関連する行動と社会）を読む（概ね1時間程度）
8	精神保健の概要について	教科書p.96～106（第7章疾病予防と健康管理2.生活習慣病のリスク行動～3.健康増進行動）を読む（概ね1時間程度）

教科書	「衛生・公衆衛生学　社会や環境システムと健康の関わり（2022年発行・最新版）」山本玲子編、アイ・ケイ コーポレーション
参考文献	特になし
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。 評価方法の一つである授業内課題は各授業内で課題レポートの提出を求める。またそのフィードバックは、担当教員が読み、次回以降の授業内で講評する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
RO-1-H&R-04

科目名	医療関連法規				単位認定者	鈴木　寿則		評価の方法	試験(筆記)	60　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＰＴ	必修	２年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題	40　%
	ＯＴ	必修	２年			授業時間数	16　時間			
				授業形態	講義	授業回数	8　回			

授業の概要	医療従事者である理学療法士・作業療法士が、理学療法士及び作業療法士法だけでなく、医療の内容を規定する医療法、医師をはじめとする医療関係職の資格法、保健医療制度、社会保障制度ならびに介護保険法など関連する法規を理解しておくことは専門職として必須である。理学療法士・作業療法士として知っておくべき基本的な法規、社会保障制度とヘルスケア及びリハビリテーション・サービスの体制を学修する。
到達目標	1. 保健医療、社会保障制度（年金、医療保険、介護保険）地域保健法について概要を理解できるようになる。 2. 現代社会において社会保障施策がどのような役割を果たしているのか、また今後の課題について、どのような対応が望まれるのかを学ぶ。
学修者への期待等	・授業で取り上げた内容は授業中に理解できるように集中し、解らない箇所は質問してください。 ・授業後はノート等を整理し、復習に重点を置いてください。

回	授業計画	準備学修
1	社会保障の概念と歴史	教科書ｐ．1～13 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）
2	日本における社会保障の形成と展開	教科書ｐ．13～27 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）
3	わが国の年金保険制度の仕組み	教科書ｐ．47～57 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）
4	国民年保険、厚生年金保険、共済年金の概要	教科書ｐ．47～57 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）
5	医療保険制度の仕組み	教科書ｐ．81～93 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）
6	医療保険制度の概要（健康保険、国民健康保険）	教科書ｐ．86～93 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）
7	医療法と地域保健法	教科書ｐ．101～106 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）
8	介護保険制度の概要	教科書ｐ．111～120 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）

教科書	「社会保障［第6版］－社会保障制度　社会保障サービス－」弘文堂
参考文献	特になし
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。 評価方法の一つである授業内課題は各授業内で課題レポートの提出を求める。またそのフィードバックは、担当教員が読み、次回以降の授業内で講評する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
RO-2-BOT-04

科目名	作業療法理論				単位認定者	齋藤　佑樹		評価の方法	試験（レポート）	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＯＴ	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	人間作業モデルや作業遂行と結びつきのカナダモデル、人-環境-作業モデルなど、作業療法における主要な広範囲理論について学ぶことで、人をダイナミックシステムとして捉えるとともに、さまざまな側面から臨床的推論を行う知識を身につける。 また、複数の理論を比較・検討する機会を通して、それぞれの理論の特色を学ぶとともに、作業療法の普遍性についても理解を深めていく。
到達目標	代表的な広範囲理論の構造を説明することができる。 対象事例の状態を特定の広範囲理論に当てはめて推論することができる。
学修者への期待等	難易度の高い内容が多く含まれます。用語や構造を独立して捉えるのではなく、常に対象者を想像しながら臨床的な観点を踏まえて理解しようとすることが大切です。毎回十分に予習・復習を行い、主体的に授業に参加することを期待します。

回	授業計画	準備学修
1	行動変容理論①（講義）	講義の内容をノートにまとめること（30分程度）
2	行動変容理論②（グループワーク）	前回の内容を復習して授業に臨むこと（30分程度）
3	人-環境-作業モデル①（講義）	講義の内容をノートにまとめること（30分程度）
4	人-環境-作業モデル②（グループワーク）	前回の内容を復習して授業に臨むこと（30分程度）
5	カナダモデル①（講義）	講義の内容をノートにまとめること（30分程度）
6	カナダモデル②（グループワーク）	前回の内容を復習して授業に臨むこと（30分程度）
7	人間作業モデル①（講義）	講義の内容をノートにまとめること（30分程度）
8	人間作業モデル②（グループワーク）	前回の内容を復習して授業に臨むこと（30分程度）
9	OBP2.0①（講義）	講義の内容をノートにまとめること（30分程度）
10	OBP2.0②（グループワーク）	前回の内容を復習して授業に臨むこと（30分程度）
11	川モデル①（講義）	講義の内容をノートにまとめること（30分程度）
12	川モデル②（グループワーク）	前回の内容を復習して授業に臨むこと（30分程度）
13	生活行為向上マネジメント①（講義）	講義の内容をノートにまとめること（30分程度）
14	生活行為向上マネジメント②（グループワーク）	前回の内容を復習して授業に臨むこと（30分程度）
15	作業療法に関連する理論のまとめ	講義の内容をノートにまとめること（30分程度）

教科書	「作業で語る事例報告　作業療法レジメの書き方・考え方」齋藤佑樹編、医学書院* *1年次購入済み
参考文献	適宜紹介します
備考	配付資料がある場合は、前日までにLMSに投稿します。印刷・PC上での閲覧、どちらでも構いません。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
総合病院で理論を基盤とした実践を長年行ってきた。また、作業療法の理論を概観できる本講義の指定教科書も科目責任者の編集である。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	

科目ナンバリング
RO-2-BOT-05

科目名	作業療法研究法				単位認定者	齋藤　佑樹		評価の方法	試験(筆記)	50　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＯＴ	必修	２年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題	50　%
				授業形態	講義	授業時間数	30　時間			
						授業回数	15　回			

授業の概要	エビデンスや研究倫理、統計の基礎について学びながら、現在我々が当たり前に手にすることができる知見がどのように作られたのかを理解する。 また、イシューの立て方、リサーチクエスチョン（PICO・PECO）の作り方、先行研究の調べ方等について演習を通して学ぶことで、臨床におけるさまざまな疑問や社会的課題を研究デザインに落とし込み、解決するための研究計画を立案することができるよう理解を深めていく。
到達目標	統計用語とその意味を理解し、データを読み解くことができる。 基礎的な検定・推定ができる。 研究用語とその意味を理解し、データを読み解くことができる。 特定のテーマについて先行研究を調べ、未知・既知の知見を整理することができる。
学修者への期待等	聞き慣れない用語が頻出します。用語の意味・定義が曖昧だと授業内容を理解することができません。また、数学的な知識が必要な回があります。毎回予習・復習を十分行い、主体的に授業に参加することを期待します。

回	授業計画	準備学修
1	統計①　いろいろな値とその特性	科目専用ノートを準備すること
2	統計②　尺度水準	授業内容をノートにまとめること （復習30分程度）
3	統計③　正規分布	授業内容をノートにまとめること （復習30分程度）
4	統計④　偏差、標準偏差、偏差値	授業内容をノートにまとめること （復習30分程度）
5	統計⑤　推定と検定	授業内容をノートにまとめること （復習30分程度）
6	統計⑥　代表的な検定・推定	授業内容をノートにまとめること （復習30分程度）
7	研究①　作業療法エビデンスと実践	授業内容をノートにまとめること （復習30分程度）
8	研究②　研究の種類と研究倫理	授業内容をノートにまとめること （復習30分程度）
9	研究③　PICOとPECO	授業内容をノートにまとめること （復習30分程度）
10	研究④　先行研究の探し方	授業内容をノートにまとめること （復習30分程度）
11	研究⑤　先行研究のレビュー　前半	授業内容をノートにまとめること （復習30分程度）
12	研究⑥　先行研究のレビュー　後半	授業内容をノートにまとめること （復習30分程度）
13	研究⑦　先行研究のまとめ（プレゼン準備）	授業内容をノートにまとめること （復習30分程度）
14	研究⑧　先行研究のまとめ（プレゼン準備）	授業内容をノートにまとめること （復習30分程度）
15	研究⑨　グループ発表会	授業内容をノートにまとめること （復習30分程度）

教科書	「作業で創るエビデンス」友利幸之介、京極真、竹林崇、医学書院、2019
参考文献	適宜紹介します
備考	配付資料がある場合は、前日までにLMSに投稿します。印刷・PC上での閲覧、どちらでも構いません。 授業内課題（第15回）のフィードバックは、当日、授業内で行います。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
目標設定やロボティクス分野にて様々な研究に従事し、国内・外の雑誌に研究論文が掲載されている。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●		●		

科目ナンバリング
RO-2-MNO-01

科目名	作業療法管理学				単位認定者	齋藤　佑樹		評価の方法	試験 （レポート）	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	２年	開講時期	後期	単位数	1　単位			
						授業時間数	16　時間			
				授業形態	講義	授業回数	8　回			

授業の概要	医療人・職業人として必要な生命倫理や職業倫理の他、作業療法の業務運営、チームワーク、リスクマネジメント、ハラスメント等を理解し、所属組織の質を向上させる管理運営についての基礎的知識を身につける。
到達目標	１．診療報酬、介護報酬の仕組みを説明することができる。 ２．作業療法部門の管理・運営について具体的にのべることができる。 ３．作業療法での記録と報告と重要性を理解し、述べることができる。
学修者への期待等	自分が作業療法士として、リーダーとして働くことを意識しながら取り組んでほしい。

回	授業計画	準備学修
1	診療報酬・介護報酬、組織運営について学ぶ	科目専用ノートを準備すること
2	セルフマネジメント①：専門職としての自己研鑽について（講義）	前回までの内容を理解しておくこと（概ね30分）
3	セルフマネジメント②：専門職としての自己研鑽について（グループワーク）	第１・２回の内容を理解し臨むこと（概ね30分）
4	チームマネジメント①：IPWについて（講義）	前回までの内容を理解しておくこと（概ね30分）
5	チームマネジメント②：IPWについて（グループワーク）	第4回の内容を理解し臨むこと（概ね30分）
6	組織マネジメント①：管理者の視点（講義）	前回までの内容を理解しておくこと（概ね30分）
7	組織マネジメント②：管理者の視点（グループワーク）	第6回の内容を理解して臨むこと（概ね30分）
8	働きやすい職場をつくる（グループワーク、発表）	前回までの内容を理解しておくこと（概ね30分）

教科書	「作業で結ぶマネジメント 作業療法士のための自分づくり・仲間づくり・組織づくり」澤田辰徳、齋藤佑樹、上江洲聖、友利幸之介、医学書院、2016
参考文献	適宜紹介します
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
RO-2-ASO-04

科目名	疾患別作業療法評価学実習Ⅰ				単位認定者	戸田　祐子		評価の方法	試験（実技）	30　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	２年	開講時期	通年	単位数	1　単位		授業内課題	70　%
						授業時間数	44　時間			
				授業形態	実習	授業回数	22　回			

授業の概要	各領域および各種疾患特有の評価に必要な知識・技術を修得する。本講義では実習を通して中枢神経疾患、骨関節疾患、呼吸器・循環器疾患などの病態を理解するとともに、各検査・測定の基本的な実施方法、手順の理論的根拠を学び、的確に実施できるよう技術を身につける。 また、評価方法だけでなくリスク管理や対象への接し方、触れ方など作業療法士として必要な態度・姿勢についても必要性と意味を考え、実践できるよう学修する。
到達目標	1. 評価の意義、目的を理解し説明できる 2. 評価を適切に実施できる 3. 実施結果を正確に記録・報告できる
学修者への期待等	各疾患のメカニズムを理解し授業に臨んでほしい。 授業内で学んだことを復習し、わからないところは質問し実施できるようになってほしい。 各評価を実施するのにふさわしい服装で臨んでほしい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	面接評価について（COPM、ADOC、生活行為聞き取りシート、興味・関心チェックリスト）	教科書P310～311を読んで授業に臨むこと。（30分程度）	齋藤　佑樹
2	観察評価について（AMPSほか）： 実技	教科書P234を読んで授業に臨むこと。（30分程度）	齋藤　佑樹
3	感覚検査（表在感覚）：実技	事前：感覚の種類を調べておくこと。（30分程度）	山口　志津枝
4	感覚検査（深部感覚）：実技	事後：感覚検査の技能の復習を行い修得に努めること。（30分程度）	山口　志津枝
5	反射検査（腱反射、表在反射、病的反射）：実技	事前に教科書P130～137を読んでくること。(30分程度)	髙橋　慧
6	筋緊張検査　：実技	1年次の復習をして授業に臨むこと。（30分程度）	齋藤　佑樹
7	感覚検査、反射検査、筋緊張のまとめ　：実技	事前に３～７で学んだ内容を復習しておくこと(30分程度)	齋藤　佑樹
8	姿勢反射・バランス検査　：実技	事前：姿勢反射の種類を調べておくこと。（30分程度）	山口　志津枝
9	協調性検査　：実技	事前に教科書P160～167を読んでくること。(30分程度)	髙橋　慧
10	姿勢反射・バランス検査のまとめ　：実技	事前に８、９で学んだ内容を復習しておくこと（30分程度）	髙橋　慧
11	片麻痺機能検査（BRS）： 実技	事前：片麻痺の回復過程を整理し、授業に臨むこと。（１時間程度）	山口　志津枝
12	12段階片麻痺回復グレードテスト　：実技	事前：Brunnstrom testを復習し、授業に臨むこと。（１時間程度）	山口　志津枝
13	BRS、12段階片麻痺回復グレードテストのまとめ：実技	事前に11、12で学んだ内容を復習しておくこと（1時間程度）	山口　志津枝
14	上肢機能検査　（MFT：脳卒中上肢機能検査）：実技	事後：MFT検査方法と結果の読み方、活用の仕方を復習し修得に努めること。（1時間程度）	戸田　祐子
15	上肢機能検査　（STEF：簡易上肢機能検査）：実技	事後：STEFの評価の目的、検査方法と活用の仕方を復習し修得に努めること（1時間程度）	戸田　祐子

回	授業計画	準備学修	担当
16	MFT、STEFのまとめ　：実技	事前にMFTとSTEFの復習をしておくこと（1時間程度）	戸田　祐子
17	ROM　：実技	事前に教科書P72～95を読んでくること。(1時間程度)	髙橋　慧
18	MMT　：実技	事前に教科書P96～106を読んでくること。(1時間程度)	髙橋　慧
19	ROM、MMTのまとめ　：実技	事前にROMとMMTの復習をしておくこと（1時間程度）	齋藤　佑樹
20	摂食嚥下検査	事後：授業内容をしっかり復習し修得に努めること。（1時間程度）	戸田　祐子 櫻庭　ゆかり
21	画像関連	1年次の復習をして授業に臨むこと。（30分程度）	齋藤　佑樹
22	運動発達系検査・精神発達系検査	事前に教科書P558～561とLMSの資料を読んでくること。(30分程度)	髙橋　慧
教科書	「標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学」第3版　能登真一他編、医学書院* *1年次購入済み		
参考文献			
備考	授業内課題に対するフィードバックは基本的に授業中に実施。時間が足りない場合は、別途時間を設けて実施する。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
RO-2-ASO-05

科目名	疾患別作業療法評価学実習Ⅱ				単位認定者	須藤　あゆみ		評価の方法	試験（筆記）	60　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	２年	開講時期	通年	単位数	1　単位		授業内課題	30　%
						授業時間数	44　時間		受講態度	10　%
				授業形態	実習	授業回数	22　回			

授業の概要	各領域および各種疾患特有の評価に必要な知識・技術を修得する。本講義では実習を通して精神疾患、高齢者に多い疾患などの病態を理解するとともに、各検査・測定の基本的な実施方法、手順の理論的根拠を学び、的確に実施できるよう技術を身につける。作業療法で用いる面接、観察、検査の各評価を実施することで参加観察やコミュニケーションを意図的に利用すること、各評価の実施結果から得られた情報を記述し発表することなどを実践し、評価に必要な思考力と問題解決能力を身につける。
到達目標	1.評価の意義、目的を理解し、説明できるようになる。 2.評価を適切に実施できるようになる。 3.実施結果を正確に記録できるようになる。
学修者への期待等	各疾患のメカニズムを理解し授業に臨んでほしい。 復習をしっかり行い、評価方法を修得してほしい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	授業ガイダンス・基本チェックリスト、SF36	教科書P605とLMSの資料をよく読み、授業に臨むこと。(30分程度)	髙橋　慧
2	コース立方体組み合わせテスト、WHO QOL	教科書P493とLMSの資料をよく読み、授業に臨むこと。(30分程度)	髙橋　慧
3	karvonen法、MET s	教科書P419とLMSの資料をよく読み、授業に臨むこと。(30分程度)	髙橋　慧
4	高齢者の体力測定①(新体力テスト:握力、上体起こし、長座体前屈 など)	教科書P605とLMSの資料をよく読み、授業に臨むこと。(30分程度)	髙橋　慧
5	高齢者の体力測定②(新体力テスト：反復横とび、立ち幅とび など)	教科書P605とLMSの資料をよく読み、授業に臨むこと。(30分程度)	髙橋　慧
6	Functional Balance Scale Time Up and Go Test	教科書P146とP149, LMSの資料をよく読み、授業に臨むこと。(30分程度)	髙橋　慧
7	事例を通した評価の実践(介護予防を必要とする高齢者)	前回までの復習をし授業に臨むこと。(30分程度)	髙橋　慧
8	評価結果のまとめと発表	前回までの復習をし授業に臨むこと。(30分程度)	髙橋　慧
9	高齢者を評価するにあたっての留意点 認知機能の評価について（MMSE、HDS-R）	事前：教科書p609～該当する個所を読んで授業に臨むこと。（概ね20分） 事後：毎回多くの評価項目について学ぶので、しっかり整理しまとめておくこと。（概ね45分）	戸田　祐子
10	認知機能の評価について（GBSスケール、臨床的認知症尺度、NMスケール）		戸田　祐子
11	認知症を呈する方のADL評価（N-ADL、FAST）介護負担度尺度（Zarit介護負担尺度日本語版）		戸田　祐子
12	BPSDの評価（ Behave-AD、Cohen-Mansfield Agitation Inventory：CMAI、NPI－Q）		戸田　祐子
13	事例を通した評価の実践（介護予防を目的とする高齢者）	前回までの復習をし授業に臨むこと。(30分程度)	戸田　祐子
14	評価結果のまとめと発表	決められた時間にしっかり伝えることができるよう準備すること。（概ね1時間）	戸田　祐子
15	精神障害領域の評価　情報収集	教科書ｐ166～172を読んでくること。（概ね30分程度）	須藤　あゆみ

回	授業計画	準備学修	担当
16	精神機能・知能検査について（GAF・BPRS・WAIS）		須藤　あゆみ
17	生活機能について（精神障害者ケアマネジメント・LASMI・REHAB・ISDA・SMSF）		須藤　あゆみ
18	演習：精神障害者ケアマネジメント・ISDA	第17回で配付した資料を復習しておくこと。（概ね30分）	須藤　あゆみ
19	作業遂行機能と社会生活技能について ～どのような場面で評価できるか考える～	観察した場面を記録にまとめること。（概ね1時間程度）	須藤　あゆみ
20	作業遂行機能について ～七夕飾り作りの動画から～		須藤　あゆみ
21	作業遂行機能について ～スポーツ場面の動画から～		須藤　あゆみ
22	社会生活技能について ～ＳＳＴ場面の動画から～		須藤　あゆみ
教科書	「標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学」第３版　能登真一他編、医学書院* 「精神障害と作業療法　病いを生きる･病いと生きる　精神認知系作業療法の理論と実践」山根寛著　三輪書店* *1年次購入済み		
参考文献			
備考	授業内課題のフィードバックは、授業内で適宜行います。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
RO-2-TOT-06

科目名	身体機能作業療法学実習				単位認定者	山口　志津枝		評価の方法	試験（筆記）	80　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		試験（実技）	20　%
						授業時間数	44　時間			
				授業形態	実習	授業回数	22　回			

授業の概要	身体機能領域の作業療法の指導・援助に必要な知識を修得する。運動学、解剖学、生理学で学修した知識を統合しながら身体機能障害の原因と機序、治療原理や治療技法の原則について学修する。
到達目標	１．各障害の機序と病態が説明できるようになる。 ２．各障害の種類が説明できるようになる。 ３．各障害の作業療法支援が説明できるようになる。
学修者への期待等	ディスカッションやグループワークの機会も多くあります。積極的な姿勢で授業に参加してください。

回	授業計画	準備学修	担当
1	授業ガイダンスと身体機能障害の概要：基礎知識の復習、身体機能障害とは	授業後に十分復習を行い理解を深めること。（1時間程度）	山口　志津枝
2	活動と心身機能・身体構造	１年次の復習を行い授業に臨むこと。（30分程度）	山口　志津枝
3	治療原理	１年次の復習を行い授業に臨むこと。（30分程度）	山口　志津枝
4	作業活動と身体機能	1年次に学んだ包括的作業分析の復習を行い授業に臨むこと。（30分程度）	髙橋　慧
5	関節可動域制限①：発生機序、病態	関節可動域制限について事前に調べておくこと。（1時間程度）	山口　志津枝
6	関節可動域制限②：介入モデルの選択	前回までの内容を十分に復習し、授業に臨むこと。（1時間程度）	山口　志津枝
7	関節可動域制限③：作業療法支援１	前回までの内容を十分に復習し、授業に臨むこと。（1時間程度）	山口　志津枝
8	関節可動域制限④：作業療法支援２、発表【グループワーク】	グループワークに必要な知識を復習し、授業に臨むこと。（1時間程度）	山口　志津枝
9	筋力低下①：発生機序、病態	筋力低下について事前に調べておくこと。（45分程度）	戸田　祐子
10	筋力低下②：介入モデルの選択	授業内容を復習し、授業に臨むこと。（1時間程度）	戸田　祐子
11	筋力低下③：作業療法支援１	授業内容を復習し、授業に臨むこと。（1時間程度）	戸田　祐子
12	筋力低下④：作業療法支援２、発表【グループワーク】	グループワークに必要な知識を復習し、授業に臨むこと。（1時間程度）	戸田　祐子
13	感覚障害①：発生機序、病態	感覚障害について事前に調べておくこと。（1時間程度）	戸田　祐子
14	感覚障害②：作業療法支援	授業内容を復習し、授業に臨むこと。（1時間程度）	戸田　祐子
15	筋緊張①：発生機序、病態	筋緊張について事前に調べておくこと。（30分程度）	髙橋　慧

回	授業計画	準備学修	担当
16	筋緊張②：作業療法支援	前回の内容を復習し授業に臨むこと。（30分程度）	髙橋　慧
17	姿勢・バランス①：発生機序、病態	姿勢・バランスについて事前に調べておくこと。（30分程度）	髙橋　慧
18	姿勢・バランス②：作業療法支援	前回の内容を復習し授業に臨むこと。（30分程度）	髙橋　慧
19	協調性、巧緻動作：病態、作業療法支援	協調性・巧緻動作に関する教科書を読んで授業に臨むこと。（45分程度）	戸田　祐子
20	視覚障害①：発生機序、病態	視覚障害について事前に調べておくこと。（30分程度）	山口　志津枝
21	視覚障害②：作業療法支援	１年次の復習を行い授業に臨むこと。（30分程度）	山口　志津枝
22	聴覚障害：病態、作業療法支援	聴覚障害について事前に調べておくこと。（30分程度）	山口　志津枝
教科書	「標準作業療法学　専門分野　身体機能作業療法学（第３版）」山口昇編、医学書院 「標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学（第３版）」能登真一編、医学書院* 「PT・OTビジュアルテキスト　身体障害作業療法学１　骨関節・神経疾患編　第１版」小林隆司編、羊土社* *1年次購入済み		
参考文献			
備考			

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
RO-2-TOT-07

科目名	精神機能作業療法学実習				単位認定者	須藤　あゆみ		評価の方法	試験（筆記）	80　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題	20　%
						授業時間数	44　時間			
				授業形態	実習	授業回数	22　回			

授業の概要	我が国における精神障害者に対する歴史的処遇と精神科作業療法の関連について学修する。 また、対象者の病態理解や治療法に関連した基礎理論を学び、精神科作業療法の評価・治療を学ぶ上での基盤を身につける。さらに、生活の中で働く精神機能の重要性を理解する。
到達目標	1. 作業療法の対象となる精神疾患の回復過程と、各過程の作業療法の役割を説明できる。 2. 疾患別の障害の特性、作業療法の目的、作業療法実施上の留意点を説明できる。 3. 作業療法における集団の用い方を学び、具体的に企画立案、運営、評価が実施できる。
学修者への期待等	臨床現場で出会うことの多い疾患・障害を学びます。主体的に授業に参加して下さい。 後半はグループワークを行いながら授業を進めるため、積極的に授業に参加して下さい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	精神障害に対する作業療法の基礎理論①共通理論	教科書の第8章ｐ287～322を読んでくること。（30分程度）	須藤　あゆみ
2	精神障害に対する作業療法の基礎理論②力動論他	教科書の第8章ｐ287～322を読んでくること。（30分程度）	須藤　あゆみ
3	精神障害に対する作業療法の基礎理論③発達・学習理論他	教科書の第8章ｐ287～322を読んでくること。（30分程度）	須藤　あゆみ
4	統合失調症①　症状と病型、経過と予後、治療について	LMSの資料を読むこと。（30分程度）	熊谷　竜太
5	統合失調症②　認知機能障害と行動特性について	LMSの資料を読むこと。（30分程度）	熊谷　竜太
6	統合失調症③　作業療法について	LMSの資料を読むこと。（30分程度）	熊谷　竜太
7	気分障害　疾患の病態生理と作業療法について	LMSの資料を読むこと。（30分程度）	熊谷　竜太
8	アルコール依存症　疾患の病態生理と作業療法について	LMSの資料を読むこと。（30分程度）	熊谷　竜太
9	パーソナリティ障害①　疾患の病態について	教科書の第4章Ｖｐ161～167を読んでくること。（概ね30分程度）	須藤　あゆみ
10	パーソナリティ障害②　境界性パーソナリティ障害の作業療法について	教科書第4章Ｖｐ161～167を読んでくること。（概ね30分程度）	須藤　あゆみ
11	神経症性障害①　疾患の病態について	教科書の第4章Ｖｐ161～167を読んでくること。（概ね30分程度）	須藤　あゆみ
12	神経症性障害②　作業療法について	教科書の第4章Ｖｐ161～167を読んでくること。（概ね30分程度）	須藤　あゆみ
13	摂食障害　疾患の病態と作業療法について	教科書の第4章Ⅳｐ154～161を読んでくること。（概ね30分程度）	須藤　あゆみ
14	てんかん　疾患の病態と作業療法について	教科書の第4章Ⅷｐ188～193を読んでくること。（概ね30分程度）	須藤　あゆみ
15	知的障害　疾患の病態と作業療法について		須藤　あゆみ

回	授業計画	準備学修	担当
16	集団と作業療法	1年次の復習をしておくこと。	須藤　あゆみ
17	集団作業療法　グループ演習①　プログラムの計画	グループで集団作業療法を企画する。関係教科書を持参すること。	須藤　あゆみ
18	集団作業療法　グループ演習②　プログラムの実践		須藤　あゆみ
19	集団作業療法　グループ演習③　プログラムの発表	グループ発表の準備をしておくこと。（概ね1時間程度）	須藤　あゆみ
20	集団作業療法　グループ演習④　まとめ		須藤　あゆみ
21	統合失調症の認知機能　　Activityの活用と適応	これまで学修してきたことを復習してくること。（概ね1時間程度）	古内　純平 須藤　あゆみ
22	症例から学ぶ	これまで学修してきたことを復習してくること。（概ね1時間程度）	古内　純平 須藤　あゆみ
教科書	「作業療法学全書　改訂第３版　第５巻　作業治療学２精神障害」冨岡詔子他編、協同医書出版* *1年次購入済み		
参考文献	「精神障害と作業療法　治る・治すから生きるへ」　山根寛著、三輪書店 「ひとと集団・場　治療や援助、支援における場と集団のもちい方」（新版）山根寛著、三輪書店		
備考	課題のフィードバックは授業内に適宜行います。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
RO-2-TOT-08

科目名	病期別作業療法学実習Ⅰ				単位認定者	齋藤　佑樹		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	２年	開講時期	通年	単位数	1　単位			
				授業形態	実習	授業時間数	44　時間			
						授業回数	22　回			

授業の概要	中枢神経障害に起因する疾患および神経筋・神経変性疾患の病態を理解するとともに、対象者の状態・病期に合わせた作業療法の治療原理、指導・援助方法について実習を通して修得する。
到達目標	1. 中枢神経疾患の発生機序、障害像を説明できる。 2. 障害像、心理、環境など、複数の情報を統合し、望ましい支援内容を立案・説明できる。 3. 各病期での作業療法士の役割について説明できる。
学修者への期待等	脳卒中をはじめ、臨床現場で出会うことの多い疾患・障害を扱います。主体的に授業に参加し理解を深めてください。

回	授業計画	準備学修	担当
1	中枢神経障害の概要：基礎知識の復習と支援の考え方	科目専用のノートを準備してください。	齋藤　佑樹
2	脳卒中の作業療法①麻痺の回復とは：自然回復と行動変容の違い。行動変容に必要な条件	前回の授業の内容をノートに整理すること。（30分程度）	齋藤　佑樹
3	脳卒中の作業療法②能力の向上とは：効果的な学習に必要な条件	前回の授業の内容をノートに整理すること。（30分程度）	齋藤　佑樹
4	脳卒中の作業療法③環境調整とは：良循環を形成する環境調整の視点	前回の授業の内容をノートに整理すること。（30分程度）	齋藤　佑樹
5	脳卒中の作業療法④急性期における作業療法士の役割（評価・治療の実際）	前回の授業の内容をノートに整理すること。（30分程度）	齋藤　佑樹
6	脳卒中の作業療法⑤回復期における作業療法士の役割（評価・治療の実際）	前回の授業の内容をノートに整理すること。（30分程度）	齋藤　佑樹
7	脳卒中の作業療法⑥生活期における作業療法士の役割（評価・治療の実際）	前回の授業の内容をノートに整理すること。（30分程度）	齋藤　佑樹
8	脳卒中の作業療法⑦これからの脳卒中作業療法	前回の授業の内容をノートに整理すること。（30分程度）	齋藤　佑樹
9	パーキンソン病①　発生機序と病態	「パーキンソン病」について概要を調べておくこと。(30分程度)	髙橋　慧
10	パーキンソン病②　評価、支援	前回の授業の内容を復習すること。（30分程度）	髙橋　慧
11	重症筋無力症　発生機序と病態、評価、支援	「重症筋無力症」について概要を調べておくこと。(30分程度)	髙橋　慧
12	多発性硬化症　発生機序と病態、評価、支援	「多発性硬化症」について概要を調べておくこと。(30分程度)	髙橋　慧
13	筋萎縮性側索硬化症　発生機序と病態、評価、支援	「筋萎縮性側索硬化症」について概要を調べておくこと。(30分程度)	髙橋　慧
14	ギランバレー症候群　発生機序と病態、評価、支援	「ギランバレー症候群」について概要を調べておくこと。(30分程度)	髙橋　慧
15	脊髄小脳変性症　発生機序と病態、評価、支援	「脊髄小脳変性症」について概要を調べておくこと。(30分程度)	髙橋　慧

回	授業計画	準備学修	担当
16	脳性麻痺総論	LMS内の授業資料を読んで予習してくる。（30分程度）	大橋　孝子
17	脳性麻痺各論（特徴と治療）	LMS内の授業資料を読んで予習してくる。（30分以内）	大橋　孝子
18	脳性麻痺児の作業療法	脳性麻痺総論、各論の学習内容を復習すること。（30分程度）	橋浦　樹里
19	筋ジストロフィーの作業療法	「筋ジストロフィー」について概要を調べておくこと。（30分程度）	橋浦　樹里
20	NICU入院児への作業療法と発達支援	「NICU」や「低出生体重児」について調べておくこと。（30分程度）	橋浦　樹里
21	自閉症スペクトラム総論（作業療法評価）	「自閉症スペクトラム」について概要を調べておくこと。（30分程度）	橋浦　樹里
22	自閉症スペクトラム各論（作業療法の実践）	総論内容を復習し、臨床像を理解しておくこと。（30分程度）	橋浦　樹里
教科書	「標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　第3版」岩崎テル子編、医学書院*1 「標準作業療法学　専門分野　身体機能作業療法学　第3版」山口昇編、医学書院*2 *1 1年次購入済み *2 身体機能作業療法学実習と同じ教科書を使用する		
参考文献	適宜紹介します		
備考	配付資料がある場合は、前日までにLMSに投稿します。印刷・PC上での閲覧どちらでも構いません。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
RO-2-TOT-09

科目名	病期別作業療法学実習Ⅱ				単位認定者	山口　志津枝		評価の方法	試験(筆記)	40　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＯＴ	必修	２年	開講時期	通年	単位数	1　単位		授業内課題	60　%
				授業形態	実習	授業時間数	44　時間			
						授業回数	22　回			

授業の概要	運動器障害、呼吸・循環障害などに起因する疾患の病態を理解するとともに、対象者の状態・病期に合わせた作業療法の治療原理、指導・援助方法および喀痰吸引等の医療的ケアについて実習を通して修得する。
到達目標	１．各疾患の病態を理解した上で、治療の考え方が説明できるようになる。 ２．各疾患の生涯像から適切な評価項目の列挙ができ、その目的を説明できるようになる。 ３．各疾患の病期に合わせた適切な治療の視点が説明できるようになる。
学修者への期待等	障害像が模倣できるよう、積極的に学修してください。

回	授業計画	準備学修	担当
1	授業ガイダンスと運動器・呼吸・循環障害の概要：基礎知識の復習、作業療法のプロセス	授業後に十分復習を行い理解を深めること。（1時間程度）	山口　志津枝
2	総論：問題の捉え方と支援計画	作業療法評価学原論を復習し授業に臨むこと。（30分点度）	山口　志津枝
3	各論：骨折①　概要と病態、回復過程	教科書の骨折の章を読んで授業に臨むこと。（1時間程度）	山口　志津枝
4	各論：骨折②　評価、目標設定	前回の授業を復習し理解した上で授業に臨むこと。（1時間程度）	山口　志津枝
5	各論：骨折③　作業療法支援	前回の授業を復習し理解した上で授業に臨むこと。（1時間程度）	山口　志津枝
6	各論：切断　原因と適応、切断の分類、評価と支援	教科書の切断の章を読んで授業に臨むこと。（1時間程度）	山口　志津枝
7	各論：ハンドセラピー①　作業療法評価	教科書の手の外科の章を読んで授業に臨むこと。（1時間程度）	山口　志津枝
8	各論：ハンドセラピー②　作業療法支援	前回の授業を復習し理解した上で授業に臨むこと。（1時間程度）	山口　志津枝
9	各論：脊髄損傷①　発生機序と病態、治療経過	教科書の脊髄損傷の章を読んで授業に臨むこと。（1時間程度）	齋藤　佑樹
10	各論：脊髄損傷②　評価	前回の授業を復習し理解した上で授業に臨むこと。（1時間程度）	齋藤　佑樹
11	各論：脊髄損傷③　目標設定、作業療法支援	前回の授業を復習し理解した上で授業に臨むこと。（1時間程度）	齋藤　佑樹
12	各論：呼吸器疾患①　発生機序、病態、評価、支援	教科書の呼吸器疾患の章を読んで授業に臨むこと。（1時間程度）	齋藤　佑樹
13	各論：呼吸器疾患②　喀痰吸引【実習】	前回の授業を復習し理解した上で授業に臨むこと。（1時間程度）	齋藤　佑樹
14	各論：心疾患　発生機序、病態、評価、支援	教科書の心疾患の章を読んで授業に臨むこと。（1時間程度）	山口　志津枝
15	各論：廃用症候群　発生機序、病態、評価、支援	教科書の廃用症候群（p130～）を読んで授業に臨むこと。	戸田　祐子

回	授業計画	準備学修	担当
16	各論：糖尿病　発生機序、病態、評価、支援	教科書の糖尿病（p405～）を読んで授業に臨むこと。	戸田　祐子
17	各論：腰痛症　病態、評価、支援	教科書の腰痛症（p327～）を読んで授業に臨むこと。	戸田　祐子
18	各論：熱傷　病態、評価、支援	教科書の熱傷の章を読んで授業に臨むこと。（1時間程度）	山口　志津枝
19	各論：リウマチ①　疾患の概要と作業療法の基本方針	教科書のリウマチの章を読んで授業に臨むこと。（1時間程度）	山口　志津枝
20	各論：リウマチ②　評価と目標設定、支援	前回の授業を復習し理解した上で授業に臨むこと。（1時間程度）	山口　志津枝
21	各論：がん①　疾患の概要と作業療法の基本方針	教科書の悪性腫瘍切除術後（p424～）を読んで授業に臨むこと。	戸田　祐子
22	各論：がん②　評価と目標設定支援	前回の授業を復習し理解した上で授業に臨むこと。（1時間程度）	戸田　祐子
教科書	「標準作業療法学　専門分野　身体機能作業療法学（第３版）」山口昇編、医学書院*1 「標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学（第３版）」能登真一編、医学書院*2 「PT・OTビジュアルテキスト　身体障害作業療法学１　骨関節・神経疾患編　第１版」小林隆司編、羊土社*2 *1 身体機能作業療法学実習と同じ教科書を使用する *2 1年次購入済み		
参考文献			
備考	授業内課題のフィードバックは適宜行います。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
RO-2-TOT-10

科目名	病期別作業療法学実習Ⅲ				単位認定者	熊谷　竜太		評価の方法	授業内課題	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	２年	開講時期	通年	単位数	1　単位			
						授業時間数	44　時間			
				授業形態	実習	授業回数	22　回			

授業の概要	認知・精神機能障害などに起因する疾患の病態を理解するとともに、対象者の状態・病期に合わせた作業療法の治療原理、指導・援助方法について実習を通して修得する。
到達目標	・認知及び精神機能障害などに起因する疾患の病態を理解する。 ・対象者の認知及び精神機能障害の状態などを正しく把握できるようになる。 ・対象者の状態に合わせた治療原理や指導、援助方法について理解する。
学修者への期待等	対象者を理解するために、実際に対象者をイメージできるように事例を通して授業を進めていきます。事例の理解を深めるために、準備学修は必要不可欠です。準備学修をしっかり取り組んで参加するようにしてください。

回	授業計画	準備学修	担当
1	ガイダンス 精神障害の回復状態に応じた作業療法の概要（全体）	LMSの資料に目を通しておくこと （概ね30分）	熊谷　竜太
2	精神障害の回復状態に応じた作業療法の概要（入院）	LMSの資料に目を通しておくこと （概ね30分）	熊谷　竜太
3	精神障害の回復状態に応じた作業療法の概要（地域）	LMSの資料に目を通しておくこと （概ね30分）	熊谷　竜太
4	事例を通して学ぶ（統合失調症の亜急性期）	LMSの資料に目を通しておくこと （概ね30分）	熊谷　竜太
5	事例を通して学ぶ（統合失調症の回復期前期）	LMSの資料に目を通しておくこと （概ね30分）	熊谷　竜太
6	事例を通して学ぶ（統合失調症の回復期後期）	LMSの資料に目を通しておくこと （概ね30分）	熊谷　竜太
7	事例を通して学ぶ（気分障害の早期）	LMSの資料に目を通しておくこと （概ね30分）	熊谷　竜太
8	事例を通して学ぶ（気分障害の回復期）	LMSの資料に目を通しておくこと （概ね30分）	熊谷　竜太
9	事例を通して学ぶ（アルコール依存症の回復期）	LMSの資料に目を通しておくこと （概ね30分）	熊谷　竜太
10	事例を通して学ぶ（デイケアの実践①） ～病気とのつきあい方～	LMSの資料に目を通しておくこと （概ね30分）	熊谷　竜太
11	事例を通して学ぶ（デイケアの実践②） ～仲間づくり～	LMSの資料に目を通しておくこと （概ね30分）	熊谷　竜太
12	事例を通して学ぶ（デイケアの実践③） ～生活の自己管理～	LMSの資料に目を通しておくこと （概ね30分）	熊谷　竜太
13	事例を通して学ぶ（訪問の実践①） ～病気と症状の自己管理～	LMSの資料に目を通しておくこと （概ね30分）	熊谷　竜太
14	事例を通して学ぶ（訪問の実践②） ～生活状況の安定化に向けて～	LMSの資料に目を通しておくこと （概ね30分）	熊谷　竜太
15	事例を通して学ぶ（訪問の実践③） ～緊急時の危機介入～	LMSの資料に目を通しておくこと （概ね30分）	熊谷　竜太

回	授業計画	準備学修	担当
16	事例を通して学ぶ（就労の実践） ～就労支援施設～	LMSの資料に目を通しておくこと（概ね30分）	熊谷　竜太
17	事例を通して学ぶ（司法領域の実践①） ～入院処遇～	LMSの資料に目を通しておくこと（概ね30分）	熊谷　竜太
18	事例を通して学ぶ（司法領域の実践②） ～通院処遇～	LMSの資料に目を通しておくこと（概ね30分）	熊谷　竜太
19	認知症を呈する高齢者の作業療法（基礎疾患別の作業療法の視点）	復習をして理解すること（概ね1時間）	戸田　祐子
20	認知症に対する作業療法の位置づけ、評価目的とアセスメントツール	復習をして理解すること（概ね1時間）	戸田　祐子
21	事例を通して学ぶ（評価時の注意点と実施）	復習をして理解すること（概ね1時間）	戸田　祐子
22	事例を通して学ぶ（治療・指導・援助について）	復習をして理解すること（概ね1時間）	戸田　祐子
教科書	「精神障害と作業療法 病いを生きる・病いと生きる 精神認知系作業療法の理論と実践」新版 山根寛著、三輪書店*1 「標準作業療法学　専門分野　高齢期作業療法学　第3版」松房利憲他編、医学書院*2 *1 1年次購入済み *2 精神医学各論と同じ教科書を使用する		
参考文献			
備考	授業内課題のフィードバックは適宜行います。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
熊谷：身体障害、高齢期、精神障害などの各領域で作業療法に長年従事してきた。その経験を活かし、作業療法対象者の状態に合わせた介入等について、わかりやすく教授する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	

科目ナンバリング
RO-2-TOT-11

科目名	作業療法応用演習				単位認定者	齋藤　佑樹		評価の方法	試験（レポート）	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	２年	開講時期	通年	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	演習	授業回数	15　回			

授業の概要	作業療法実践に必要な知識・技術・態度について、相互学習法を用いて学びながら分担、協力などのチームアプローチの基盤作りを行う。 また、その過程で自己の課題を認識することや課題解決のための手段を修得すること、そして生涯学び続けるために必要な自己管理能力の向上を図る。
到達目標	1. 自ら主体的に学ぶための技術を身につける。 2. 解決すべき課題（問）の明確化、解決方法の選択、解決行動ができる。 3. 個別・集団など、与えられた環境を最大限活用して理解を深めることができる。
学修者への期待等	実習や国家試験等について、グループ学修を中心に学びを深めていきます。学修に対する姿勢はグループ全体の意識や雰囲気に影響しますので主体的な参加を期待します。

回	授業計画	準備学修	担当
1	独学の技術：主体的に学ぶということ	科目専用のノートを準備すること。	齋藤　佑樹 戸田　祐子
2	臨床実習を知る：臨床実習の準備について	授業の内容をノートに整理すること（30分程度）	齋藤　佑樹 戸田　祐子
3	臨床実習を知る：臨床実習Ⅲの報告会に参加	授業の内容をノートに整理すること（30分程度）	齋藤　佑樹 戸田　祐子
4	臨床実習を知る：ディスカッション	授業の内容をノートに整理すること（30分程度）	齋藤　佑樹 戸田　祐子
5	臨床実習を知る：臨床実習Ⅳの報告会に参加	授業の内容をノートに整理すること（30分程度）	齋藤　佑樹 戸田　祐子
6	臨床実習を知る：ディスカッション	授業の内容をノートに整理すること（30分程度）	齋藤　佑樹 戸田　祐子
7	臨床実習を知る：まとめ	授業の内容をノートに整理すること（30分程度）	齋藤　佑樹 戸田　祐子
8	国家試験を知る		齋藤　佑樹 戸田　祐子
9	国家試験を知る：グループ学修①課題の抽出・計画	第8回で配布した問題を予習して臨むこと（60分程度）	齋藤　佑樹 戸田　祐子
10	国家試験を知る：グループ学修②例題について調べ解説を作成する	授業の内容をノートに整理すること（30分程度）	齋藤　佑樹 戸田　祐子
11	国家試験を知る：グループ学修③例題について調べ解説を作成する	授業の内容をノートに整理すること（30分程度）	齋藤　佑樹 戸田　祐子
12	国家試験を知る：グループ学修④例題について調べ解説を作成する	授業の内容をノートに整理すること（30分程度）	齋藤　佑樹 戸田　祐子
13	国家試験を知る：グループ学修⑤例題について調べ解説を作成する	授業の内容をノートに整理すること（30分程度）	齋藤　佑樹 戸田　祐子
14	国家試験を知る：グループ学修⑥発表会	授業の内容をノートに整理すること（30分程度）	齋藤　佑樹 戸田　祐子
15	まとめ	授業の内容をノートに整理すること（30分程度）	齋藤　佑樹 戸田　祐子

教科書	なし
参考文献	適宜紹介します
備考	配付資料がある場合は、前日までにLMSに投稿します。印刷・PC上での閲覧どちらでも構いません。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
RO-2-TOT-12

科目名	高次神経障害作業療法学				単位認定者	齋藤　佑樹		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＯＴ	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	演習	授業回数	15　回			

授業の概要	人の認知・行動と高次脳機能の関係について学修するとともに、高次脳機能障害の種類や症状の詳細について学び、それぞれの障害が、対象者の生活にどのような弊害を及ぼすのかを理解する。 また、高次脳機能障害の状態を正確に評価する知識・技術を身につけるとともに、作業療法士として行うべき支援についても理解を深めていく。あわせて、解剖学的知識を踏まえ、脳の局在と出現する症状の関係についても理解を深めていく。
到達目標	高次脳機能障害の症状・生活への影響・評価・支援の要点を理解し説明できる。 高次脳機能障害者の主観的世界をイメージし言語化できる。 障害像に合わせて適切な意思疎通・評価方法・支援方法を選択できる。 脳画像から対象者に生じる高次脳機能障害の種類・生活への影響を予測できる。
学修者への期待等	難易度の高い内容を多く含みます。毎回の十分な予習復習と主体的な参加を期待します。

回	授業計画	準備学修	担当
1	高次脳機能障害をもたらす病巣（脳画像の理解） 高次脳機能障害の概要	科目専用のノートを準備してください。	齋藤　佑樹
2	失語：病態・評価・作業療法支援（講義）	前回の内容をノートに整理してください。（30分程度）	齋藤　佑樹
3	失語：評価・支援の実際（実技）	前回の内容をノートに整理してください。（30分程度）	齋藤　佑樹
4	失認：病態・評価・作業療法支援（講義）	前回の内容をノートに整理してください。（30分程度）	齋藤　佑樹
5	失認：評価・支援の実際（実技）	前回の内容をノートに整理してください。（30分程度）	齋藤　佑樹
6	注意障害：病態・評価・作業療法支援（講義）	前回の内容をノートに整理してください。（30分程度）	齋藤　佑樹
7	注意障害：評価・支援の実際（実技）	前回の内容をノートに整理してください。（30分程度）	戸田　祐子
8	半側空間無視：病態・評価・作業療法支援（講義）	前回の内容をノートに整理してください。（30分程度）	齋藤　佑樹
9	半側空間無視：評価・支援の実際（実技）	前回の内容をノートに整理してください。（30分程度）	戸田　祐子
10	失行：病態・評価・作業療法支援（講義）	前回の内容をノートに整理してください。（30分程度）	齋藤　佑樹
11	失行：評価・支援の実際（実技）	前回の内容をノートに整理してください。（30分程度）	戸田　祐子
12	遂行機能障害：病態・評価・作業療法支援（講義）	前回の内容をノートに整理してください。（30分程度）	齋藤　佑樹
13	遂行機能障害：評価・支援の実際（実技）	前回の内容をノートに整理してください。（30分程度）	戸田　祐子
14	認知症：病態・評価・作業療法支援（講義）	前回の内容をノートに整理してください。（30分程度）	齋藤　佑樹
15	認知症：評価・支援の実際（実技）	前回の内容をノートに整理してください。（30分程度）	戸田　祐子

教科書	「標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学 第2版」能登真一編、医学書院
参考文献	適宜紹介します
備考	配付資料がある場合は、前日までにLMSに投稿します。印刷・PC上での閲覧どちらでも構いません。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
RO-2-TOT-13

科目名	社会生活行為学演習				単位認定者	戸田　祐子		評価の方法	授業内課題	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＯＴ	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	演習	授業回数	15　回			

授業の概要	生活行為について、遂行を妨げている要因を専門的な視点で捉えられるよう学修する。作業療法における生活行為の評価過程や代表的な評価法についての知識や技能を修得するとともに、事例を通して生活行為向上マネジメント(Management tool for Daily Life Performance: MTDLP)を活用できるよう学修する。
到達目標	対象者にとって大切で重要な「やりたい」と思っている生活行為に焦点を当てたマネジメントツールを理解し、事例を通し活用できる。社会生活上の問題のとらえ方とアプローチ方法について理解し活用できる。
学修者への期待等	生活行為とは何かしっかり理解してほしい。 身体機能のみならず、対象者の生活行為や役割を考える視点をもって授業に臨んでほしい。 ディスカッションには積極的に参加し、自分の考えを発表しましょう。

回	授業計画	準備学修	担当
1	MTDLP(生活行為向上マネジメント）とは 実践の軸となる考え方	授業で学んだ用語の整理をしておくこと。（概ね30分）	戸田　祐子
2	MTDLPのプロセス、「生活行為聞き取りシート」の使い方、「興味・関心チェックシート」の使い方	事前：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後：各シートの使い方を復習する。（概ね30分）	戸田　祐子
3	「生活行為向上マネジメントシート」の使い方、生活行為申し送り表の使い方	事前：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後：各シートの使い方を復習する。（概ね30分）	戸田　祐子
4	MTDLP活用のための制度理解	事前：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後：制度についてまとめる。（概ね45分）	戸田　祐子
5	地域ケアシステムへの活用	地域包括ケアシステムについてまとめる。（概ね1時間）	戸田　祐子
6	事例を通してMTDLPの実践①回復期 （グループディスカッション）	各シートの内容を確認し、事例の要約を作成する。（概ね1時間）	戸田　祐子
7	事例を通してMTDLPの実践②生活期 （グループディスカッション）	各シートの内容を確認し、事例の要約を作成しましょう。（概ね1時間）	戸田　祐子
8	事例を通してMTDLPの実践③訪問リハ （グループディスカッション）	各シートの内容を確認し、事例の要約を作成しましょう。（概ね1時間）	戸田　祐子
9	精神障害領域における社会生活上の問題とアプローチ①（MTDLPの実践）	配付資料に事前に目を通しておくこと。（概ね1時間）	熊谷　竜太
10	精神障害領域における社会生活上の問題とアプローチ②（食事や栄養面について）	配付資料に事前に目を通しておくこと。（概ね1時間）	熊谷　竜太
11	精神障害領域における社会生活上の問題とアプローチ③（服装や整容、衛生面について）	配付資料に事前に目を通しておくこと。（概ね1時間）	熊谷　竜太
12	精神障害領域における社会生活上の問題とアプローチ④（服薬管理や体調管理について）	配付資料に事前に目を通しておくこと。（概ね1時間）	熊谷　竜太
13	精神障害領域における社会生活上の問題とアプローチ⑤（金銭管理や時間管理について）	配付資料に事前に目を通しておくこと。（概ね1時間）	熊谷　竜太
14	精神障害領域における社会生活上の問題とアプローチ⑥（自己管理チェックシートの作成）		熊谷　竜太
15	精神障害領域における社会生活上の問題とアプローチ⑦（コミュニケーション活動や対人交流場面について）	配付資料に事前に目を通しておくこと。（概ね1時間）	熊谷　竜太

教科書	「事例で学ぶ生活行為向上マネジメント　第2版」一般社団法人日本作業療法士協会編著　医歯薬出版株式会社 「精神障害と作業療法　病いを生きる・病いと生きる　精神認知系作業療法の理論と実践　新版」山根寛著、三輪書店**1年次購入済み
参考文献	
備考	授業内課題のフィードバックは基本的に授業内にて行います。時間が足りない場合は時間を設定し行います。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
RO-2-TOT-14

科目名	義肢装具学				単位認定者	髙橋　慧		評価の方法	試験(筆記)	70　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題	30　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	演習	授業回数	15　回			

授業の概要	四肢・体幹の義肢・補装具の基本的構造と機能について学修し、装着訓練ならびに義肢の適合判定の方法、義肢の使用方法について理解を深める。 また、スプリント作成の演習を通し、作成技術の基礎を習得する。
到達目標	１．義肢と装具の違いについて説明できるようになる。 ２．疾患別に適応する装具を理解し、作業療法の手段として適用できるようになる。
学修者への期待等	解剖学や運動学の知識も活用しながら授業に臨み、義肢や装具の構造や働き・使用方法などの知識を身につける。

回	授業計画	準備学修	担当
1	授業ガイダンス　義肢装具学 概論	教科書P1～5を読んで、授業に臨むこと。(30分程度)	髙橋　慧
2	義肢学総論(歴史、切断の原因・部位・分類)	教科書P13～22を読んで、授業に臨むこと。(30分程度)	髙橋　慧
3	上肢切断の評価・ソケットの種類	事前に配付する資料をよく読んで授業に臨むこと。(30分程度)	髙橋　慧
4	下肢切断の評価・ソケットの種類	事前に配付する資料をよく読んで授業に臨むこと。(30分程度)	髙橋　慧
5	装具学総論(歴史・目的・分類)	教科書P123～149を読んで、授業に臨むこと。(30分程度)	髙橋　慧
6	疾患別適応装具①(関節リウマチ)	教科書P195～199を読んで、授業に臨むこと。(30分程度)	髙橋　慧
7	疾患別適応装具②(末梢神経損傷)	教科書P200～209を読んで、授業に臨むこと。(30分程度)	髙橋　慧
8	疾患別適応装具③(頚髄損傷)	教科書P187～193を読んで、授業に臨むこと。(30分程度)	髙橋　慧
9	切断の作業療法(断端の管理、ROMex、筋力訓練、ADL訓練)	事前に「切断」について予習をする(30分程度)	髙橋　慧
10	義手(適応・分類・構造)	事前に教科書の「作業療法士に必要な義手各種」について予習をする(30分程度)	髙橋　慧 本地　光弘
11	義手(装着・操作訓練・義手のチェックアウト)	前回の復習を十分に行う(30分程度)	髙橋　慧 本地　光弘
12	上肢装具(分類・目的)、スプリント制作準備	教科書P143～149と事前に配付する資料を読んで、授業に臨むこと。(30分程度)	髙橋　慧
13	スプリント作成①(型紙作り)　実技	前回の復習と事前に配付する資料を読んで、授業に臨むこと。(30分程度)	髙橋　慧
14	スプリント作成②(加工)　実技	前回の復習と事前に配付する資料を読んで、授業に臨むこと。(30分程度)	髙橋　慧
15	スプリントのチェックアウト・まとめ	前回の復習をして授業に臨むこと。(30分程度)	髙橋　慧

教科書	「義肢装具と作業療法　評価から実践まで」大庭潤平編　医歯薬出版株式会社
参考文献	「PT・OTビジュアルテキスト　身体障害作業療法学１」「義肢・装具学」豊田輝編、羊土社
備考	授業内課題(第13回、第14回、第15回)のフィードバックは第15回に行う。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
RO-2-TOT-15

科目名	臨床作業療法演習Ⅱ				単位認定者	須藤　あゆみ		評価の方法	試験(筆記)	20　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＯＴ	必修	２年	開講時期	通年	単位数	2　単位		授業内課題	80　%
				授業時間数		60　時間				
				授業形態	演習	授業回数	30　回			

授業の概要	臨床現場で関わる頻度の多い疾患について、演習を通して一連の作業療法過程について学修する。各疾患の症候をもとに障害像を理解し、評価の選択から結果の解釈、治療への繋がりまでを学修する。
到達目標	1.代表疾患の障害像が説明できるようになる。 2.提示の疾患に対し、適切な評価が実施できるようになる。 3.提示の疾患の治療計画が立案できるようになる。 4.提示の疾患の治療計画が説明できるようになる。
学修者への期待等	演習であるため、積極的に参加すること。

回	授業計画	準備学修	担当
1	症例の病態理解と評価計画の立て方	作業療法プロセスを確認し授業に臨むこと。（30分程度）	山口　志津枝
2	治療の考え方と実際	作業療法評価学原論を復習し授業に臨むこと。（30分点度）	山口　志津枝
3	症例を通して学ぶ臨床思考①：身体障害領域（整形外科疾患）	教科書の骨折の章を読んで授業に臨むこと。(1時間程度)	山口　志津枝
4	症例を通して学ぶ臨床思考②：身体障害領域（中枢神経疾患）	教科書の脳血管障害の章を読んで授業に臨むこと。(1時間程度)	山口　志津枝
5	症例を通して学ぶ臨床思考③：老年期障害領域(認知症)	認知症に関する箇所を読み、授業に臨むこと。(30分程度)	髙橋　慧
6	症例を通して学ぶ臨床思考④：老年期障害領域(変形性関節症)	変形性関節症に関する箇所を読み、授業に臨むこと。(30分程度)	髙橋　慧
7	症例を通して学ぶ臨床思考⑤：精神障害領域（統合失調症）	精神障害作業治療学各論で学んだ代表疾患を復習しておくこと。（30分程度）	須藤　あゆみ
8	症例を通して学ぶ臨床思考⑥：精神障害領域（気分障害）	精神障害作業治療学各論で学んだ代表疾患を復習しておくこと。（30分程度）	須藤　あゆみ
9	症例を通して学ぶ臨床思考⑦：発達障害領域	教科書の発達障害の章を読んで授業に臨むこと。(1時間程度)	山口　志津枝
10	症例演習①：症例提示	症例の病態を整理し、評価項目を列挙しておくこと。（30分程度）	齋藤　佑樹
11	：評価計画立案	症例の病態、将来像を考えて臨むこと。（30分程度）	齋藤　佑樹
12	：まとめ	症例演習①を振り返るため、必ず復習しておくこと。(30分程度)	齋藤　佑樹
13	症例演習②：症例提示	症例の病態を整理し、評価項目を列挙しておくこと。（30分程度）	須藤　あゆみ
14	：評価計画立案	症例の病態、将来像を考えて臨むこと。（30分程度）	須藤　あゆみ
15	症例演習③：症例提示、評価計画立案	LMSで配付する資料を事前に読み込み授業に臨むこと。(30分程度)	髙橋　慧

回	授業計画	準備学修	担当
16	：評価の実践、治療計画の立案	LMSで配付する資料を事前に読み込み授業に臨むこと。(30分程度)	髙橋　慧
17	症例演習④：症例提示、評価計画立案	評価について復習し授業に臨むこと。(1時間程度)	山口　志津枝
18	：評価実施	症例の病態を整理し、評価項目を列挙しておくこと。（30分程度）	山口　志津枝
19	：治療計画立案	症例の病態を整理し、評価項目を列挙しておくこと。（30分程度）	山口　志津枝
20	症例演習⑤：症例提示	症例の病態を整理し、評価項目を列挙しておくこと。（30分程度）	齋藤　佑樹
21	：評価計画立案	症例の病態、将来像を考えて臨むこと。（30分程度）	齋藤　佑樹
22	：クリニカルリーズニング	4つのリーズニングについて予習して臨むこと。（30分程度）	齋藤　佑樹
23	：まとめとポイント	症例演習⑤を振り返るため、必ず復習しておくこと。(30分程度)	齋藤　佑樹
24	症例演習⑥：症例提示、評価計画立案	LMSで配付する資料を事前に読み込み授業に臨むこと。(30分程度)	髙橋　慧
25	：評価の実践、治療計画の立案	LMSで配付する資料を事前に読み込み授業に臨むこと。(31分程度)	髙橋　慧
26	：まとめ	前回の内容について十分に復習を行い授業に臨むこと。（1時間程度）	髙橋　慧
27	症例演習⑦：症例提示、評価計画立案	症例の病態を整理し評価項目を列挙しておくこと。（30分程度）	須藤　あゆみ
28	：治療計画立案	症例の病態、将来像を考えて臨むこと。（30分程度）	須藤　あゆみ
29	：発表	各自発表の準備をしておくこと。（30分程度）	須藤　あゆみ 安達　健朗
30	症例を通して学ぶ　実践例		須藤　あゆみ 安達　健朗
教科書	「標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学（第３版）」能登真一他編、医学書院* 「PT・OTビジュアルテキスト　身体障害作業療法学１　骨関節・神経疾患編　第１版」小林隆司編、羊土社* 「病気がみえるvol７　脳・神経」医療情報科学研究所編、MEDIC MEDIA* *1年次購入済み		
参考文献			
備考	授業内課題の提出期限は厳守して下さい。授業内課題のフィードバックは授業内で適宜行います。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	●

科目ナンバリング
RO-2-CLP-02

科目名	臨床実習Ⅱ（評価実習）				単位認定者	齋藤　佑樹		評価の方法	実習内容	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	２年	開講時期	通年	単位数	6　単位			
						授業時間数	270 時間			
				授業形態	実習	授業回数	－　回			

授業の概要	臨床実習Ⅱ（評価実習）では、学生が医療チームの一員として臨床場面に参加しながら作業療法を経験し、技能を向上させることを目的とする。対象者の全体像把握のため、臨床実習指導者の指導のもと検査・測定を実施し、問題点の抽出、治療プログラムの立案および治療目標の設定ができるよう学修する。 実習の前後には、学内で客観的臨床能力試験（OSCE）を実施し、知識、技能、態度等を総合的に評価するとともに、実習後セミナーを通して臨床現場で身につけた知識の習熟を図っていく。
到達目標	臨床実習Ⅱ（臨床評価）では、臨床実習指導者の指導のもと、作業療法の対象者に対して、検査・測定を実施し、問題点の抽出、治療プログラムの立案および治療目標の設定ができるようになることを目的とする。
学修者への期待等	臨床実習にあたっての意義や目的は実習の手引き書の他に臨床実習ガイダンスや各授業においても示す。臨床実習ではこれまで学修した知識及び技術を総動員して主体的に臨むこと。また、記録の作成、提出期限の厳守や施設における規則・心得を守り、実習生として責任ある行動を取ること。

授業計画	準備学修
1. 実習期間 前半：2022年 9月 12日～　9月 23日 後半：2023年 1月 23日～　2月 24日 2. 実習目的・目標 (1) 臨床実習施設の特性や施設における作業療法(士)の役割と機能を学ぶ。 1) 地域における臨床実習施設の役割を述べることができる。 2) 臨床実習施設における作業療法(士)の役割と機能を述べることができる。 3) 臨床実習施設の特性と作業療法(士)の役割を関連付けて説明できる。 (2) 今まで学んだ作業療法の知識と技術・技能および態度を臨床場面に応用し、基本的な作業療法を実践することを体験する。 1) 利用者の全体像把握のために必要な評価計画を立てることができる。 2) 選択した評価手段(検査・測定等)を適切に実施できる。 3) 検査・測定等の結果と利用者の生活を結び付けた解釈や判断ができる。 4) 利用者の全体像をまとめるために必要な情報を選択できる。 5) 選択した情報を基に全体像をまとめることができる。 6) まとめた全体像から短期・長期目標を設定できる。 7) 短期・長期目標に基づいた治療計画を立案することができる。 8) 利用者への治療技術を体験する。 (3) リハビリテーションチームの一員としての役割を理解し、協調性のある態度を身につける。 1) リハビリテーション・チームを成立させるために必要な機能を説明できる。 2) リハビリテーション・チームの一員としての作業療法(士)の役割を説明できる。 3) リハビリテーション・チームにおける他職種の役割を説明できる。 4) リハビリテーション・チームの一員として、コミュニケーションを図ることができる。 (4) 作業療法士としての基本的な態度を身につける。 1) 自ら計画を立て課題を遂行することができる。 2) 必要に応じ、臨床実習指導者や他職員に報告や相談、連絡を行うことができる。 3) 自身の行動を振り返り、改善すべきところは、自ら対応策を考え実行することができる。 4) 助言や指摘、指導を素直に受け入れ、次の行動に活かすことができる。 5) 常に疑問を持ち、利用者への理解を深めるために自ら文献で調べる等、探求する姿勢をもつことができる。 3. 実習計画 (1) 実習場所は作業療法士が従事している施設とする。 (2) 実習時間は１日を概ね８時間とする。 (3) 毎日の臨床実習記録を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。	ガイダンス及びセミナーに参加すること。

教科書	なし
参考文献	
備考	担当者　作業療法学専攻教員：齋藤佑樹、山口志津枝、須藤あゆみ、戸田祐子、熊谷竜太、髙橋慧

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	●

科目ナンバリング
RO-2-CBO-02

科目名	職業リハビリテーション論				単位認定者	髙橋　慧		評価の方法	試験(筆記)	70　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	２年	開講時期	後期	単位数	2　単位		授業内課題	30　%
				授業時間数		30　時間				
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	職業リハビリテーションの理念や歴史的発展、現在の法制度、社会資源など職業リハビリテーションに携わる上で必要な基本的知識を学習するとともに、職業リハビリテーションにおける作業療法の機能と役割、障害を持つ人々の就労支援に必要な評価ついて理解を深める。
到達目標	人にとって職業とはどんな意味があるかを理解し、障害を持つ人の就労支援や作業療法士の役割や可能性を学ぶ。
学修者への期待等	１．働くということを理解し、説明ができる ２．職業リハビリテーションの基本的な考え方を身につける ３．就労に必要な福祉関連機器の用途・導入を理解する

回	授業計画	準備学修	担当
1	職業の定義、意味、構成要素	教科書P3～5をよく読んでくること。(30分程度)	髙橋　慧
2	職業リハビリテーション活動の概念	教科書P7～9をよく読んでくること。(30分程度)	髙橋　慧
3	就労支援に関する理論(マズローの欲求階層モデルなど)	教科書P9～17をよく読んでくること。(30分程度)	髙橋　慧
4	障害者の就労・就労制度	教科書P19～35をよく読んでくること。(30分程度)	髙橋　慧
5	就労支援の基本的な考え方	教科書P36～45をよく読んでくること。(30分程度)	戸田　祐子
6	職業関連活動と就労支援における作業療法の役割	教科書P47～51をよく読んでくること。(30分程度)	戸田　祐子
7	関連職種・関連機関との連携，作業療法の対象者と実施施設	教科書P51～54をよく読んでくること。(30分程度)	戸田　祐子
8	作業療法評価①　目的・過程	教科書P55～68をよく読んでくること。(30分程度)	髙橋　慧
9	作業療法評価②　評価の種類・方法	前回の復習と、教科書P55～68をよく読んでくること。(30分程度)	髙橋　慧
10	作業療法評価③　留意点・ケーススタディ	教科書P69～73をよく読んでくること。(30分程度)	髙橋　慧
11	障害別就労支援の実際①(身体障害)	教科書P117～130をよく読んでくること。(30分程度)	髙橋　慧
12	これまでの講義の総括	これまでの配付資料を用いて総復習をしてから臨むこと(30分程度)	髙橋　慧
13	障害別就労支援の実際②(若年性認知症)	事前に配付する資料をよく読んでくること。(30分程度)	戸田　祐子
14	福祉関連機器①　講義	福祉関連機器について、復習すること。(30分程度)	戸田　祐子 大場　薫
15	福祉関連機器②　実技		戸田　祐子 大場　薫

教科書	「作業療法学全書　改定第３版　第１２巻　作業療法技術学４　職業関連活動」平賀昭信・岩瀬義昭編協同医書出版社
参考文献	「職業リハビリテーションの基礎と実践」日本職業リハビリテーション編、中央法規
備考	授業内課題のフィードバックは基本的に授業内にて行います。時間が足りない場合は時間を設定し行います。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

リハビリテーション学科

作業療法学専攻
３年生

【2020(令和2)年度入学生】

■　年間予定表

■　シラバス

2022(令和4)年度 リハビリテーション学科 作業療法学専攻3年生 年間予定表

前期

	日		月		火		水		木		金		土	
4月	27		28		29		30		31		1		2	
	3		4		5		6	入学式	7		8		9	
	10		11	健康診断	12		13		14		15		16	
	17		18		19		20		21		22		23	
	24		25		26		27		28		29	昭和の日	30	
5月	1		2		3	憲法記念日	4	みどりの日	5	こどもの日	6		7	
	8		9		10		11		12		13		14	
	15		16		17		18		19		20		21	
	22		23	臨床実習Ⅲ	24	臨床実習Ⅲ	25	臨床実習Ⅲ	26	臨床実習Ⅲ	27	臨床実習Ⅲ	28	
	29		30	臨床実習Ⅲ	31	臨床実習Ⅲ	1	臨床実習Ⅲ	2	臨床実習Ⅲ	3	臨床実習Ⅲ	4	
6月	5		6	臨床実習Ⅲ	7	臨床実習Ⅲ	8	臨床実習Ⅲ	9	臨床実習Ⅲ	10	臨床実習Ⅲ	11	
	12		13	臨床実習Ⅲ	14	臨床実習Ⅲ	15	臨床実習Ⅲ	16	臨床実習Ⅲ	17	臨床実習Ⅲ	18	
	19		20	臨床実習Ⅲ	21	臨床実習Ⅲ	22	臨床実習Ⅲ	23	臨床実習Ⅲ	24	臨床実習Ⅲ	25	
	26		27	臨床実習Ⅲ	28	臨床実習Ⅲ	29	臨床実習Ⅲ	30	臨床実習Ⅲ	1	臨床実習Ⅲ	2	
7月	3		4	臨床実習Ⅲ	5	臨床実習Ⅲ	6	臨床実習Ⅲ	7	臨床実習Ⅲ	8	臨床実習Ⅲ	9	
	10		11	臨床実習Ⅲ	12	臨床実習Ⅲ	13	臨床実習Ⅲ	14	臨床実習Ⅲ	15	臨床実習Ⅲ	16	
	17		18	海の日	19		20		21		22		23	
	24		25	地域作業療法実習	26	地域作業療法実習	27	地域作業療法実習	28	地域作業療法実習	29	地域作業療法実習	30	
	31		1	地域作業療法実習	2	地域作業療法実習	3	地域作業療法実習	4	地域作業療法実習	5	地域作業療法実習	6	
8月	7		8		9		10		11	山の日	12		13	
	14		15		16		17		18		19		20	
	21		22		23		24		25		26		27	
	28		29	臨床実習Ⅳ	30	臨床実習Ⅳ	31	臨床実習Ⅳ	1	臨床実習Ⅳ	2	臨床実習Ⅳ	3	
9月	4		5	臨床実習Ⅳ	6	臨床実習Ⅳ	7	臨床実習Ⅳ	8	臨床実習Ⅳ	9	臨床実習Ⅳ	10	
	11		12	臨床実習Ⅳ	13	臨床実習Ⅳ	14	臨床実習Ⅳ	15	臨床実習Ⅳ	16	臨床実習Ⅳ	17	
	18		19	敬老の日	20	臨床実習Ⅳ	21	臨床実習Ⅳ	22	臨床実習Ⅳ	23	秋分の日	24	
	25		26	臨床実習Ⅳ	27	臨床実習Ⅳ	28	臨床実習Ⅳ	29	臨床実習Ⅳ	30	臨床実習Ⅳ	1	

・休講の振替授業日、随時試験・追試験の日程については、LMS又は掲示にて確認してください。
・再試験の日程については、状況に応じて変更になる場合があります。LMS又は掲示にて確認してください。

2022(令和4)年度 リハビリテーション学科 作業療法学専攻3年生 年間予定表

後期

	日		月		火		水		木		金		土	
	25		26	臨床実習Ⅳ	27	臨床実習Ⅳ	28	臨床実習Ⅳ	29	臨床実習Ⅳ	30	臨床実習Ⅳ	1	
10月	2		3	臨床実習Ⅳ	4	臨床実習Ⅳ	5	臨床実習Ⅳ	6	臨床実習Ⅳ	7	臨床実習Ⅳ	8	
	9		10	スポーツの日	11	臨床実習Ⅳ	12	臨床実習Ⅳ	13	臨床実習Ⅳ	14	臨床実習Ⅳ	15	
	16		17	臨床実習Ⅳ	18	臨床実習Ⅳ	19	臨床実習Ⅳ	20	臨床実習Ⅳ	21	臨床実習Ⅳ	22	
	23		24		25		26		27		28		29	せいよう祭
	30		31		1		2		3	文化の日	4		5	
11月	6		7		8		9		10		11		12	
	13		14		15		16		17		18		19	
	20		21		22		23	勤労感謝の日	24		25		26	
	27		28		29		30		1		2		3	
12月	4		5		6		7		8		9		10	
	11		12		13		14		15		16		17	
	18		19		20		21		22		23		24	
	25		26		27		28		29		30		31	
1月	1	元旦	2	振替休日	3		4		5		6		7	
	8		9	成人の日	10		11		12		13		14	
	15		16		17		18		19		20		21	
	22		23		24		25		26		27		28	
	29		30		31		1		2		3		4	
2月	5		6		7		8		9		10		11	建国記念の日
	12		13		14		15		16		17		18	
	19		20		21		22		23	天皇誕生日	24		25	
	26		27		28		1		2		3		4	
3月	5		6		7		8		9		10		11	
	12		13		14		15		16		17		18	
	19		20	卒業式	21	春分の日	22		23		24		25	
	26		27		28		29		30		31			

・休講の振替授業日、随時試験・追試験の日程については、LMS又は掲示にて確認してください。
・再試験の日程については、状況に応じて変更になる場合があります。LMS又は掲示にて確認してください。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
			●	●	●

科目ナンバリング
RO-2-MNO-02

科目名	作業療法管理学演習				単位認定者	熊谷　竜太		評価の方法	授業内課題	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	３年	開講時期	通年	単位数	1　単位			
						授業時間数	20　時間			
				授業形態	演習	授業回数	10　回			

授業の概要	作業療法管理学の知識をもとに、専門職職業人としての意識を高めるとともに、作業療法教育の現状を知り、今後について考査する。 また、生涯にわたり自己学習を進めるための内省力を養い、自己管理能力の向上を図る。
到達目標	社会人・職業人として、自分自身のマネジメント、所属組織のマネジメント、チームのマネジメントに必要な知識について学び、要点を説明することができる。
学修者への期待等	社会人として自己実現を果たすために不可欠な知識を得ることができる科目です。主体的に課題に取り組むことを期待します。

回	授業計画	準備学修
1	オリエンテーション、マネジメントの概要	LMSの配付資料を事前に確認（30分程度）
2	セルフマネジメント①(講義・グループワーク) ～自分を知る～	LMSの配付資料を事前に確認（30分程度）
3	セルフマネジメント②(講義・グループワーク) ～目的の明確化～	LMSの配付資料を事前に確認（30分程度）
4	セルフマネジメント③(講義・グループワーク) ～計画性～	LMSの配付資料を事前に確認（30分程度）
5	チームマネジメント①(講義・グループワーク) ～相手の個性を的確に把握する～	LMSの配付資料を事前に確認（30分程度）
6	チームマネジメント②(講義・グループワーク) ～チームとしての目標設定～	LMSの配付資料を事前に確認（30分程度）
7	チームマネジメント③(講義・グループワーク) ～チームとしてのコミュニケーション～	LMSの配付資料を事前に確認（30分程度）
8	組織マネジメント①(講義・グループワーク) ～組織としての成果～	LMSの配付資料を事前に確認（30分程度）
9	組織マネジメント②(講義・グループワーク) ～組織における目標～	LMSの配付資料を事前に確認（30分程度）
10	組織マネジメント③(講義・グループワーク) ～組織におけるコミュニケーション～	LMSの配付資料を事前に確認（30分程度）

教科書	「作業で結ぶマネジメント 作業療法士のための自分づくり・仲間づくり・組織づくり」 澤田辰徳 編、医学書院
参考文献	適宜紹介します。
備考	授業内課題のフィードバックは適宜行います。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	

科目ナンバリング
RO-2-TOT-16

科目名	作業療法総合演習				単位認定者	山口　志津枝		評価の方法	授業内課題	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	ＯＴ	必修	３年	開講時期	通年	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	演習	授業回数	15　回			

授業の概要	相互学習法を通してチームアプローチの必要性を認識するとともにリーダーシップ力の向上を目指す。 また、問題解決能力を高めるとともに、計画性や企画力、創造性、表現能力などを学修し、専門職として備えるべき要素の修得と自己学習能力の向上を図る。
到達目標	１．自己の修得状況を客観的に評価できる。 ２．自己に効果的な学修方法を説明できる。 ３．解決すべき課題（問）の明確化、解決方法の選択、解決行動ができる。 ４．リーダーとして他者を牽引できる。
学修者への期待等	グループ学修を中心に学びを深めていきます。学修に対する姿勢はグループ全体の意識や雰囲気に影響しますので主体的な参加を期待します。

回	授業計画	準備学修	担当
1	授業ガイダンスと作業療法総合演習への導入、学修内容の把握	3年間の学習内容を確認しておく（１時間程度）	山口　志津枝 熊谷　竜太
2	修得状況の分析	これまでの自己の成績を確認しておく（１時間程度）	山口　志津枝 熊谷　竜太
3	国家試験の概要	事前調査を行っておく（１時間程度）	山口　志津枝 熊谷　竜太
4	勉強の仕方①自己評価	事前調査を行っておく（１時間程度）	山口　志津枝 熊谷　竜太
5	勉強の仕方②自己分析	授業の内容をノートに整理すること（30分程度）	山口　志津枝 熊谷　竜太
6	勉強の仕方③ディスカッション；効果的な学修方法	授業の内容をノートに整理すること（30分程度）	山口　志津枝 熊谷　竜太
7	リーダーシップを鍛える①計画	事前調査を行っておく（１時間程度）	山口　志津枝 熊谷　竜太
8	リーダーシップを鍛える②準備	必要なものを準備しておくこと（1時間程度）	山口　志津枝 熊谷　竜太
9	リーダーシップを鍛える③ディスカッション	授業の内容をノートに整理すること（30分程度）	山口　志津枝 熊谷　竜太
10	リーダーシップを鍛える④発表	授業の内容をノートに整理すること（30分程度）	山口　志津枝 熊谷　竜太
11	リーダーシップを鍛える⑤まとめ	授業の内容をノートに整理すること（30分程度）	山口　志津枝 熊谷　竜太
12	勉強会①グループ学修の進め方	授業の内容をノートに整理すること（30分程度）	山口　志津枝 熊谷　竜太
13	勉強会②グループ学修：課題の抽出	授業の内容をノートに整理すること（30分程度）	山口　志津枝 熊谷　竜太
14	勉強会③グループ学修：課題の実践	授業の内容をノートに整理すること（30分程度）	山口　志津枝 熊谷　竜太
15	３年間のまとめ、今後の課題		山口　志津枝 熊谷　竜太

教科書	なし
参考文献	適宜紹介します
備考	配付資料がある場合は、前日までにLMSに投稿します。印刷・PC上での閲覧どちらでも構いません。 授業内課題のフィードバックは適宜行います。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
RO-2-TOT-17

科目名	臨床作業療法演習Ⅲ				単位認定者	須藤　あゆみ		評価の方法	授業内課題	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	３年	開講時期	通年	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	演習	授業回数	15　回			

授業の概要	臨床実習で経験した事例を取り上げ、問題の分析から治療介入について、各科目で学んだ知識・技術を統合し考える。作業療法の治療理論に基づいた介入を学び、適切な介入の方法を修得することで作業療法を総合的にする。
到達目標	１．各領域の主要疾患の評価に必要な知識を用い、評価計画を立案することができるようになる。 ２．各領域の主要疾患において、根拠のある効果的な治療プログラムを立案することができるようになる。 ３．領域、疾患、病期に適切なリスク管理や注意事項を挙げることができるようになる。 ４．適切な技術で評価を実施することができるようになる。
学修者への期待等	演習であるため、積極的に参加してほしい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	授業ガイダンスと作業療法プロセスの復習、評価と治療の考え方	領域の対象疾患とそれぞれの病期について復習しておくこと。（30分程度）	山口　志津枝
2	身体障害①：障害像（問題の捉え方）	各疾患の回復過程を復習しておくこと。（1時間程度）	山口　志津枝
3	身体障害②：障害像（生活機能障害）	各ADLの工程を列挙しておくこと。（1時間程度）	山口　志津枝
4	精神障害①：症状と障害	各疾患の回復過程を復習しておくこと。（30分程度）	須藤　あゆみ
5	精神障害②：評価・治療の考え方	各疾患の回復過程を復習しておくこと。（30分程度）	須藤　あゆみ
6	クリニカルリーズニングの概念と流れ	作業療法学概論 P148-150「作業療法における思考過程と態度」を読む。（30分程度）	齋藤　佑樹
7	身体障害・高齢期障害①：評価治療の考え方	前回の復習を十分行い授業に臨むこと。（30分程度）	齋藤　佑樹
8	身体障害・高齢期障害②：評価計画立案	前回の復習を十分行い授業に臨むこと。（30分程度）	齋藤　佑樹
9	身体障害・高齢期障害③：治療計画立案	前回の復習を十分行い授業に臨むこと。（30分程度）	齋藤　佑樹
10	精神障害③：症例の評価計画立案	第4・5回の内容の復習をしておくこと。（30分程度）	須藤　あゆみ
11	精神障害④：症例の治療計画立案	前回の復習を行い授業に臨むこと。（30分程度）	須藤　あゆみ
12	身体障害③：急性期の治療の実際	身体障害急性期の病態を復習しておくこと。（30分程度）	山口　志津枝 道又　顕
13	身体障害④：回復期の治療の実際	身体障害回復期の病態を復習しておくこと。（30分程度）	髙橋　慧 荒井　隆徳
14	身体障害⑤：高齢期の治療の実際・まとめ	身体障害高齢期の病態を復習しておくこと。（30分程度）	髙橋　慧
15	精神障害⑤：治療の実際	実際の治療場面をイメージできるように疾患の病態や評価、治療について復習しておくこと。（30分程度）	須藤　あゆみ 安達　健朗

教科書	1・2年次で購入した教科書を使用します。事前に連絡します。
参考文献	特になし
備考	課題のフィードバックは授業内に適宜行います。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	●

科目ナンバリング
RO-2-CLP-03

科目名	臨床実習Ⅲ（総合実習）				単位認定者	齋藤　佑樹		評価の方法	実習内容	100 ％
対象学科 必修・選択 配当年次	ＯＴ	必修	３年	開講時期	通年	単位数	7　単位			
						授業時間数	315　時間			
				授業形態	実習	授業回数	ー　回			

授業の概要	臨床実習Ⅲ(総合実習)では、診療参加型によって作業療法技能の向上を目指す。臨床実習指導者の指導のもと、対象者に対して、評価の実施から評価結果に対するアセスメント、問題点の抽出、治療目標の設定と治療プログラム立案、治療の実施から効果判定までの臨床過程を経験する。また、臨床的思考能力向上のために自発的に行動し、作業療法士としての自覚を高める。 実習の前後には、学内で客観的臨床能力試験（OSCE）を実施し、知識、技能、態度等を総合的に評価するとともに、実習後セミナーを通して臨床現場で身につけた知識の習熟を図っていく。
学修者への期待等	臨床実習にあたっての意義や目的は実習の手引き書の他に臨床実習ガイダンスや各授業においても示す。臨床実習ではこれまで学修した知識及び技術を総動員して主体的に臨むこと。また、記録の作成、提出期限の厳守や施設における規則・心得を守り、実習生として責任ある行動を取ること。

授業計画	準備学修
1.　実習期間 臨床実習：2022年5月23日～7月15日、学内実習：臨床実習前後に行う 2. 実習目的・目標 (1) 臨床実習施設の特性や施設における作業療法（士）の役割と機能を学ぶ。 1) 地域における実習施設の役割を述べることができる。 2) 臨床実習施設における作業療法（士）の役割と機能を述べることができる。 3) 臨床実習施設の特性を踏まえた作業療法（士）の役割を遂行することができる。 (2) 今まで学んだ作業療法の知識と技術・技能および態度を臨床場面に応用し、評価から治療までの基本を臨床実習指導者のもとで実践する。 1) 利用者の全体像把握のために必要な評価計画を立てることができる。評価から治療までの基本を臨床実習指導者のもとで実践する。 2) 選択した評価手段（検査・測定等）を適切に実施できる。 3) 検査・測定等の結果と利用者の生活を結び付けた解釈や判断ができる。 4) 利用者の全体像をまとめるために必要な情報を選択できる。 5) 選択した情報をもとに全体像をまとめることができる。 6) まとめた全体像から短期・長期目標を設定できる。 7) 短期・長期目標に基づいた治療計画を立案することができる。 8) 作業療法治療・指導を行うことができる。 9) 再評価・最終評価を行うことができる。 10) 利用者に実施した作業療法の一連の流れをまとめることができる。 (3) リハビリテーション・チームの一員としての役割を理解し、協調性のある態度を身につける。 1) リハビリテーション・チームを成立させるために必要な機能を説明できる。 2) リハビリテーション・チームの一員としての作業療法（士）の役割を説明できる。 3) リハビリテーション・チームにおける他職種の役割を説明できる。 4) リハビリテーション・チームの一員として、コミュニケーションを図ることができる。 5) 他職種と連携を取り、チームアプローチを実践できる。 (4) 作業療法士としての基本的な態度を修得し、専門職としての資質の向上・充実を図る。 1) 自ら計画を立て、自己の責任において積極的に課題を遂行することができる。 2) 必要に応じ、自ら進んで臨床指導者や他職員に報告、連絡、相談を行うことができる。 3) 自身の行動を振り返り、改善すべきところは、自ら対応策を考え実行することができる。 4) 助言や指摘、指導を素直に受け入れ、次の行動に活かすことができる。 5) 常に疑問を持ち、利用者への理解を深めるために自ら文献で調べる等、探究する姿勢をもつことができる。 6) 自身が目標とする作業療法（士）像を述べることができる。 (5) 施設や病院の組織をはじめ、リハビリテーション部門、作業療法部門の運営や、スタッフ間の連携の重要性を認識する。 1) 作業療法の診療報酬、介護報酬の意識を持ち業務を遂行できる。 2) スタッフと協働し、部門運営に参加することができる。 3. 実習計画 (1) 実習は作業療法士が従事している施設とする。 (2) 実習時間は1日を概ね8時間とする。 (3) 毎日の臨床実習記録を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。	ガイダンス及びセミナーに参加すること。

教科書	特に指定しない。
参考文献	「臨床実習の手引き」を配付する。
備考	成績は、実習セミナー（症例発表会、レポート作成等）、OSCEに実習生指導報告書の内容を踏まえて総合的に判断する。 担当者　作業療法学専攻教員：齋藤佑樹、山口志津枝、須藤あゆみ、戸田祐子、熊谷竜太、髙橋慧

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	●

科目ナンバリング
RO-2-CLP-04

科目名	臨床実習Ⅳ（総合実習）				単位認定者	齋藤　佑樹		評価の方法	実習内容	100 ％
対象学科 必修・選択 配当年次	ＯＴ	必修	３年	開講時期	通年	単位数	7　単位			
						授業時間数	315　時間			
				授業形態	実習	授業回数	ー　回			

授業の概要	臨床実習Ⅳ(総合実習)では、診療参加型によって作業療法技能の向上を目指す。臨床実習指導者の指導のもと、対象者に一連の作業療法を提供しながら、臨床現場における作業療法士の役割と責任について理解し、チームの一員として自覚を持って行動できるようになる。 実習の前後には、学内で客観的臨床能力試験（OSCE）を実施し、知識、技能、態度等を総合的に評価するとともに、実習後セミナーを通して臨床現場で身につけた知識の習熟を図っていく。
学修者への期待等	臨床実習にあたっての意義や目的は実習の手引き書の他に臨床実習ガイダンスや各授業においても示す。臨床実習ではこれまで学修した知識及び技術を総動員して主体的に臨むこと。また、記録の作成、提出期限の厳守や施設における規則・心得を守り、実習生として責任ある行動を取ること。

授業計画	準備学修
1. 実習期間 臨床実習：2022年8月29日～10月21日、学内実習：臨床実習前後に行う 2. 実習目的・目標 (1) 臨床実習施設の特性や施設における作業療法（士）の役割と機能を学ぶ。 1) 地域における実習施設の役割を述べることができる。 2) 臨床実習施設における作業療法（士）の役割と機能を述べることができる。 3) 臨床実習施設の特性を踏まえた作業療法（士）の役割を遂行することができる。 (2) 今まで学んだ作業療法の知識と技術・技能および態度を臨床場面に応用し、評価から治療までの基本を臨床実習指導者のもとで実践する。 1) 利用者の全体像把握のために必要な評価計画を立てることができる。評価から治療までの基本を臨床実習指導者のもとで実践する。 2) 選択した評価手段（検査・測定等）を適切に実施できる。 3) 検査・測定等の結果と利用者の生活を結び付けた解釈や判断ができる。 4) 利用者の全体像をまとめるために必要な情報を選択できる。 5) 選択した情報をもとに全体像をまとめることができる。 6) まとめた全体像から短期・長期目標を設定できる。 7) 短期・長期目標に基づいた治療計画を立案することができる。 8) 作業療法治療・指導を行うことができる。 9) 再評価・最終評価を行うことができる。 10) 利用者に実施した作業療法の一連の流れをまとめることができる。 (3) リハビリテーション・チームの一員としての役割を理解し、協調性のある態度を身につける。 1) リハビリテーション・チームを成立させるために必要な機能を説明できる。 2) リハビリテーション・チームの一員としての作業療法（士）の役割を説明できる。 3) リハビリテーション・チームにおける他職種の役割を説明できる。 4) リハビリテーション・チームの一員として、コミュニケーションを図ることができる。 5) 他職種と連携を取り、チームアプローチを実践できる。 (4) 作業療法士としての基本的な態度を修得し、専門職としての資質の向上・充実を図る。 1) 自ら計画を立て、自己の責任において積極的に課題を遂行することができる。 2) 必要に応じ、自ら進んで臨床指導者や他職員に報告、連絡、相談を行うことができる。 3) 自身の行動を振り返り、改善すべきところは、自ら対応策を考え実行することができる。 4) 助言や指摘、指導を素直に受け入れ、次の行動に活かすことができる。 5) 常に疑問を持ち、利用者への理解を深めるために自ら文献で調べる等、探究する姿勢をもつことができる。 6) 自身が目標とする作業療法（士）像を述べることができる。 (5) 施設や病院の組織をはじめ、リハビリテーション部門、作業療法部門の運営や、スタッフ間の連携の重要性を認識する。 1) 作業療法の診療報酬、介護報酬の意識を持ち業務を遂行できる。 2) スタッフと協働し、部門運営に参加することができる。 3. 実習計画 (1) 実習は作業療法士が従事している施設とする。 (2) 実習時間は1日を概ね8時間とする。 (3) 毎日の臨床実習記録を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。	ガイダンス及びセミナーに参加すること。

教科書	特に指定しない。
参考文献	「臨床実習の手引き」を配付する。
備考	成績は、実習セミナー（症例発表会、レポート作成等）、OSCEに実習生指導報告書の内容を踏まえて総合的に判断する。 担当者　作業療法学専攻教員：齋藤佑樹、山口志津枝、須藤あゆみ、戸田祐子、熊谷竜太、髙橋慧

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	●

科目ナンバリング
RO-2-CLP-05

科目名	地域作業療法実習				単位認定者	齋藤　佑樹		評価の方法	実習内容	100 ％
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	必修	３年	開講時期	通年	単位数	1　単位			
						授業時間数	45　時間			
				授業形態	実習	授業回数	ー　回			

授業の概要	通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションにて、地域包括ケアシステムの中で、作業療法士に求められる役割やマネジメント等について学修する。
学修者への期待等	臨床実習にあたっての意義や目的は実習の手引き書の他に臨床実習ガイダンスや各授業においても示す。臨床実習ではこれまで学修した知識及び技術を総動員して主体的に臨むこと。また、記録の作成、提出期限の厳守や施設における規則・心得を守り、実習生として責任ある行動を取ること。

授業計画	準備学修
1. 実習期間 臨床実習：2022年7月25日（月）～8月5日（金）のうち5日間。 2. 実習目的・目標 (1) 地域における施設の役割や臨床実習施設における作業療法（士）の役割と機能を学ぶ。 1) 地域における実習施設の役割を述べることができる。 2) 臨床実習施設における作業療法（士）の役割と機能を述べることができる。 3) 地域における臨床実習施設の役割と作業療法（士）の役割を遂行することができる。 (2) リハビリテーション・チームの一員としての役割を理解し、協調性のある態度を身につける。 1) リハビリテーション・チームを成立させるために必要な機能を説明できる。 2) リハビリテーション・チームの一員としての作業療法（士）の役割を説明できる。 3) リハビリテーション・チームにおける他職種の役割を説明できる。 4) リハビリテーション・チームの一員として、コミュニケーションを図ることができる。 5) 他職種と連携を取り、チームアプローチを実践できる。 (3) 作業療法士としての基本的な態度を修得し、専門職としての資質の向上・充実を図る。 1) 自ら計画を立て、自己の責任において積極的に課題を遂行することができる。 2) 必要に応じ、自ら進んで臨床指導者や他職員に報告、連絡、相談を行うことができる。 3) 自身の行動を振り返り、改善すべきところは、自ら対応策を考え実行することができる。 4) 助言や指摘、指導を素直に受け入れ、次の行動に活かすことができる。 5) 常に疑問を持ち、利用者への理解を深めるために自ら文献で調べる等、探究する姿勢をもつことができる。 6) 自身が目標とする作業療法（士）像を述べることができる。 (4) 実習施設の組織をはじめ、リハビリテーション部門、作業療法部門の運営や、スタッフ間の連携の重要性を認識する。 1) 作業療法の診療報酬、介護報酬の意識を持ち業務を遂行できる。 2) スタッフと協働し、部門運営に参加することができる。 3) リスクマネジメントができる。 3. 実習計画 (1) 実習は作業療法士が従事している施設とする。 (2) 実習時間は1日を概ね8時間とする。 (3) 毎日の臨床実習記録を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。	ガイダンス及びセミナーに参加すること。

教科書	特に指定しない。
参考文献	「臨床実習の手引き」を配布する。
備考	成績は、実習セミナー、実習生指導報告書等の内容を踏まえて総合的に判断する。 担当者　作業療法学専攻教員：齋藤佑樹、山口志津枝、須藤あゆみ、戸田祐子、熊谷竜太、髙橋慧

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	●

科目ナンバリング
RO-2-CBO-03

科目名	保健医療福祉連携論			単位認定者	須藤　あゆみ		評価の方法	授業内課題（レポート）	100 ％
対象学科 必修･選択 配当年次	ＰＴ	必修	３年	開講時期	後期	単位数	1　単位		
	ＯＴ	必修	３年			授業時間数	30　時間		
				授業形態	演習	授業回数	15　回		

授業の概要	包括的なリハビリテーションを行うためには、多くの医療専門職との連携が不可欠である。さらに、医療専門職だけでなく、保健・医療・福祉領域の関連職種との連携が重要である。 本講義では、多くの関連専門職とその役割を知り、専門職間の連携の重要性について理解する。
到達目標	1. 他の関連専門職の専門性を理解できるようになる。 2. 他の専門職と協働し、同じ目標を共有することで自らが目指している職種の専門性を再確認する。
学修者への期待等	本講義はグループ学修中心の講義である。グループ学修においては積極的な意見交換を期待しています。また、療法士免許取得後も、実際の現場にて、率先して多職種連携を行えるようになることを期待しています。

回	授業計画	準備学修	担当
1	多職種連携とは	配付資料の復習をすること（概ね30分）	佐直信彦
2	他職種の専門性を知る[1]看護師	授業の内容をまとめる。（概ね30分）	他学科教員 大橋　孝子 須藤あゆみ 戸田祐子 森永雄 荒牧隼浩
3	他職種の専門性を知る[2]言語聴覚士	授業の内容をまとめる。（概ね30分）	
4	他職種の専門性を知る[3]栄養士	授業の内容をまとめる。（概ね30分）	
5	他職種の専門性を知る[4]歯科衛生士	授業の内容をまとめる。（概ね30分）	
6	連携する際の工夫を考える〔１〕グループワーク	発表資料の作成準備をする。（毎回概ね30分）	
7	連携する際の工夫を考える〔２〕発表		
8	連携の実際を学ぶ［1］ゲストスピーカー	授業内容をまとめる（概ね30分程度）	ゲストスピーカー 大橋孝子
9	連携の実際を学ぶ［2］ゲストスピーカー	授業内容をまとめる（概ね30分程度）	
10	連携の実際を学ぶ［3］ゲストスピーカー	授業内容をまとめる（概ね30分程度）	
11	事例検討［1］事例提示	発表資料の作成準備をする。（毎回概ね30分）	大橋孝子 須藤あゆみ 戸田祐子 森永雄 荒牧隼浩
12	事例検討［2］グループワーク		
13	事例検討［3］発表準備　グループワーク		
14	事例検討［4］発表1		
15	事例検討［5］発表2		

教科書	配付資料
参考文献	「信念対立解明アプローチ入門―チーム医療・多職種連携の可能性をひらく」京極真、中央法規
備考	ＰＴ・ＯＴ合同授業 課題のフィードバックは授業内に適宜行います。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
須藤：保健・医療・福祉領域の関連職種との連携において、十分な実務経験を有す

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	●

科目ナンバリング
RO-3-SPS-01

科目名	専門支持科目特別演習				単位認定者	齋藤　佑樹		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	自由	３年	開講時期	通年	単位数	2　単位			
						授業時間数	60　時間			
				授業形態	演習	授業回数	30　回			

授業の概要	本講義では、卒業後の活動における理学療法士・作業療法士として必要な総合的能力を統合することを目的とする。とくに、基礎医学・臨床医学分野に関して3年間で学んだ基礎的な知識および技術を整理し、専門職として活躍できるよう学修する。
到達目標	1.臨床医学分野に関して3年間で学んだ知識と技術を整理し、臨床応用ができるようになる。 2.臨床医学の知識と技術を修得し、作業療法を実践的に展開できるようになる。
学修者への期待等	1.授業で使用する資料に従って予習すること。 2.復習は授業の終わったその日のうちに必ず行うこと。 3.授業で理解できなかったところはそのままにせず、自分でも調べ、疑問は質問すること。

回	授業計画	準備学修	担当
1	解剖生理学（植物機能）1　発生と組織、代謝	事前に配信される問題を解いて授業に臨むこと。（概ね60分程度）	山口　志津枝
2	解剖生理学（植物機能）2　循環器系（動脈・静脈、血液）		山口　志津枝
3	解剖生理学（植物機能）3　循環器系（心臓、循環の生理）		山口　志津枝
4	解剖生理学（植物機能）4　消化器系		齋藤　佑樹
5	解剖生理学（植物機能）5　呼吸器系		齋藤　佑樹
6	解剖生理学（植物機能）6　泌尿器系、内分泌系		髙橋　慧
7	解剖生理学（動物機能）1　中枢神経		齋藤　佑樹
8	解剖生理学（動物機能）2　末梢神経		齋藤　佑樹
9	解剖生理学（動物機能）3　骨格筋		山口　志津枝
10	解剖生理学（動物機能）4　感覚		戸田　祐子
11	運動機能学1　骨、関節、神経		山口　志津枝
12	運動機能学2　上肢、体幹		山口　志津枝
13	運動機能学3　下肢　歩行		山口　志津枝
14	運動機能学4　バイオメカニクス　他		山口　志津枝
15	人間発達学		熊谷　竜太

回	授業計画	準備学修	担当
16	精神医学1　精神症状		須藤　あゆみ
17	精神医学2　統合失調症他		須藤　あゆみ
18	精神医学3　認知症		須藤　あゆみ
19	病理学1　感染		熊谷　竜太
20	病理学2　炎症、腫瘍		熊谷　竜太
21	病理学3　病理所見、病因		熊谷　竜太
22	整形外科学1　骨折、関節リウマチ、OA		髙橋　慧
23	整形外科学2　脊柱・脊損、切断　他	事前に配信される問題を解いて授業に臨むこと。（概ね60分程度）	髙橋　慧
24	内科学1　循環器疾患、代謝性疾患、呼吸器疾患		髙橋　慧
25	内科学2　消化器疾患、内分泌疾患、肝疾患　他		髙橋　慧
26	臨床心理学1　防衛機制、学習理論		熊谷　竜太
27	臨床心理学2　心理検査・心理療法		熊谷　竜太
28	神経内科学1　脳血管障害、高次脳機能障害		戸田　祐子
29	神経内科学2　末梢神経障害、筋疾患、変性疾患他		戸田　祐子
30	リハビリテーション医学（臨床リハ医学）		熊谷　竜太
教科書	1・2年次で購入した教科書を使用		
参考文献	後日指定する		
備考			

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	●

科目ナンバリング
RO-3-SPS-02

科目名	専門展開科目特別演習				単位認定者	齋藤　佑樹		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	ＯＴ	自由	３年	開講時期	通年	単位数	2　単位			
						授業時間数	60　時間			
				授業形態	演習	授業回数	30　回			

授業の概要	本講義では、卒業後の活動における作業療法士として必要な総合的能力を統合することを目的とする。とくに、作業療法学の専門分野に関して3年間で学んだ基礎的な知識および技術を整理し、専門職として活躍できるよう学修する。
到達目標	作業療法士として、各疾患に対する作業療法の実施に必要な知識・技術が展開できるようになる。
学修者への期待等	今まで学んだすべての知識、技術を整理・統合するため、予習・復習が必須です。学修計画をきちんと立て、計画性を持って取り組んでください。

回	授業計画	準備学修	担当
1	基礎医学復習	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	山口 志津枝
2	臨床医学復習	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	山口 志津枝
3	作業療法評価学①（ROM、MMT、知覚検査）	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	戸田 祐子
4	作業療法評価学②（意識障害、バランス、ADL）	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	戸田 祐子
5	作業療法評価学③（高次脳機能）	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	戸田 祐子
6	作業療法評価学④（精神障害）	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	須藤　あゆみ
7	作業療法評価学⑤（老年期障害）	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	髙橋　慧
8	作業療法評価学⑥（発達障害）	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	熊谷 竜太
9	身体障害領域の作業療法①　脳血管障害	脳血管障害の概要を復習し、授業に臨むこと。（１時間程度）	山口 志津枝
10	身体障害領域の作業療法②　高次脳機能障害	脳血管障害の作業療法の章を復習し、授業に臨むこと。（１時間程度）	齋藤 佑樹
11	身体障害領域の作業療法③　神経筋疾患	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	戸田 祐子
12	身体障害領域の作業療法④　整形疾患（骨折、絞扼性神経障害、末梢神経損傷）	主要な整形疾患の概要を復習し、授業に臨むこと。（１時間程度）	山口 志津枝
13	身体障害領域の作業療法⑤　整形疾患（関節リウマチ、熱傷　他）	主要な整形疾患の作業療法の章を復習し、授業に臨むこと。（２時間程度）	山口 志津枝
14	身体障害領域の作業療法⑥　呼吸器疾患・循環器疾患	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	髙橋　慧
15	身体障害領域の作業療法⑦　脊髄損傷	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	齋藤 佑樹

回	授業計画	準備学修	担当
16	精神障害領域の作業療法①　統合失調症　気分障害	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	須藤 あゆみ
17	精神障害領域の作業療法②　神経症性障害他	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	須藤 あゆみ
18	精神障害領域の作業療法③　摂食障害・パーソナリティ障害	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	須藤 あゆみ
19	精神障害領域の作業療法④　アルコール依存・薬物依存他	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	須藤 あゆみ
20	精神障害領域の作業療法⑤　精神障害領域における制度	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	熊谷 竜太
21	高齢期障害領域の作業療法①　加齢変化による障害・住宅改修	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	戸田 祐子
22	高齢期障害領域の作業療法②　認知機能障害	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	戸田 祐子
23	高齢期障害領域の作業療法③　高齢期に関わる制度	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	髙橋　慧
24	発達障害領域の作業療法① 正常発達、脳性麻痺	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	熊谷 竜太
25	発達障害領域の作業療法②　その他の主要疾患	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	熊谷 竜太
26	義肢装具学	これまで使用した教科書の義肢装具学の章を読んで授業に臨むこと。（１時間程度）	山口 志津枝
27	福祉機器、住宅改修	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	髙橋　慧
28	画像関連	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	齋藤 佑樹
29	研究法、関連法規	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	齋藤 佑樹
30	作業療法概論、作業活動、まとめ	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	須藤　あゆみ
教科書	１・２年次に購入した教科書を使用します。詳細については事前に連絡します。		
参考文献	後日指定する。		
備考			

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

リハビリテーション学科

- ナンバリング
- 学科教員一覧
- 実務を有する教員一覧
- オフィスアワー

リハビリテーション学科作業療法学専攻のナンバリングの見方

【例】RO-1-○○○-01

RO	-	1	-	○○○	-	01
①	半角[-]	②	半角[-]	③	半角[-]	④

① 学科（専攻）識別番号　（全学共通教養科目も独立した略称）
半角アルファベット（大文字）2 桁
全学共通教養教育科目：CO
リハビリテーション学科作業療法学専攻：RO

② 科目レベル
半角数字 1 桁
教養科目：0（全学共通教養科目も学科独自教養科目も同じ）
専門基礎科目：1
専門展開科目：2
特別科目：3

③ 科目分類
半角アルファベット（大文字）3 桁

教養教育分野	人間と文化		HCU	Human & Culture
	人間と社会		HSO	Human & Society
	人間と科学		HSC	Human & Science
専門教育分野	専門支持科目	人体の構造・機能と発達	BSF	Body Structure & Function
		疾病の成り立ちと回復	D&R	Disease & Recovery
		保健医療福祉とリハビリテーション	H&R	Health & Rehabilitation
	専門展開科目	基礎作業療法学	BOT	Basic OT
		作業療法管理学	MNO	Management of OT
		作業療法評価学	ASO	Assessment of OT
		作業治療学	TOT	Treatment of OT
		臨床実習	CLP	Clinical Practice
		地域作業療法	CBO	Community Based OT
	特別科目		SPS	Special Seminar

④ 連続番号
半角数字 2 桁

全学共通教養教育科目は全学科、以下のナンバリングを使用する。

科目名称	ナンバリング
日本語表現法	CO-0-HCU-01
英語Ⅰ	CO-0-HCU-02
歴史と文化	CO-0-HCU-03
大学生活論	CO-0-HSO-01
暮らしの中の法律	CO-0-HSO-02
現代の社会	CO-0-HSO-03
情報処理	CO-0-HSC-01

リハビリテーション学科作業療法学専攻は以下のナンバリングを使用する。

教養教育分野	人間と文化 0 HCU		日本語表現法	CO-0-HCU-01
			コミュニケーション論	RO-0-HCU-01
			英語Ⅰ	CO-0-HCU-02
			英語Ⅱ	RO-0-HCU-02
			歴史と文化	CO-0-HCU-03
	人間と社会 0 HSO		大学生活論	CO-0-HSO-01
			暮らしの中の法律	CO-0-HSO-02
			現代の社会	CO-0-HSO-03
			心理学概論	RO-0-HSO-01
	人間と科学 0 HSC		情報処理	CO-0-HSC-01
			生物学	RO-0-HSC-01
			物理学	RO-0-HSC-02
			健康スポーツ科学	RO-0-HSC-03
専門教育分野	専門支持科目 1	人体の構造・機能と発達 BSF	解剖学	RO-1-BSF-01
			解剖学演習	RO-1-BSF-02
			解剖学実習	RO-1-BSF-03
			生理学Ⅰ	RO-1-BSF-04
			生理学Ⅱ	RO-1-BSF-05
			生理学実習	RO-1-BSF-06
			運動学	RO-1-BSF-07
			運動学演習	RO-1-BSF-10
			運動学実習	RO-1-BSF-08
			人間発達学	RO-1-BSF-09
		疾病の成り立ちと回復 D&R	病理学	RO-1-D&R-01
			医学概論	RO-1-D&R-02
			内科学	RO-1-D&R-03
			リハビリテーション栄養学	RO-1-D&R-04
			神経学	RO-1-D&R-05
			臨床医学特論	RO-1-D&R-12
			小児科学	RO-1-D&R-06
			整形外科学総論	RO-1-D&R-07
			精神医学総論	RO-1-D&R-08
			精神医学各論	RO-1-D&R-09
			老年学	RO-1-D&R-13
			臨床心理学	RO-1-D&R-10
			救急救命医学	RO-1-D&R-11
		保健医療福祉とリハビリテーション H&R	公衆衛生学	RO-1-H&R-03
			社会福祉概論	RO-1-H&R-02
			医療関連法規	RO-1-H&R-04
			リハビリテーション概論	RO-1-H&R-01
	専門展開科目 2	基礎作業療法学 BOT	作業療法概論	RO-2-BOT-01
			作業科学	RO-2-BOT-02
			作業療法理論	RO-2-BOT-04
			基礎作業学演習	RO-2-BOT-03
			作業療法研究法	RO-2-BOT-05
		作業療法管理学 MNO	作業療法管理学	RO-2-MNO-01
			作業療法管理学演習	RO-2-MNO-02
		作業療法評価学 ASO	作業療法評価学原論	RO-2-ASO-01
			身体機能作業療法評価学実習	RO-2-ASO-02
			精神機能作業療法評価学実習	RO-2-ASO-03
			疾患別作業療法評価学実習Ⅰ	RO-2-ASO-04
			疾患別作業療法評価学実習Ⅱ	RO-2-ASO-05
		作業治療学 TOT	作業療法治療学	RO-2-TOT-01
			作業療法治療学演習	RO-2-TOT-02
			身体機能作業療法学実習	RO-2-TOT-06
			精神機能作業療法学実習	RO-2-TOT-07
			病期別作業療法学実習Ⅰ	RO-2-TOT-08
			病期別作業療法学実習Ⅱ	RO-2-TOT-09
			病期別作業療法学実習Ⅲ	RO-2-TOT-10
			作業療法基礎演習	RO-2-TOT-03
			作業療法応用演習	RO-2-TOT-11
			作業療法総合演習	RO-2-TOT-16
			高次神経障害作業療法学	RO-2-TOT-12
			日常生活活動学	RO-2-TOT-04
			社会生活行為学演習	RO-2-TOT-13
			義肢装具学	RO-2-TOT-14
			臨床作業療法演習Ⅰ	RO-2-TOT-05
			臨床作業療法演習Ⅱ	RO-2-TOT-15
			臨床作業療法演習Ⅲ	RO-2-TOT-17
		臨床実習 CLP	臨床実習Ⅰ（体験実習）	RO-2-CLP-01
			臨床実習Ⅱ（評価実習）	RO-2-CLP-02

			臨床実習Ⅲ（総合実習）	RO-2-CLP-03
			臨床実習Ⅳ（総合実習）	RO-2-CLP-04
			地域作業療法実習	RO-2-CLP-05
		地域作業療法 CBO	地域リハビリテーション論	RO-2-CBO-01
			職業リハビリテーション論	RO-2-CBO-02
			保健医療福祉連携論	RO-2-CBO-03
	特別科目 3 SPS		専門支持科目特別演習	RO-3-SPS-01
			専門展開科目特別演習	RO-3-SPS-02

リハビリテーション学科　学科教員一覧

	職位	氏名	電話番号	E-mail
1	特任教授	さじき　のぶひこ 佐直　信彦	022-308-2071 （代表）	n_sajiki@seiyogakuin.ac.jp
2	教授 学科長兼 PT専攻長	おおわだ　ひろみ 大和田　宏美		h_oowada@seiyogakuin.ac.jp
3	教授 副学科長兼 OT専攻長	さいとう　ゆうき 齋藤　佑樹		yu_saitou@seiyogakuin.ac.jp
4	教授	おぎはら　ひさよし 荻原　久佳		未定
5	准教授	やまぐち　しずえ 山口　志津枝		s_yamaguchi@seiyogakuin.ac.jp
6	准教授	おおはし　たかこ 大橋　孝子		t_oohashi@seiyogakuin.ac.jp
7	講師	すとう　あゆみ 須藤　あゆみ		a_sutou@seiyogakuin.ac.jp
8	講師	さかがみ　ひさお 坂上　尚穂		h_sakagami@seiyogakuin.ac.jp
9	講師	こせき　とものり 小関　友記		tm_koseki@seiyogakuin.ac.jp
10	講師	みやもと　ひろき 宮本　浩樹		h_miyamoto@seiyogakuin.ac.jp
11	講師	とだ　ゆうこ 戸田　祐子		y_toda@seiyogakuin.ac.jp
12	講師	いとう　だいすけ 伊藤　大亮		未定
13	助教	もりなが　ゆう 森永　雄		y_morinaga@seiyogakuin.ac.jp
14	助教	くまがい　りゅうた 熊谷　竜太		r_kumagai@seiyogakuin.ac.jp
15	助教	すずき　ゆうじ 鈴木　裕治		y_suzuki@seiyogakuin.ac.jp
16	助教	ささき　ひろと 佐々木　広人		ht_sasaki@seiyogakuin.ac.jp
17	助教	たかはし　さとし 髙橋　慧		s_takahashi@seiyogakuin.ac.jp
18	助教	あらまき　よしひろ 荒牧　隼浩		y_aramaki@seiyogakuin.ac.jp
19		こまつ　よしのり 小松　佳路		未定

リハビリテーション学科　作業療法学専攻　実務経験を有する教員の科目一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
解剖学	2	山口　志津枝	総合病院にて作業療法の臨床・教育・研究に長年従事してきた。作業療法対象者の状態把握から治療のための基礎としてはもちろん、臨床実習指導者として学生教育を通し見聞を深めてきた。この経験をもとに講義を担当する。
解剖学演習	1	山口　志津枝	総合病院にて作業療法の臨床・教育・研究に長年従事してきた。作業療法対象者の状態把握から治療のための基礎としてはもちろん、臨床実習指導者として学生教育を通し見聞を深めてきた。この経験をもとに講義を担当する。
運動学	2	山口　志津枝	総合病院にて作業療法の臨床・教育・研究に長年従事してきた。作業療法対象者の状態把握から治療のための基礎としてはもちろん、臨床実習指導者として学生教育を通し見聞を深めてきた。この経験をもとに講義を担当する。
人間発達学	1	大橋　孝子	実務経験の概要：健常の子どもの相談支援や、発達障害に対する理学療法、相談支援等について経験している。 実務経験と授業科目との関連性：人間の発達について、様々な観点から教授する。
医学概論	1	佐直　信彦	医学部卒業後東北大学医学部付属鳴子分院にてリハビリテーション医学の臨床・教育・研究に携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事した。この経験をもとに講義6-15を担当する。
神経学	2	佐直　信彦	医学部卒業後東北大学医学部付属鳴子分院にてリハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事し、リハビリテーション科専門医、脳卒中専門医等を取得した。この経験をもとに講義を担当する。
臨床医学特論	1	荒牧　隼浩	医療機関において、講義内容の「疼痛」「がん」「皮膚障害」に関する実務経験を有する教員により授業を実施する。
老年学	1	佐直　信彦	医学部卒業後東北大学医学部付属鳴子分院にて内科学全般、リハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事し、リハビリテーション科専門医・脳卒中専門医等を取得した。その後、前任地の4年制大学のリハビリテーション学科教授を13年間務めた。この経験をもとに講義を担当する。
リハビリテーション概論	1	佐直　信彦	医学部卒業後東北大学医学部付属鳴子分院にてリハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事し、リハビリテーション科専門医等を取得した。その傍ら宮城県リハビリテーション協議会会長として宮城県の地域リハビリテーションの構築にかかわった。この経験をもとに講義を担当する。
作業療法概論	1	齋藤　佑樹	総合病院で主に身体障害領域の作業療法を長年実施してきた。また、作業療法の概論的知識を網羅した本講義の指定教科書も科目責任者の編集である。これらの経験を活かし、歴史的変遷や潮流も踏まえながら作業療法の構造について講義を行う。
作業科学	1	齋藤　佑樹	総合病院で主に身体障害領域の作業療法を長年実施してきた。また、日本作業科学研究会主催、第17回作業科学セミナー大会長を経験している。これらの経験を活かし、作業療法の中核概念である作業を科学的知見から紐解いていく。
作業療法理論	1	齋藤　佑樹	総合病院で理論を基盤とした実践を長年行ってきた。また、作業療法の理論を概観できる本講義の指定教科書も科目責任者の編集である。
基礎作業学演習	2	熊谷　竜太	精神障害領域での作業療法に長年従事してきた。この経験をもとに授業を担当する。
作業療法研究法	1	齋藤　佑樹	目標設定やロボティクス分野にて様々な研究に従事し、国内・外の雑誌に研究論文が掲載されている。
作業療法評価学原論	1	戸田　祐子	高齢期領域の作業療法に従事し、作業療法対象者の評価をもとに生活に着目した作業療法を実践してきた。また、臨床実習指導者として学生の教育にも携わってきた。これらの経験をもとに講義を担当する。
身体機能作業療法評価学実習	1	山口　志津枝	身体障害領域や高齢期領域での作業療法に長年従事し、作業療法対象者の状態把握から治療のための基礎としてはもちろん、臨床実習指導者として学生教育を通し評価についての見聞を深めてきた。この経験をもとに講義を担当する。
精神機能作業療法評価学実習	1	熊谷　竜太	それぞれ精神障害領域での作業療法に長年従事してきた。その経験を活かし、作業療法対象者の状態把握ための評価について体験を通し、わかりやすく教授する。
作業療法治療学	1	齋藤　佑樹	総合病院に勤務しながら、長年身体障害領域の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、作業療法プロセスや介入の実際について講義を行う。
病期別作業療法学実習Ⅲ	1	熊谷　竜太	身体障害、高齢期、精神障害などの各領域で作業療法に長年従事してきた。その経験を活かし、作業療法対象者の状態に合わせた介入等について、わかりやすく教授する。
臨床作業療法演習Ⅰ	2	熊谷　竜太	身体障害、高齢期、精神障害などの各領域で作業療法に長年従事してきた。その経験を活かし、作業療法対象者の状態把握ための評価について体験を通し、わかりやすく教授する。
保健医療福祉連携論	1	須藤　あゆみ	保健・医療・福祉領域の関連職種との連携において、十分な実務経験を有す
	26	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
	93	設置基準上の標準単位数	

2022(令和4)年度 オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、 個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（１階事務室隣にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

成績評価

成績評価基準は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格 （単位認定）	秀（AA）	90点以上	4
	優（A）	80点以上90点未満	3
	良（B）	70点以上80点未満	2
	可（C）	60点以上70点未満	1
不合格 （単位認定不可）	不可（D）	60点未満（※）	0
	評価不能（E）	（1）履修規程第６条第５項により、受験資格を有しない者 （2）資格取得に係る実習で、各学科が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

（※）再試験で合格の場合の成績評価は可（C）、GP は１ポイントとなります。